

山  
ぎ  
ら

第53号 令和4年11月  
関東氷上郷友会



# 三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向990-1

コロナ禍に巻き込まれた今年の日本  
対策に余念の無い毎日と存じます  
衷心より御見舞申し上げます

令和新時代を迎えて「安全・安心・朗らかに」を旗印にご期待に応じて参ります。



本店 新社屋(敷地面積4,000坪、建物面積2,000坪) 平成23年10月1日完成



関東発一関西行の風景  
出発直前の大型トラック部隊

毎日200台の車輛群が東海道を  
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

三井化学(株) 味の素(株) ダイキン工業(株) アサヒビール(株) 三菱商事(株)  
キリンビール(株) 沖電気工業(株) 古河電工(株) ハウス食品(株) 帝人(株)  
新神戸電機(株) (株)東芝 キュービー(株) (株)ブリヂストン 江崎グリコ(株)

# 三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本 勲(氷上町出身)

本 店 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (728) 9380  
E-mail : sankyounyu\_saitama@h6.dion.ne.jp  
本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (729) 0466  
大阪支店 大阪府大東市新田中町3-3 TEL. 072 (806) 2821

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪



山ぎら

第53号

## 山ざる 第53号 目次

〈表紙〉笹倉鉄平画「田植えのころ」／〈扉〉写真Ⅱ岡 吉明

ご挨拶……岸本 勲 5

会計報告書……6

祝寿の方々ご紹介……7

### 《近況・エッセイ 特集 3年目のコロナ禍》

最後の砦を守りたい！下町の総合診療医の記録……藤本和幸 15

新型コロナの感染きっかけに加速した「ジバーズ」の演奏活動……田村公平 19

ニューヨークコロナ便り……井徳正吾 23

恩田川沿いを歩いて……谷口浩章 26

### 《インタビュコーナー》

平田岳史さん 「人生は全て偶然の結果」隕石研究から認知症の検査装置開発へ……編集部 29

### 《近況・エッセイ》

デビュー35周年を迎えて……足立さつき 34

四津さんの樹海ドーム……浅倉成樹 36

金婚式記念家族旅行……足立松子 39

『Conundrum (コナンドラム) の謎』「しっとってけー」発刊に寄せて……山口敏之 40

定年後の子育てアドバイザー……大城戸しず代 44

歌曲への挑戦〜合唱への参加記録……谷 敬三 47

《私の職場》

春夏秋「灯」……近藤和行 54

《丹波から》

第九を丹波市の風物詩に！「30人の第九」演奏会顛末記……多川眞 78

いつまでも自然豊かな丹波に！……荻野拓司 83

《丹波ブランド紹介》

その13「丹波 婦木農場」……荻野祐一 86

《丹波人物伝》

武庫川女子大学校祖・公江喜市郎翁

女子教育の礎を築いた人生……足立敏昭 91

《丹波通信》

「芦田均日記」から読み解く芦田均と島崎藤村……荻野祐一 96

《山ぎる研究》

明治時代の柏原中学生……徳田八郎衛 101

《山ぎる文芸》俳壇・詩座・歌壇……57

《MY Gallery》森田栄子／高見美智子／山口敏之／由良りえこ……65

《簡単レシビ》松永則子／富田貞子……69

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 71

ふるさとトピックス（丹波新聞）から 井徳正吾……77

BOOKS……106 MOVIES……109

会員だより……110 同窓会だより……112 インフォメーション……114

寄附者芳名……115 《協賛広告》……116 編集後記……128

降

粉雪

たんば乃

ゆき

垣や木の股に



降れ降れ粉雪

たんばのこゆき

垣や木の股に

『徒然草』 第百八十一段

書は藤原ひと子さん

## ご挨拶

会長 岸本 勲



会員の皆様、コロナ対策に余念の無い毎日をお送りかと存じ上げます。衷心よりお見舞い申し上げます。

さて令和4年の初頭よりコロナ対策に加えて、ウクライナ問題が勃発し、世界経済は大混乱に陥つ

ております。昨秋に就任された岸田首相は国難を乗り切るべく「新しい資本主義」を打ち出し、日本を盛り立てようとしておられます。果たしてこれで国民生活の向上は望めるでしょうか。

バブル経済の破綻以降、低迷が続く日本経済は「失われた30年」とも言われています。賃金の低迷、中間所得層の弱体化、所得格差の広がりで長期停滞が続きました。アベノミクスによる需要喚起策は一応の成果を得ましたが、日本経済の構造を変えるだけの力はなく、経済成長率は低迷を続けるばかりでした。

菅政権ではカーボンニュートラルを宣言したほか、デジタル政策を具現化するために「デジタル庁」を設置しました。岸田政権では子供に関する政策を充実させようと「こども家庭庁」の設置を決め、省庁改革に力を注いでいます。

しかし日本経済の構造を変えないと人々が望む成果は得られません。低成長やデフレ状況が続き、貧困や中間層の弱体化が続くばかりです。急いで供給側の構造改革に取り組み

ばなりません。供給側の改革の基本は潜在成長率向上です。労働増加、資本増加、高い生産性が必要になります。日本経済の成長率を上げないと給与増加も社会保障制度の見直しも実現しません。克服するための具体策を労働、資本、生産性の3点から考えてみます。

労働力は一人ひとりの労働者の能力を高めれば、労働力全体も拡大します。デジタル技術の革新を進めて、労働者の質を高めなくてはなりません。

教育機会を増やしてそれぞれの人的資本を向上させることも大切です。人的資本の投資を増やすことが中間所得層を厚くします。教育や人的資本への投資こそが新しい資本主義につながる重要な道ではないでしょうか。

資本増加も重要です。日本の潜在成長率鈍化の原因は企業の投資不足です。デジタル化の加速や気候変動対策などの民間投資を刺激するための産業政策を望みたいものです。新しい資本主義に期待すべきは、健全な資本主義の機能を取り戻すことだと考えます。

勿論、成長の基本である企業の生産性の伸びを高めなければなりません。経済の新陳代謝も必要です。いま日本の職場は元気を失って久しく、労働生産性は主要七カ国（G7）の中で最下位です。日本企業は成長力回復に向け人的資本を重視した経営に舵を切る時です。

七月に入り、コロナ第七波の急拡大が顕著になりました。このような中、役員会に諮問の結果、総会中止が決まりました。くれぐれもご自愛下さりますよう、お祈り申し上げます。

# 会 計 報 告 書

(2021年7月1日～2022年6月30日)

関東氷上郷友会  
 会計担当副会長・谷口 浩章  
 理事・原谷 洋美

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	1,518,965	郵便貯金 718,965	出版費	824,372	『山ざる』52号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	127,680	総会・役員会案内等
		振替貯金 0	総会費	0	総会関係支払
年会費	362,000	181名	会議費	55,638	役員会等
総会費	0	-	手数料	110	硬貨手数料
会議費	49,000	17名	消耗・備品費	66,781	事務品・広告費・慶弔費
寄付金	255,500	75名	繰越金	1,689,301	郵便貯金 889,301
広告料	515,000	44名			定額貯金 800,000
冊子代	57,800				振替貯金 0
その他	5,617	利子(含10年満期分)			
合計	2,763,882		合計	2,763,882	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2022年7月15日

会計監査

山本喜則 

谷 敬三 



## 祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員の祝寿のお祝いをしています。しかし、この3年間はコロナ禍で総会が開催できず、今年も「山登る」誌上でのお祝いとなりました。今年、その対象となられる49名に以下の項目でアンケートをお願いしたところ、12名の方々から回答をいただきました。(誕生日順、表記はアンケート返信のまま)

- ①生年月日
- ②ご出身地
- ③上京の年月日
- ④上京の動機
- ⑤これまでに最も印象に残ることは
- ⑥祝寿を迎えられてひと言

対象年（昭和17年・壬午・1942年〜昭和18年・癸未1943年・3月）とはどんな年？  
第二次世界大戦中。味噌、醤油の切符配給制、衣類の点数切符制実施。金属回収令で寺院の仏具、梵鐘が強制供出、大阪のシンボル通天閣も献納させられる。

日本軍は、マニラ、クアラルンプール、シンガポール等を占領。ラジオからは、連日「軍艦マーチ」と「抜刀隊の歌」が流れる。男の子の間では、髪型は丸刈りに。世界地図がベストセラーとなった。金属回収令でベエゴマも供出対象に。国民決意の標語は「欲しがりません勝つまでは」。しかし、ミッドウエー海戦で敗北。年末にはガダルカナル島からの撤退が決定。東宝映画「ハワイ・マレー沖海戦」が封切られた。主な流行歌は「森の水車」「湯島の白梅」「朝だ元

気で」「南の花嫁さん」「南から南から」。スポーツでは、プロ野球は巨人が優勝。中等学校野球大会は戦争により中止。大相撲1月場所、5月場所と双葉山が優勝。新聞購読料1円20銭、豆腐一丁7銭、タクシー（2キロ）80銭、化粧石鹸8銭、理髪料80銭、小麦粉3円（10キロ）、塩7銭9厘（1キロ）、ラムネ9銭、注文背広80円、電話料金60円（年額）、レコード3円23銭、映画館入場料80銭、葉書2銭。

### 大野富士夫様

- ①昭和17年4月17日
- ②丹波市市島町下竹田
- ③昭和36年に柏原高校卒業後、大阪の機械製造会社に就職。

## 祝寿の方々ご紹介

昭和39年10月5日

(東京オリンピックの5日前、東海道新幹線開通の5日後)

④東京、八重洲の東京支社に転勤。主に、大型船の機関室に搭載する、機器販売を退職する迄担当し、多くの造船所、船主、水産会社、官庁等には、お世話になりました。

⑤イギリスの客船クイーンエリザベス一世を香港の船会社が、購入し、他の用途で運航のため改造。改装の機器、2億円を超える機器を契約するも納入寸前に香港沖で台風により沈没。キャンセルを受け、キャンセル料の折衝で苦労したこと。

42歳の時、少し胃の調子が悪く、精密検査を要請された。検査後、直ちに胃の手術を強

く進言されるも、数日後にゴルフコンペの予定があり、一週間の延期を申し出た。帰社後、病院から会社に手術するよう、小生に説得の電話があり、観念して胃の80%を除去。その後、半年で2回入院。

⑥知力、体力が衰え、何事をするにも、おっくう、疎遠になりがちですが、チョロ多く、行き先はボールに聞いてという芝刈りと、自宅から車で15分の所に約80坪の家庭菜園で良い季節時、2〜3日毎に3〜4時間程度、体を動かしています。一日でも長く、芝刈り、家庭菜園が、出来ることを願い、80歳は通過点と思ひ、年齢は意識せず、頑張ろうと思っています。

### 寺田重則様

①1942年4月18日

②氷上町石生

③昭和60年

④転勤。現住所は千葉県柏市

⑤関東平野は、ずいぶん広く、近辺には山がない。建物のない所へ行けば、北方はるか彼方に筑波山が、また西方はるか彼方に富士山が、どちらもすぐく小さく見えるだけです。⑥長生きできたのは嬉しいけれど、体力の衰えが辛い。

### 吉田素子様

①昭和17年4月25日

②丹波市柏原町柏原

# 祝寿の方々ご紹介



- ③ 1975年
  - ④ 海外旅行で知り合った人が東京羽田空港の近くにアパートを持っていた。
  - ⑤ 戦争の話、太平洋戦争（死者300万人）、ウクライナ戦争（死者2万位）。個人的には子供の誕生！
  - ⑥ 和をもって尊しとなす（聖徳太子）。遠くに行く必要はないので、隣にいる人と仲よく！
- ※「柏原川」権現山を望む。

掃除しても  
一年位です  
ぐ土砂が堆  
積するそう  
で丹波市も  
大変です！  
土砂が無け  
れば千鳥ヶ

淵にも匹敵。

## 田中清昭様

- ① 昭和17年5月22日
- ② 氷上町氷上
- ③ 1971年
- ④ 転勤
- ⑤ ドイツ、ハンブルグに駐在したこと。
- ⑥ 「月日の経つのは早いもの」を実感しています。100歳を目標に頑張つて行きます。

## 佐近麻里子様

- ① 昭和17年6月4日
- ② 柏原町
- ③ 昭和44年

④ 結婚の為

- ⑤ 結婚を機に千葉へ移り住みまして、53年になります。千葉も良き所ですが、懐かしいのは、やはり、丹波柏原です。柏原高校、八幡宮、木の根橋、鐘ヶ坂、厄神祭、秋祭り、こんな豊かな、ふる里をもたせて、戴いていることが、なにより幸せです。柏高の弥栄をお祈り致します。

## 荻野智司様

- ① 昭和17年6月27日
- ② 丹波市春日町新才
- ③
- ④
- ⑤

## 祝寿の方々ご紹介

⑥

### 葛谷理俊様



①昭和17年9月24日

②山南町（旧上久下村）上滝にて出生。ちなみに上久下中学校は、

当時、すでに過疎化の兆しがあり、山南中学校と統合、私達が最後の卒業生となりました。

③昭和36年4月

④大学進学のため上京。東京オリンピック開催の翌昭和40年卒業。三年間の建築設計の実務後、大学院に戻り、併せて

九年間を東京で過ごしました。その間、郷友会の集まりにも参加させていただくなど皆様に色々お世話になりました。

昭和45年4月、大学院修了とともに建設会社に入社。主に大阪の本店において建築の企画や設計に携わりました。

平成15年11月、定年を機に、一卵性親娘のようなわが女房殿と結婚をひかえた娘の二人に押し切られ、自宅新築など一年ばかりの準備を経て北海道札幌に移り住み、今日に至っています。おかげで郷友会・柏陵同窓会の関東支部に復帰となり、遠方ながら様々など案内やお知らせをいただくようになり感謝しています。

⑤仕事柄、何といっても阪神・淡路大震災との遭遇です。当

時豊中市の自宅で、突き上げのような激しい縦揺れと永遠に続くかと思われた横揺れに早朝の眠りを破られ、恐怖よりもシヨックというのが正直なところでした。在京時代、東京はいつ地震があるかも知れないとの思いがありました。が、大阪ではそんな意識はスッポリぬけ落ち、現実を受け止める余裕は全くありません。浮足立つ気持ちをなんとかおさえ、別室でベッドにかじりついている娘を落ち着かせるのがやっとでした。さいわい建物は、台所に散乱する食器類以外とりたてて被害も無くほっといたしました。しかし、テレビなど刻々と報じられる情報から、被害のただならぬ様子が伝わってまいりました。

## 祝寿の方々ご紹介

近隣では、散歩コースの一つだった大阪大学キャンパスのグラウンドなどあちらこちらで大きな地割れが発生。民家にもさまざまな被害が。なかでも隣家が建て替えを余儀なくされ、奥様が柏原の同窓だったこともあり、直ぐに市に対して解体の援助の申し入れをするとともに、仮住まいや新築工事の手配のお手伝いなどをさせていただきました。一方で被害を受けた阪神間在住の社員の自宅を徒歩で訪れ、非常食や物資などを届ける、家屋の破損の応急措置の手配などのほか、プライベートでも、親戚や知人の液状化で傾くなどの被害家屋の復旧や工場、アパートの解体といった相談に乗るなどいたしました。

一方、社が手がけた工事には大きな損傷がほとんどなかったこともあり、程なく落ち着きを取り戻し、復興事業に向けた業務に主力が移ってまいりました。まさに、定年までの七年余の会社人生の残りは、地震災害への対応と復興事業の推進の日々でした。

とりわけ、兵庫県の復興事業の目玉とも言うべき、関空埋め立ての土砂採取跡地の復旧工事でもあった淡路島の夢舞台における県立国際会議場と神戸製鋼所工場跡地の県立美術館の建設への参加は、私の人生における大きなエポックとなりました。ともに安藤忠雄さんの設計で、過去の経緯からかお声がかかり、設計のお手伝いと施工に向けての

課題の整理や解決にあたりました。

札幌に移住後も、東北、熊本、大阪北部、身近なところで郷友会・柏陵同窓会よりわざわざお見舞いまでいただきました北海道胆振など、ほかにも各地で大きな地震のみならず様々な災害が頻発しています。それぞれ少なからぬ友人、知人、親族などが被災。わが身、わが家族がこれまでも無事に過ごしてきたことがまさに奇跡だったと思えてなりません。

⑥正面切つて問われ、十分に充実した八十年だったと言いつけるほどの自信はありません。ただ振り返れば、つれあいをはじめ、家族、友人、知人、あるいは時々遭遇した方々

## 祝寿の方々ご紹介

に恵まれて今日の幸せがある  
と言いつけると思つています。  
それだけに、そろそろ身辺を  
無にして後顧の憂い無く、わ  
が身を処分できるようにして  
おきたいと思慮しています。  
しかしながら、六十年近くに  
わたつて溜め込んだ建築の設  
計を中心とするわずかな玉と  
多くの石の混交した書籍や資  
料類をなんとか少しでも有効  
に活用できないものかと日々  
頭を悩ましています。先日も、  
同じ区内にある北海道科学大  
学の建築学科に、これまで溜  
め込んできた設計図や記録な  
どを引き取っていただく。安  
藤忠雄さんのファンだといふ  
勉強熱心な若い工務店経営者  
に作品集などをお譲りしたと  
ころです。

しかし、このデジタル時代、  
なかなか受け入れ先もなく、  
大学の研究者でも自分達の研  
究の成果をどのように残すの  
か散々苦労されている様子。  
いわんや、私の手元にあるの  
は雑多なアナログばかり。ま  
だまだ、手探りで日々を浪費  
しています。

※安藤忠雄さんと視察旅行の  
途次、メキシコ南部、マヤ文  
明パレンケ遺跡のピラミッド  
上で（文頭のスナップ写真）

### 堀 博之様

① 1942年10月1日

② 丹波市市島町

③ 1968年9月

④ 転勤

⑤ 印象に残ることは沢山あるが、  
あえて一つあげれば、東日本  
大震災だろう。

あのとき、私はフィットネ  
ス・クラブにいた。突然の揺  
れに立つておられず、腰を抜  
かすように床に座り込んだ。  
今までに経験したことがない  
強い揺れ、建物の上階にある  
スイミングプールの水が溢れ  
出したのであろうか、天井か  
らザーと大量の水が降つてき  
て恐怖を感じた。

⑥ 戦中に生まれ、戦後の平和の  
時代を送った。それは空気と  
同じでその存在を意識するこ  
とはなかった。ところが、こ  
こに来てロシアによるウクラ  
イナ侵攻という歴史を100  
年前に戻すような戦争が発生。  
破壊された街や犠牲となった

## 祝寿の方々ご紹介

人々の映像に触れるたび、生きた80年の平和のありがたさを感じる。

### 池畑廣士郎様



①昭和18年1月27日  
②丹波市柏原町  
柏原

- ③36歳  
④池袋にて販売会社を設立。丹波東京の往復生活  
⑤体験したことすべて  
⑥いろいろな御縁をいただいで生かされて来たことに感謝。

### 上野忠明様

- ①昭和18年2月17日  
②氷上町常楽  
③昭和40年3月末  
④就職

⑤世相的には、昭和48年のオイルショックで、仕事がどうなるのか、毎日不安な生活（トレットパーパーまで備蓄する）

個人的には、平成19年9月末の1週間、厚生省主催の慰霊巡拝にて父の戦死したソロモン諸島（ラバウル、ブーゲンビル）を訪問。コバルトブルーの澄んだ海辺の景観が印象的。

⑥好きな事が好きな時に自由に行ける幸せ。75才で胃がんの

手術後も酒とタバコそして麻雀、ゴルフを継続中也。

### 岡 吉明様（旧姓・松下）

- ①昭和18年3月10日  
②柏原町南多田  
③昭和39年3月  
④兄の会社への転職と進学  
⑤製造業、卸業、小売業とやってきて、一番楽しかったのは

小売業としてやってきたエクステリア工事専門店をやっていた頃。お客様に見積書を持って行くのだが、色々な人生経験を積まれた方が多く、見積もりの工事内容より会社経営の話とか、社員と会社の付き合い方の指針とか、ご主人が苦労を乗り越えて来られた

## 祝寿の方々ご紹介

- ① 昭和18年3月26日
- ② 柏原町
- ③ 昭和36年4月
- ④ 就職の為
- ⑤ 会社の研修でヨーロッパ4か

### 内堀祥司様

経験談とかを色々話して頂け、又、表面上の価格より実質的な値打ちに興味を持つ方が多く、高くても正味良い仕事を好まれる感じで、色々勉強をさせて頂けた。

⑥ 兄は、72歳を迎えられなかったが、自分はこの年迄生かされ、ありがたい事です。実感としては未だ年齢を感じていませんが、どんどん歩いてより良い写真を狙っていきます。

国（スイス、イギリス、ドイツ、フランス）の旅行に行った事。スイスの登山電車でアイガー北壁、アルプスユングフラウ山頂。ドイツのライン下り。イギリスのバッキンガム宮殿の衛兵の交替。今も心の中の思い出として残っています。

⑥ 結婚して55年。息子二人も独立し、家内と二人、息子や友人に支えられ、元気に暮らしています。



撮影・岡 吉明



## 「特集 3年目のコロナ禍」



近況エッセイ

特集 3年目のコロナ禍①

### 最後の砦を守りたい！ 下町の総合診療医の記録

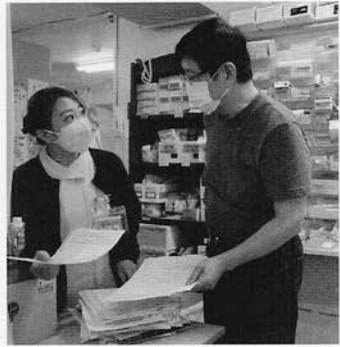
藤本和幸（東京都文京区）



大きな期待と希望で2020年、令和2年の新年が明けた。なぜなら、その夏には東京オリンピックが開催されるからである。浅草には新規のホテルが完成し、民泊の旅館も新装開店の準備中だった。正月はいつも以上に人出が多く、浅草寺周辺も外国人観光客で夜中まで賑わっていた。

令和2年元旦の午後は、湯島にある老人ホームの院長総回診の日だった。入居者に「あけまして、おめでとうございます」と新年の挨拶をして聴診器を胸にあてる。いつもの診療風景で、翌日も他の施設で回診をし、正月は静かに明けた。

それからいつもの診療に戻り、複数の病院の外来と



スタッフらの報告を聞き、次々に指示を出す藤本医師

往診をし、さらに入院患者の診療をこなしていた。

ここで簡単に私の自己紹介をする。

昭和59年に防

衛医科大学を卒業し、平成8年、38歳のとき、東京都台東区上野公園の近くで藤本クリニックを開業し、防衛医科大学の理念である総合診療医 general physician として「何でも診る医者」として訪問診療も手掛けた。

周辺は東大病院や日本医科大学付属病院、都立駒込病院、三井記念病院など大病院ばかりで、小生のように何でも診てくれる医者がいなかったせいか、外来には患者が溢れ、往診も可能ということもあり在宅訪問診療が増えた。

その後、クリニックを徐々に増やし、浅草二天門クリニックなど東京都内と埼玉県内に8か所のクリニック

クを開業した。とりわけ埼玉杉戸診療所は有床診療所で、防衛医科大学の同期である友人に初代院長を頼んだ。

さて本題に戻る。令和2年1月16日、日本国内で初めて新型コロナウイルス COVID-19 に感染した患者が報告された。しかし、その頃はまだ深刻さはなく、診察もごく普通におこなわれていた。

丁度その頃、従兄弟の藤井ひさゆき衆議院議員とコニカミノルタ山名昌衛社長（現会長）と会食した際に、医師としての見解を尋ねられ、私はこう答えた。

「今回も前回のSARSと同様、すぐに流行は収まりますよ。ただの風邪みたいなものですから」  
お酒を飲みながら自信たっぷりに話したのを思い出す。

しかし2月下旬からは暗雲がたれこみ、3月からは学校が一斉に休校となった。得体の知れない魔物ウイルスというような認識が我々医療従事者側にもあったのを思い出す。とりわけ受付担当者の動揺は大きかった。

私はPCR検査ってどんなものだろうかと、わざわざ



多くのスタッフとのコミュニケーションが絶えない。藤本クリニックで

ざ保健所に行つて検査を受けた。絞首刑のような場所に通されて厳かなセレモニイのようであった。万が一陽性になったらどうするのかと家族からは非難されたものだ。(当然結果は陰性であった)

4月には、第1回緊急事態宣言が発出され、連日コロナ報道のなか、外来診療は1週間ほど余儀なくストップした。東京を見捨てて軽井沢の別荘に逃げ出す知り合いの医師もいたほどだ。

その1ヶ月ほど前に国会議員に「いつものことで、そんなに騒ぐことはありませんよ」と話した自分を恥じ、コロナ関連のことについて、決してオピニオンリーダーになつてはいけないと思つた。

その頃医師会から「発熱外来をしますか？ するなら、補

助金を出します」と通達があつた。当医療法人としては、安全を取るか、それともリスクとお金(補助金)を取るか、の選択を迫られたが、それはそれぞれのクリニックの院長に任せた。当医療法人では、中島クリニックと埼玉杉戸診療所は発熱外来をすることに挙手をし、その他は挙手をしなかった。

中島クリニックは、東京都北区の人口密集地にある狭いクリニックである。発熱患者には、ダンボールで出来た小屋を玄関の隅におき、患者にはそこに入つていただき、PCR検査をした。また埼玉杉戸診療所では、広い駐車場に専用のプレハブ小屋を建てて、患者は自動車に乗車したままPCR検査をおこなうようにした。陽性になった患者は保健所に届け、自宅隔離指示とする。

その後の患者フォローは保健所がやってくれていたが、患者数の増加により保健所が機能不全となり、隔離中の患者が自宅で亡くなつていたなどのニュース報道がなされるようになる。翌年の令和3年2月頃からは、隔離されている患者の診察を往診することに

実際私も防護服を着て診察に行ったが、その患者の自宅に伺い部屋に入ると何とも言えない感覚に襲われた。その部屋は猛毒の空気が充満しており、少しでも深く息をすると感染してしまうのではないかと心配になる。一瞬めまいを感じ、意識が遠のくような気がした。

でも、大丈夫！ 毒ガスの部屋に閉じ込められ（十分な装備をしたうえで）、訓練をした防衛医科大学での経験がとて役に立った。

上野の藤本クリニクでは「風邪症状の患者様は絶対に来院しないでください。他の患者に感染するおそれがあります」と表示し、風邪症状の患者には往診で対応した。さすがに街中での防護服は目立つので、患者宅の玄関前で着替えて近所の人達に気付かれないようにするなど配慮した。

令和3年3月から、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった。当初は集団接種で、我々開業医も公民館や区役所などの会場で診療が終わってから接種会場に向かった。

上野駅前の会場は、午後7時から午後10時まで。役

所関係の方々も大変なご苦労であった。埼玉杉戸では、接種は毎週日曜日で、毎週のように、医師募集とあり、第3回目のワクチン接種が今も行われている。ちなみに個人的には8月に第4回目接種を受ける予定ではある。

さて、待望の抗ウイルス剤が今年より一般臨床医も処方できるようになり、問診↓診察↓検査↓治療というカタチが整った。しかし、当初は抗ウイルス剤を扱う調剤薬局はほとんどなく、処方箋を出しても薬がない！ という事態が起こり大騒ぎとなった。患者やご家族の怒りの矛先は当方にもくる一方、何とか薬を渡すと神のように崇められ感謝された。

新型コロナウイルス感染症の流行も第6波まで経験し、病院も行政もかなりの知恵とスキルを身にした。慌てて軽井沢に逃げた医師も東京に戻ってきた。

第7波は襲来し、そろそろインフルエンザ流行もあるだろう。まだまだ感染症には弱い医療である。当医療法人としても新たな医療システム構築が急務と考えられている。

開業医として新型コロナウイルスを経験して言える

ことは、やはり「かかりつけ医」の重要性だ。基礎疾患を持つている人ならば当然だが、問題は普段元気な方が困った時である。

私はどんな病気でもいつでも診察する町医者である。昼間に休めるのは土曜の午後ぐらいで、日曜日も診察が入る。120人を訪問診療し、湯島や浅草などにある7カ所の老人ホームで350人を診る。クリニックにいらつしやる患者さんを含めると2000人ほどの顔が浮かぶ。

インターネットが普及し、どこでもアクセスできるようになった反面、とんでもない情報に惑わされる若者もいる。同郷の皆様へのアドバイスとしては、かかりつけ医はいなくても、信頼できる個人医療機関に普段から関心をもつて頂き、情報をつかんでいって欲しいと思う。

(山南町出身、柏原高校29回生)

## 特集 3年目のコロナ禍②

### 新型コロナウイルスの感染きつかけに 加速した「ジーバーズ」の演奏活動

田村 公平 (静岡県熱海市)



誰が何と云おうとCOVID-19が恐ろしいのは、万人にとつて未知との遭遇だからです。今でも感染経験のない人にとつては、未知の恐怖です。そして、未知の病に感染した病人を治療、看護する方々も未知の恐怖に対峙しているのです。看病して頂いた私にとつては申し訳ないの一言です。病室に先生は来られません。若い看護師さんが毎日、検温・検圧・肺音、時にPCR検査の為の検体採取。個室に入ってきて一対一です。食事も部屋に持って来てくださります。部屋掃除もしてくれました。

当時は治療方法が不明でした。私の時はアビガンを10日間服用と解熱剤だけ。その後はただ経過の観察が

主流です。最悪なのは集中治療室やECMOです。こんな経験を基に「COVID-19医療戦士」と言う歌を退院後に作りました。入院中は完全隔離で、窓も開けてはいけない監禁状態です。差し入れはナースセンターまではOKでしたので、バンドのメンバーさんにギターを持って来て頂き、「With Mask」と言う歌を仕上げました。

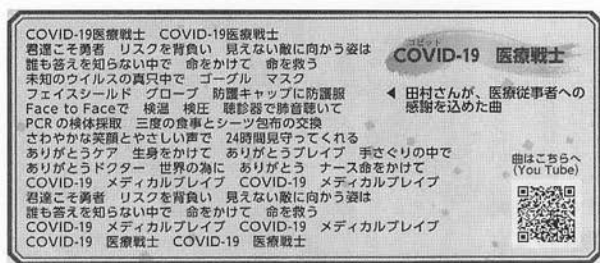
私が感染したのは、熱海で二番目のクラスターでした。何の証拠もなく入院中にそのクラスターの源にされてきました。根も葉もない噂や誹謗中傷を受けました。それらに対抗すべく、氏名公表に至ります。数社のマスクからの取材を受け、歌を作っているという事で、退院後に廃校になった中学のグラウンドで車に乗車のまま聴いて頂ける、ドライブインコンサートを開催し、テレビ局2社の取材を受け、後日に全国放送で流れました。

しかしその後の日本の感染状況は衰えを見せず、そ



ればかりか翌年の7月3日、熱海市伊豆山の土石流という土砂災害が発生しました。二重の非常事態でした。熱海は急峻な地形が多い事は事実です。これ迄も大雨は降ってききました。しかし、あれ程の土石流災害が発生した事はなかったです。誰がどう言い逃れようが、人災です。

未だ、行方不明者がお一人居らっしゃいます。私のバンドがドライブインコンサートを開催したあの中学校跡のグラウンドも、コンサートを開催予定だった熱海港際の広場も、未だに流れ出た土砂の集積場のままです。当分ドライブインコンサートは開催不可能。その代わり室内やホテルにて、これまでに計4回の被災復興支援チャリティーコンサートを開催させて頂き、沢山の支援者や参加者のお陰で、熱海市や社会福祉協議会に些少ですがその都度、寄付をさせて頂きました。その中の一つが、丹波市柏原にある丹波の森公苑でのチャリティーコンサートです。昭和47年に卒業以来50年ぶりに帰って、「熱海のジーバーズ」と言っても、誰一人知るわけがありません。「そんな無謀な！」と、私自身もそう思う一人でしたが、コロナ禍や土石流災



害の暗い澱んだ空気の中に長らく居たぶん、採算度外視で、どうしてもやりたいという想いが強くなり、開催にこぎつけました。

そこで頼りにするのは、何といっても青垣中学の同窓生、柏原高校の同窓生の皆さんしか居ないんです。会場の選定や、受付の設定、告知、チケット販売、こ

れらすべてを地元の同窓生の皆さんのご協力で行うことができました。私は熱海にいて何もできませんでしたが結果は大成功！。沢山のご来場を賜り、入場料とは別に支援金として沢山のご寄付を賜り、熱海市社会福祉協議会の災害ボランティア宛に寄付させて頂きました。

今の時代は圧倒的に高齢者が元気で時間もありません。そういう方達と一緒に今後も私はジーバーズと共に自分を元氣

にし、仲間を増やし、周りも楽しませます。一人でも多くの方に喜んでいただき、一緒に歌い踊り元氣になつてもらい、医療費の削減に貢献し(笑)、高齢者の認知機能の維持に貢献します(笑)。楽器や歌を練習している方やグループに出場の機会を提供し、「共に楽しむ」をモットーに頑張ります。

実は今年の12月18日(日曜日)にも、今度は丹波春日文化ホールにて、コンサートをする予定です。またまた地元の皆様のご協力無くしては成り立たない事は明白です。そこで、今回のコンサートチラシを作成するにあたり、「柏陵同窓会の後援を頂けないか？」と本部の同窓会長様にお伺いをたてました。内容を詳しく訊かれる前に、「ホームページに掲載したり、ご案内したりしてもいいが、後援というものは、した事もないし、一人に許可すれば次々と大変なことになるので出来ません」とのことでした。

潔く話を終えましたが、愕然としました。詳しい内容も聞いてくれません。「一体、同窓会とは何なの？」と考えさせられました。今回は、地元の同窓生のバンドの他、全員音大出の金管楽器の女性グループと共演



させて頂きます。そこで、柏原高校吹奏楽部の皆さんにも顧問の先生を通じて出演を依頼したところ、快く出て頂くことになり、調子に乗って同窓会に後援をお願いした次第です。

120年以上続く伝統ある我らが同窓会。守る事は容易くないはずですが、変容や変化を受け入れながら

の継続が必要なのも事実です。同窓会の価値を認めるが故の後援依頼なのです。臨機応変、柔軟なご対応をお願いしたいとの思いから、先輩方や同級生、後輩の方々にご意見をSNS上でお聞きしました。ご返事の方々は、協賛金等の金銭がらみが無いのであれば内容精査の上、後援は可能とのご意見が圧倒的でした。そんな中、この話題が会長さんの所にも届き、情報取得不足であった旨のお詫びを頂き、後援頂けることとなりました。流石、柏原同窓会です。今後も依頼書を精

査の上、名義使用の許可を検討するとの事でした。

同窓会活動が年々衰退してゆく状況の昨今です。卒業生がイベント開催の折には、各支部同窓会も含めてそれぞれの地域で、柏原の名義使用を依頼して、少しでも多くの卒業生の方々の目に、記憶に、留めて頂ける事が出来れば実に有意義だと思えます。

新型コロナウイルスに罹患後2年が経過しましたが、後遺症もなく熱海の高齢者バンド（AKB）「ジーバーズ」として、周辺各地にてチャリティーコンサートを開催しています。元気な高齢者の方々と楽しみ、楽しませて、活動を上げています。今後ともご支援の程、宜しくお願いいたします。

（青垣町出身、柏原高校24回生）



撮影・岡 吉明



特集 3年目のコロナ禍③

## ニューヨーク コロナ便り

井 徳 正 吾 (横浜市青葉区)



私ごとだが、今年の3月から半年の予定でニューヨークに来ていた。そのためアメリカと言うか、ニューヨークのコロナ事情に関して報告したい。

ニューヨークの街角には、写真のようなコーナーが結構あちこちにある。どこのコーナーでも暇そうにしながら係員がぼつんと座っているだけで、人影を見かけたことは一度もない。一見、「献血か?」と思わせるが、さらに近づくともCOVID-19(コロナの正式名) TESTの出店であることがわかる。

ここに来れば誰でも無料でコロナの検査が受けられた。旅行者であっても例外ではない。アメリカにいる検査希望の全ての人が、好きなところで検査を受ける

ことが可能なのだ。ただ最近、財源不足で旅行者は有料になったが、それにしても日本では考えられないことだ。日本なら、年寄から順番に、あるいは葉書を受けとった人から順番に、あるいは発症者の比率が多いエリアから順番に、などと細かい手順を決めてから行うのだろう。それも予約票が必要だったり、検査場所が決まっていたりする。それに外国籍の人は除くとか、旅行者は除くなどと細かな決まりができるに違いない。

しかしアメリカは違う。事務手続きの膨大な時間と経費を無駄と考え、一気にやってしまうのがアメリカの凄いとこだ。このわかりやすさ、早さには、日本の必要以上の平等性優先では追いつけない。

では、街中はいったいどうなのだろう?

この原稿への依頼を頂いた7月20日、当日の午後4時ごろ。ニューヨークは、タイムズ・スクエアからグランドセントラル駅に向か



ニューヨーク47丁目付近の新型コロナウイルスの検査ステーション



無料で配られた検査キット

う地下鉄の先頭から4両目の車両で調べてみた。乗客は私を入れて36人。それとなく観察すると、マスクをしているのは14人だった。

約4割に当たるマスク姿の中に、なにか傾向らしきものがあるかどうか探ってみた。

若い人ほどマスクをせず、年寄ほどマスクをしているかとおもっているかと思ったが、それもない。お金持ちそうな人ほどマスクをして、そうでない身なりの人ほどマスクをしていないのでは？と思ったが、それもない。屈強な男性ほどマスクをしていないのでは？とも推測したが、ボブサップのような大男が、子供用にも思えるマスクを着けて乗り込んでくる姿を見てこの考えも捨てた。

一組、7〜8歳の坊やを従えた若いママは、自分だけではなく、子供にもしっかりマスクをさせていた。しかし、子供連れはマスクをしていると一般化できる

かどうかはわからない。マスクをする、しないに男女や年齢や体型などはどうやら全く関係がないようだ。

7番街のペンステーションあたりを歩きながら街行く人を観察してみた。場所柄、旅行者が多いこともあるからアメリカと一括りで述べていいかどうかはわからないが、マスク姿の人は2割ほどしかいなかった。ここでも法則らしきものは見当たらなかった。

図書館でも観察を試みた。イーストリバーそばの図書館。自習室には幾つかのフロアに分かれて利用者がいる。その2割ほどがマスク姿だった。図書館の自習室だから隣との間隔は狭くない。でもそのことと関係はなさそう。流石に職員の多くはマスクをしていたが全員ではなかった。

ある語学学校の話。この学校は学費が安いためにトルコやコロンビアや、エクアドルなどからの留学生が多いと聞く。この学校では7月の半ばにコロナの感染者が教師14〜15人の中から2人出て、50人ほどの生徒の中から2人の感染者が出た。そのため2週間の休校に追い込まれた。しかし再開されたからと言って、以前と何も変わることはない。ただ入口の受付での検

温が徹底されるようになったことくらいで、他は何も変わらないという。

ブロードウェイでミュージカル『シカゴ』を見たときのことを思い出してみる。今年の6月のこと。チケットを購入するオンライン・サイトには、事細かにコロナ対応のことが書かれている。だから入場受付でマスク着用を厳しく求められるのかと思っただら何もなく、拍子抜けして席に着いたことを思い出した。

私が通うタップダンス教室は、アメリカでは評判の高い学校。オンライン・サイトにはコロナ対策に如何に配慮しているかが書かれている。しかし、先生はレッスン中、ノーマスク。生徒に求めるわけでもない。生徒でも3人に2人はノーマスクだった（当然私はレッスン中もマスクを着用した）。

アメリカではマスク姿は多くない。恐らく今の日本よりもかなり少ないのではないか（ここ半年の日本のことは知らないが）。少なくともニューヨークでは、コロナに対して注意喚起はするし、企業を通じて無料で検査キットも配布し、国としてすべきことは行った。「あとは自分で考えて行動するように」とでも言いたげだ。

このような状況をみると、深刻さは感じず、コロナとインフルエンザとの違いが私には見いだせない。新種のインフルエンザのようにみえる。或いは、「どんなに対策を講じてもコロナがなくなる訳ではない。ならば、気を付けながら普段通りの生活をしていくしかない」という諦めのような感じも受ける。少なくともコロナを他の病気と区別し、特別視する感じはしない。

アメリカでは、誰もがワクチン接種に賛成とは限らない。アメリカのワクチン接種率は全体で6割ほど。黒人の層では3割と聞く。かなり低い。黒人の層でワクチン拒否者がいるのは歴史に理由がある。アメリカでは永らく梅毒の人体実験が黒人を使つて行われており、その事実を多くの人が知っているからだ。ただ傾向としていえるのは、低所得者層での発症率が高いこと。低所得者層で、ワクチン接種率が低いからなのか、居住スペースの狭さに起因するのかわからない。

ワクチンを接種するのも自由。マスクをすることもない。自由。この国ではマスクを強制することもない。血を流して自由を勝ち取ってきた国。個人の自由が何よりも大切なのだ。（永上町出身、柏原高校22回生）

## 恩田川沿いを歩いて

谷 口 浩 章（横浜市）



新型コロナウイルスを機に新しく始めたのが「散歩」です。

40年住んでいながら都心との往復だけで、近所に全く関心がなかったのですが、2020年4月7日に緊急事態宣言が発令され、公共交通機関の利用をしなくなり、最初に自宅を拠点にして360度、片道1時間程度を歩き回りました。結果、自宅のある横浜市青葉区田奈町は隣の青葉台が大きく発展したのに対し、名前の通り町内に田圃や畑が沢山あり、金融機関は信用金庫と農協だけで、40年前と変わらず田園風景が残っている、いいところだということが認識出来ました。

更に、家から徒歩10分以内のところに恩田川という東京都町田市から横浜市緑区の鶴見川に合流する全長13・1kmの一級河川が流れていて、最近はこの川沿い



カワセミ

が散歩の中心となりました。田奈は恩田川河口から5・5km上流のところを位置していて、一度河口から源流地点まで踏破しましたが、普段は田奈から上流、下流各2・5kmの範囲を散歩しています。

横浜市内の恩田川沿いは水田・畑が沢山残っていて四季折々の変化に富んだ景観が楽しめます。一方東京都町田市内に入ると住居がびっしり詰まっていて空き地は殆どありませんが、沿線3kmに亘って川の両側に400本の桜並木が整備されていて桜の季節には多くの人が訪れます。

また恩田川には水辺にいろんな野鳥が生息しています。

ある時水辺の宝石と言われるカワセミを見つけながら、カワセミを探して歩くようになり、今では散歩の都度毎回のように見つけています。カワセミは留鳥で年中見られます。因みにカワセミは町田市の鳥になっており、恩田川にはカワセミ撮影を目的に多くのカメラ



カワウ

ラマンが歩いています。  
カルガモ、カワウ、サギ類、セキレイ類、チドリ等の留鳥は一年を通して見られ、秋から冬になるとマガモ、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、トモエガモ等のカモ類、更にセグロカモメ、ツグミ、ジヨウビタキ等が渡ってきます。他にオオバン、バン、カイツブリ等の漂鳥も冬場に多く見られま  
す。  
水辺の野鳥観察は野山の野鳥観察に較べて鳥の動きが少なく、大きな鳥が多く、見つけやすく、写真も撮りやすいことが利点です。水辺の鳥だけで26種類の名前を覚えるまでになりました。

毎回必ず見つかるのはカルガモ、セキレイ、チドリです。カルガモは全長63cmで雌雄同色。産卵期は4〜7月。産卵後1か月弱で孵化するので5月中旬頃からかわいい雛を連れた親子連れが見られるようになります。恩田川では多い日には9組の親



子連れのカルガモ

子連れが見られ、2か月で独り立ちするため子供が育った10月頃は1日最大100羽近くのカルガモが数えられます。カワウもよく見られ全長81cmと大きく、羽を広げると格好いいです。冬場に見られる鳥で多いのはコガモで1日にカウント出来た最大数は153羽、次いでオオバン48羽、ヒドリガモ43羽、マガモ31羽。オナガガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、カイツブリは数が少なく、トモエガモは毎年渡ってくるとは限らず見つければラッキーです。

渡りのカモは大きさもいろいろで特に雄は鮮やかできれいなものも多く、マガモは（全長61cm）は頭部が鮮やかな緑色、ヒドリガモ（53cm）は頭部が茶褐色、ヨシガモ（48cm）は緑の顔に白い体、トモエガモ（43cm）は巴形の模様がくつきりして何れも目立ってすぐ見分けられます。雌は特徴がなく見分けるのが難しいです。コガモ（41cm）は渡来時点では雌雄同色ですが衣替えをすると雄は目の周りが緑色



恩田川の桜



稲刈り風景

に変わって雌とは違って目立つようになります。冬場に来る渡り鳥はコガモが一番早く、9月下旬に来て一番遅く5月までいます。マガモは一番遅く10月下旬に来て4月初めにはいなくなります。またどのカモも日本では産卵、子育てはしないようです。

散歩以外では、丹波に今年6月に99歳になる母親が一人住まいを続けており、緊急事態宣言発令中を除いて毎月帰省しています。3年前までは帰ると小生の分まで食事の用意をしてくれていましたが、流石に今は全てもた。小生が後片付け含め食事の用意をするようになりまし

思いがけず69歳から一般財団法人「浩志会」の執行役理事として会の運営に携わって来ました。「浩志会」

は国の中央省庁と民間賛助企業39社が参加する官・民合同の異業種交流会、人材育成機関で今年設立40周年を迎えました。各種勉強会に加え月2回の講演会等活発な活動により、40歳前後の中堅社員が毎年75人程度新たに入会してきます。小生が旧長銀からの1期生として入会した時はまだ会員数100人程度だったのが現在では会員数は1800人近くになりました。77歳を過ぎ浩志会勤務も丸8年になりますのでこの6月で退任しました。退任後は恩田川沿いの散歩が更

(氷上町旧幸世村出身 柏原高校15回生)



撮影・岡 吉明



# 「人生は全て偶然の結果」 隕石研究から認知症の 検査装置開発へ



東京大学大学院理学系研究科教授

## 平田岳史さん

●インタビューー

坂上勝朗、岡田昌子、上高子、安井孝之

《研究業績とプロフィール》 1962年丹波市柏原町生まれ。柏原高校から東京理科大学理学部に入り卒業後、東京大学大学院理学系研究科に進む。1990年博士課程修了、理学博士。1993年、東京工業大学理学部助手、助教授、准教授を経て、2009年京大大学院理学研究科教授。2016年から現職。微量元素の分析を専門とし、隕石などを分析し、地球や宇宙の起源を探ってきた。最近はやイオ分野にも研究範囲を広げている。

——今年60歳を迎えられました。これまで取り組んでこられた隕石などの研究とは違う分野の研究をされているそうですね。

**平田** 代表的な認知症であるアルツハイマー型認知症の原因物質ではないかと見られている「アミロイドβ」というタンパク質の分析の研究に取り組んでいます。この物質はアルツハイマーが発症する20年ほど前から体内に蓄積することが知られています。蓄積が微量な段階でその存在を知ることができればアルツハイマーの早期発見ができ、早期治療に繋がるとみられています。しかし問題は、アミロイドβの微量分析がとても難しいことです。2002年にノーベル化学賞を受賞された田中耕一さんも現在研究されています。私たち



スタッフと実験データを議論する平田さん

は田中さんが取り組まれている分析方法よりも高感度に（少ない量で）分析でき、方法も簡単に専門家でもくても信頼できる結果が出る検査装置の開発を目指しています。東大教授職が定年になる65歳までになんとかモノにしたいですが、まだまだたくさんのハードルがあります。

### 「誰にも負けない」元素分析技術で新たな挑戦

——田中さんよりも先に行こうとされているのですか。

平田 そう言われるとおこがましいです（笑）。僕が生きているうちに完成するかもわかりませんが、僕はずっと隕石などに含まれる微量元素の質量分析をし、宇宙の中でそれぞれの元素がどのように誕生してきたかを探ってきました。元素の質量分析では世界で誰にも負けないという自負はあ

ります。タンパク質の分析はとても難しいのですが、ある元素をアミロイドβにくつつけて分析する方法を考えました。アミロイドβにくつついた元素を分析するのは得意ですから、間接的にアミロイドβの量がわかります。これまでの研究を支えてきた質量分析の武器をアミロイドβに応用しているのです。

——どれくらい少ない量でも分析できるのですか。

平田 おちよこ一杯（30ml）の異物を琵琶湖や東京湾に混ぜても、入れたことがわかります。今では瀬戸内海ぐらいの水で希釈しても検出できると思います。

——そもそもなぜ分析化学を研究されたのですか。

平田 柏原高校時代に数学や物理、化学のユニークな先生に恵まれ、数学や理科に興味を持ちました。東京理科大学に進み、いずれは兵庫に戻り、理科の先生になるかと考えていました。大学4年の時に分析化学の大家である故関根達也先生の研究室に入りました。分析化学がやりたいというよりも関根先生が好きだったからです。授業の中でも僕のことをよく見てくれて、とても褒めてくれたのです。東大の理学部化学科なんて雲の上の存在だったのですが、関根先生が「東



大に行きなさい」と東大の増田彰正先生を紹介していただき、何とか拾ってもらったのです。

### 日本に1台の英国製分析装置と格闘の日々

——東大での研究は大変でしたか。

平田 僕は本当に頭が良くないと思っています。いわゆる「東大脳」と呼ばれる人のように聞いたことを頭で整理し、記憶するというのは得意じゃないです。増田先生に「先生のおっしゃることなら何でもやります!」と言ったら、任せられたのが当時は日本に1台、世界でも3台しかなかった英国製の分析装置です。英



東大安田講堂前で

国人の技術者が常駐しているのですが、故障ばかりです。その装置をちゃんと動かし、分析できるようにするのが最初の仕事でした。英語は不得意でしたが、増田先生が「英国人技術者とずっと一緒にいなさい」とおっしゃるので英国人技術者に付きっきりで装置の仕組みを学び、電気回路の勉強もしました。英語も彼からマンツーマンで学びました。その時の経験が私の武器の一つになったのではないかと思います。博士課程に行ったのも周りの学生がみんな行くので行っただけです。東大でなかったら博士にはなっていないと思います。

——研究するにつれて面白くなったのでしょうか。

平田 僕の研究人生を振り返ると、全部偶然の結果です。僕が仕組んだことはありません。僕の周りの先生にお世話になり、今があると思います。関根先生と増田先生には足を向けては寝られません。

「人に役立つ研究をしたい」と不惑で挑戦

——平田先生の研究をみると、分析化学という軸は貫かれています。岩石や隕石の分析に始まり、今では

アルツハイマーの原因物質へと広がっています。なぜですか。

**平田** 田中さんがノーベル賞を受賞された2002年。僕は不惑、40歳の頃です。博士号を取ったテーマで一生、研究するのも楽なのですが、「面白いことをやりたい」と思うようになったのです。当時、「人に役立つ研究をしたい」と言う学生が増えていました。彼らの発言にも背中を押され、「やるならバイオだな」と決めたのです。医学系の研究者と知り合いになり、共同研究の機会も増えました。それから20年が経ち、ようやくその分野の研究も本格的に取り進む段階になったのです。いまでは研究室の半分がバイオ関連の研究になっています。

——40歳になって新しいテーマに取り組む学者は多くはないように思いますが。

**平田** 僕は研究室の学生らに①人の真似はしない②バントヒットをやめよう、と言っています。大学での研究は確実に墨に出るのではなく、バットを長く持つて大振りでもいいから振る、ということが大切だと思っています。大先生は失敗することが嫌ですから、年を

取ってから挑戦はしないでしようが、頭の良くない僕は失敗がそんなに怖くはない。草ぼうぼうの山に分け入って、穴に落ちたり、野犬に噛まれたりしても「あそこは危ないぞ」と帰ってきてもいいわけです。その過程でいろんなことが発見できるかもしれません。もちろんゴールに辿りついたら凄いです。現在進めているアミロイドβの分析装置の開発も僕の生きていくうちに成功するかは分かりませんが、教え子の中からノーベル賞を取る者が出てくれれば幸せです。

**ベンチャー起業し、70歳で暗耕雨読に**

——定年まで研究されて、その後は？

**平田** 決めたわけではないですが、若い人とベンチャー企業でも起こしたいと考えています。これまでいろんな分析装置と格闘してきました。アミロイドβを調べている装置も世界で初めての装置で、ベンチャーの人たちと一緒につくっています。こうした微量物質を分析する装置はいろいろな分野で活用できます。大手の分析装置メーカーが売っているような大きな市場はありませんが、世界を相手にすれば十分採算は取れる

と思います。定年後はそんな会社を起こしたいですね。  
——その後はどうなさるのですか。

**平田** 70歳でスパッと辞めて若者に任せます。その後は晴耕雨読の生活をします。実は京都大学にいた時、京都にマンションを買いました。妻と子供は京都に住んでおり、僕は東京で単身赴任です。おそらく京都と丹波の実家とを行ったり来たりの生活になるのではないのでしょうか。

——簡単に研究現場から離れますか。

**平田** いつまでも東京にいと頼られ、自分も頼られていると勘違いし、つついっい大学などに顔を出します。そんな先輩方をたくさん見てきました。スパッと辞めて、遠くに行くのだれも相談には来ないでしょう。その後は若い人たちが頑張ればいいのです。私の父は50歳まで柏原で大工をして、その後はダンスホールをつ



研究室に置かれているエ  
レキギター

くり、ダンスを教えてくださいました。その様子がとても楽し

そうだと子供の僕には見えませんでした。僕も70歳を超えたら、丹波で演劇をやったり、ギターを弾いたりして暮らしたいですね。

### インタビュアーの言

**坂上勝朗** お会いする前はどんなに厳めしい方かと思いましたがお話をうかがっている約3時間、まるで柏原駅頭に降り立って、爽やかな丹波の空気を胸いっぱい呼吸している感じでした。  
(水上町出身)

**岡田昌子** 「山さるの読者です」が初対面のご挨拶。手先が器用で人と違う発想や実験が出来て大学の教員は厭きることなく毎日が楽しい、と潔よく吉本興業やギター等も趣味として人生を謳歌。世界のトップを走るノーベル賞候補まつしぐらの大物は傍に居るだけで元気をもらえました。  
(柏原町出身)

**上 高子** 以前丹波新聞の「丹波人NOW」でインタビューさせていただいたご縁で、東大の研究室まで同行しました。丹波出身の成功者に共通の「謙虚」「一生懸命」な態度が見られ、東大教授のイメージを裏切られます。「子供の頃は突撃隊長だった」という言葉通り、東大の学生を引つ張っておられるのでしょうか。  
(水上町出身)  
**安井孝之** 約40年前に大学で同じような研究をしていた私ですが、その後の人生は大きく違います。平田さんの覚悟と執念、そして偶然の結果でしょう。  
(水上町出身)



## デビュー35周年を迎えて

ソプラノ歌手・足立 さつき

(東京都世田谷区)



この世界は、果たして現実の世界なのか……それとも虚構の話と歌とオーケストラで表現するオペラの世界の方が、私にとって現実に近いのか……生きている実感がよりリアルに感じられるのはどっち……？

こんな風によく書くと、頭の中のボタンを掛け違えているかと思われるかもしれない。

しかし実は時々、現実世界から逃避して音楽の世界に浸ることでバランスを保っているように思う。声楽家ゆえの処世術か!?

武蔵野音楽大学・大学院を修了した翌年、ニッカ椿 姫新人賞のコンクールで第一位を受賞しオペラ「椿 姫」ヴィオレッタ役でデビューした。35年前のこと。

遡って小学2年の時、西宮在住で母の先輩であり丹



のお宅に伺う。愛情を持ってご指導いただきながら、音楽大学への道をつけてくださった。高校入学した年の秋からは、声楽のレッスンも並行して通い、両先生のご指導のおかげで音楽大学の声楽科へ入学することができた。音大時代は、見るもの聴くもの全てが新しく、都内の演奏会にも頻繁にでかけ、自らの訓練は、特に大学4年生からついた外人教授のバス歌手、リゼティ先生との出会いから楽しくなり身が入るようになった。同じ頃、学内の部活でオペラ研究部に入学して、その顧問でいらした大谷冽子先生（日本のオペラの先駆者）に巡り合い、舞台での表現方法や、オペラという大きな舞台芸術作品をグループで作り上げるアンサンブル（表方裏方含め）の大切さを学んだ。大学

波ご出身の作曲家、中西覚先生のとこでピアノを習い始めた。毎週日曜日の朝、黒井駅から列車に乗り約2時間半かけて先生

院で学ぶと同時に、オペラ演奏家のグループ二期会の研究生となり、その3年目で前述したコンクールへの挑戦を大谷先生から勧められた。

元々東京の音大に入学する折に母からは、卒業したら兵庫県で教職に就く、という約束で出してもらっていた。だが、魅力的な先生や仲間との出会いからオペラへの興味が深まったことや、声や歌の鍛錬が一層楽しくなったことで、母に、大学院を受けたい！とお願いすることになった。その時もそうだったが、コンクールを受けた！と相談した時も、母は「やってみれば」とチャレンジすることを許してくれた。本当にありがたいことだった。

デビュー後はチャンスに恵まれ、オペラやコンサートの連続で、途中2年間のイタリア留学も含め、私にとっては豊かに煌めく日々となった！

演奏家としての仕事を20年続けたころ、何度か共演していたオーケストラ・東京交響楽団の事務局の方から、当時私が日本の歌をよく演奏していた経緯から、オケ付属の合唱団の25周年で演奏する、千住明氏オペラ「万葉集」の合唱指導の依頼をいただいた。大きな

混声合唱を指導するのは初の経験だったが、私にとつての転機となり、その後、演奏活動のみではなく、合唱指導者、ヴォーカルトレーナーとしても仕事をやるようになる。それまで、自分の声をどうするか……というところで鍛錬してきたが、自分ではない喉、声を見てアドバイスするようになった。そのお陰で、自分の鍛錬の仕方も多角的に考えられるようになっていった。

とはいえ、日々刻々と身体の時間は進んでいるわけで、そここの闘いもすさまじさを増すばかり。先日、ある世界的に活躍されたメゾソプラノの方（現役の70代半ば）にお会いした際、自分の鍛錬でなかなか思う通りに行かず日々格闘しています！ と近況報告すると、あら、私なんか七転八倒よ！ とおっしゃった。この方が七転八倒なら、私は少なくとも10転20倒くらいしないと追いつくはずもなく、改めて気合を入れ直した。

日々、コンマ何ミリの喉の調整の超リアル世界にいるのだが、試行錯誤するそこにこそ生きている実感が得られている。虚構の話をリアルに表現できる楽しい世界をお届けできるよう、自分なりにこれからも格闘

を続けていきたい。ご指導くださった先生方、応援して下さる方々、そして母に感謝を捧げながら。

（春日町出身、柏原高校32回生）

## 四津さんの樹海ドーム

浅 倉 成 樹（東京都小平市）



四津さんというのは、もちろん全高等学校女子硬式野球連盟の創始者、四津浩平さんのことです。私たち丹波人、とりわけ市島町出身者にとってはもはや伝説の人になります。しかし私は親愛と尊敬の気持ちを含めて、「四津さん」と呼ばせていただきます。

女子高校生による硬式野球については、特に昨年度の大会の決勝戦を甲子園球場で行った経過について、現在の連盟会長である坂谷高義氏が「山ざる」第52号で、「甲子園で決勝」夢が実現」と題して詳しく紹介

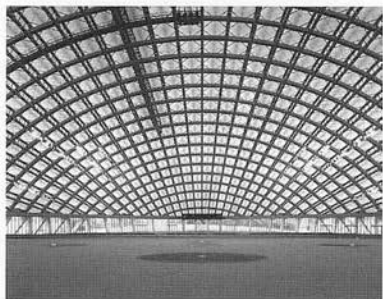


女子高校野球の決勝戦は甲子園で開かれ、丹波市の林時彦市長が優勝旗を手渡した（丹波新聞提供）

されています。その中で坂谷氏は「丹波市は女子高校野球の聖地である。これは胸を張って言える。ただ、やはり高校球児にとっては甲子園というのは特別な存在だ。女子にとつても、球児である以上、それは変わりない。」と述べられていて、氏の「甲子園で決勝」の強い思い入れが伝わってきます。

かくいう私は市島町の出身とはいふものの、女子高校野球の試合を観戦したこともないし連盟とのかわりもありません。ただ、四津さんからかつて女子高校野球のお話をうかがったことがあり、それ以来、ひそかにその動向を気にかけていたので

す。  
それは平成十三年頃と記憶しています。当時、私は四津さんと同じ町内でまさに目と鼻の先に住んでいたのですが、それま



大館市の樹海ドーム（ニプロハチ公ドーム事務局提供）

で全く面識がありませんでした。ある日、四津さんから電話をいただきました。どうやら市議会議員として活動していた私のリーフレットの「兵庫県市島町出身」という文言をご覧になったようです。その時は市島町で夏の全国大会を開催することになったことへの感謝の言葉や春の大会の試合会場の手配などのご苦労話をされていました。

それから一年ほどして再びお電話があり、今度は「秋田県大館市にある樹海ドームで全国大会をやりたい」ということでした。ついては、大館市の市長さんに樹海ドームの使用を許可してもらえないか打診してほしい、とのこと。なぜ大館市の樹海ドームなのかと伺うと、「一つには夏の大会を炎天下でやるのは女子高校生に気の毒だから涼しいドームでやらせてあげたい」、「二つにはこれからは東北地方の女

子高校生にも硬式野球をぜひやってほしいから、樹海ドームで全国大会をやれば素晴らしいアピールになる」と熱心に語られました。

私は大館市の樹海ドームを見たこともなかったし大館市がどんなところかも知りませんでしたが、四津さんの勢いに押され、とにかくアタックしようと思いい立ちました。

たまたま大館市出身の同僚議員がいたので大館市議会議員のH氏を紹介してもらい、現地に挨拶にうかがいました。新幹線で盛岡駅まで行き、そこから大館市まで高速バスで温泉地や深い森の中を走り抜けました。到着したその晩H氏に面会し訪問の目的を話してお願ひしたところ、幸い快く受けてくださいました。ただ、樹海ドームは県の施設なので許可をもらうまで時間が欲しいとのことでした（当時、市長さんは市外に外出中だったと記憶しています）。

翌日は樹海ドームも見学させていただきました。世界最大級規模を誇る、秋田杉造りの立派なドーム球場でした。野球に限らず様々な地域交流イベントにも活用されているとのこと。こんな素晴らしいドームなら

ぜひ女子高生の硬式野球の試合で使ってみないと、私も勝手に胸を膨らませたものでした。

その後平成十五年に入ってからH氏から連絡をいただき、「大会の開催について市長から基本的な了解をもらった、宿泊地も市内の施設で受け入れられる」とのことでした。

早速四津さんに報告したところ、四津さんは申し訳なきさうにこの話はなかったことにしてほしいと言われました。理由は、第一に、近畿や関東から大館市へ遠征する費用を捻出するのは困難だという点でした。残念でしたが私はそのことをH氏に伝え謝罪しました。四津さんご自身も単身大館市を訪問して市長さんに謝罪されました。

四津さんの恥をさらすような書きぶりになってしまいました。私の本意は四津さんの女子高校野球を広めたいという情熱を讃えることだけです。確かに樹海ドームでの大会の構想は現実的ではなかったかもしれませんが、そんな情熱の表れだったのでしようし、そんな情熱を純粋な情熱の表れだったので、今日の連盟の発展があるの



だと思っています。

最近、今年も決勝戦を甲子園で行うというニュースに接しました。すごいなあと思います。また同じころ、東北四県で女子高校野球のチームができており連盟も結成されるといふSNSの書き込みを発見しました。私は目を見張りました。そして何とも言えないうれしさがこみ上げました。四津さんが切り開いた女子高校野球が東北地方にもしつかり伝わっていたのです。

四津さんにとって、樹海ドームは東北地方の女子高校野球の夢の聖地だったでしょう。いつの日か「四津さんの樹海ドーム」をぜひ実現させたいものです。

（柏原高校卒23回生、市島町出身、多摩地域の大学卒業後、当時はまだ希少価値があった中高受験塾で十数年間進学指導に携わり、多くの純真で優秀な子どもたちと触れ合う喜びを体験しました。平成7年から小平市議会議員を6期24年間務め、実社会のさまざまな課題解決のために奮闘しました。現在は市立図書館で非常勤職員として働いています。）

## 金婚式記念家族旅行

足立松子（川崎市宮前区）



第33号「山ざる」に「白寿を迎えた義父」の題で出して頂きました。それから二十年が過ぎました。写真を見ながら、だっこされてた孫が大

学生、その妹達が高校生、中学生となり私達夫婦も結婚五十年を過ぎました。コロナ禍で延期していました。が、タイミングを見て悩み考えた末、今年一月八、九日に娘達夫婦が相談し伊豆へ金婚式記念家族旅行に連れて行ってくれました。孫達と「観光ツアーみたいね。」と世界遺産（たに）山反射炉、修善寺、修禅寺、日枝神社、河原湯、竹林の小径、寄り添い橋と楽しくおしゃべりしながら見て歩き、旅館からの眺めも最高でした。

お祝いの会も、それは楽しく、翌日は城ヶ島海岸、大室山と幸せこの上ない旅行でした。



1月の金婚式記念家族旅行で

五十三年前、丹波の山奥から、結婚して、何もわからないまま遠くに来て、一日一日元気で楽しく笑って、ありがとうと暮しているうちに、アツと言う間様でもありません。氷上町立北中学（幸世）の同窓会には、遠くてもいつも楽しみに出席させて頂いております。前回は有馬温泉での同窓会で香良の三人が同部屋で懐かしく思い出話をいつまでもする事が出来ました。昨夜は同じ丹波の青垣出身の主人といっしょに丹波アドベンチャートレイルのテレビを見、香良の山の中でままとをし、枯れた松葉を集める「こくばさぜ」をしながら遊び回って楽しかった話をし、先日は香良の実家の兄が子供の頃、釣りに行って、うなぎやなまずを釣った話を聞かせてくれました。

そんな兄も私達夫婦も大きくなりましたが、死ぬ日まで元気でコロリと行きたいと言ってた義父の様に百

四歳までとは思いませんが笑顔一杯で「ありがとう、ありがとう」と一日一日を大切に暮して行きたいと思えます。

（氷上町香良出身、柏原高校16回生）

『Conundrum (コナンドラム)の謎』  
「しっとってけー」発刊に寄せて

山口 敏 之（藤沢市）



第二十章 『謎』 『何が起こっているんだ』。二〇〇四年六月、私は、FRBのビンセント金融政策局長に苛立ちをぶつけた。苛立っていたのはフェデラル・ファンド金利誘導目標を引き上げたにも関わらず、十年物アメリカ国債の利回りが上昇しないどころか、低下したからだ。……引き締め初期段階で金利が低下するのは極めて異例だった。……私は戸



Conundrum (白)

惑った。過去に前例のない事態を、「謎」と呼んだ。執務室には、ラベルに「謎」と書かれたワインが何本も届けられたが、私の戸惑いが解消する事はなかった。ワインのビンテージは覚えていない。(アラン・グリーマン著『波乱の時代』より)

リーマンシヨックの起こる半年前の二〇〇八年初め、私はマエストロと呼ばれた前FRB議長アラン・グリーンスパン氏の回顧録『波乱の時代』を読んでいた。氏の回顧録は含蓄に富み、すっかり引き込まれていたが、後半で『謎』と言う章が出てきた。冒頭の引用部分があるのである。

この文章に興味をひかれた私は、数か月後出張先のダレス空港の書店で英語の原本を見つけ、「謎」の章をみた。第二十章「Conundrum (コナンドラム)」と出ていた。仕事柄英語には慣れているはずだったが、

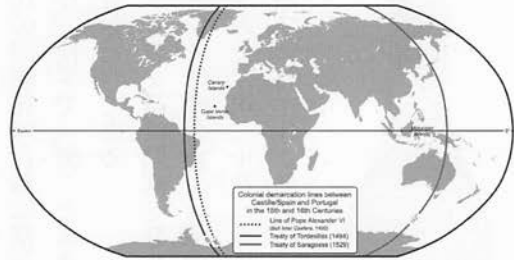
初めて出会った単語だった。

調べた所、この『謎』と言う名前のワインはカリフォルニアのナパバレーのワイナリーのものであり、数種類の葡萄をブレンディングした白ワインで、醸造家から飲み手への『葡萄の種類がわかるかな?』という『謎かけ』が名前の元である事がわかった。

早速その後西海岸に出張した時に飲もうとしたが、手に入らなかった。その後運よく某百貨店で入手でき、飲んでみる事が出来た。葡萄の種類はわからなかったが、なかなかの美味であった。

このコナンドラムという単語は、いろいろな辞典を見ると「難問、謎の意、語源不詳、十六世紀後半オックスフォードの学生の間で使われた。」という説明と共に、語源不詳の項目を見ると、ラテン語その他に類似無し、イエズス会か?という説明文が出ていた。語源に興味を持った私は、最初は小説家コナン・ドイルとの関係を調べたが、彼の名前とは全く関係性が無い様であった。

『コナンドラム、コナンドラム』、当時通勤の道すがら世界史の本を読み漁っていた私に、ふと、ある仮説



トルデシリャス条約（ウィキペディアより）

が浮かんだ。十六世紀……ひよっとしたら、この英語の語源はあれではないか……？と。

背景その一、イベリア半島。十五世紀も終わりがけた頃、海洋覇権をうかがう日の出の勢いのポルトガルとスペインの両王国は大西洋上の子午線

の東西で新『発見』の土地の領有権をめぐるって交渉し、教皇の仲裁を得て、その線の東側をポルトガル領、西側をスペイン領とするという協定に合意する。いわゆるトルデシリャス条約である。（私は長い間、鶏が美味しいトリデリシャス条約と覚えていたが、違っていた）。

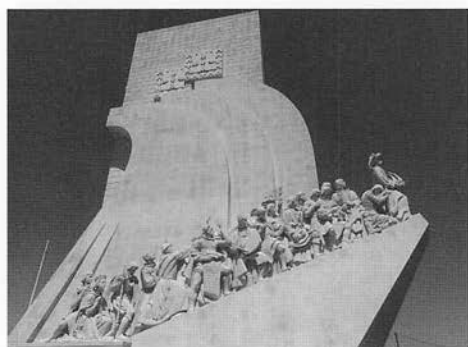
この協定の影響は甚大で、今でも南米各国の言語で最も東にあるブラジルだけがポルトガル語圏で、残りはずべてスペイン語圏であるという形で残っている。

その後のスペインの西進の勢いはものすごく、大西洋を渡って中南米を支配し、さらに太平洋もわたって現在のフィリピン諸島まで進出、制圧し、スペイン王フェリーペ二世の名前を取ってフィリピンと名付けた。この時代マニラと南米のヌエバ・エスパニーニャ（メキシコ）を結ぶ航路はガレオン船貿易と呼ばれ、帰りの航路は太平洋を北上したかなり日本寄りの航路であった。ちなみに最近噴火で有名になった父島の西の海上にある日本領『西之島』の最初の発見者はスペイン船である。

一方ポルトガルも順調に東進を続け、一五四三年、鉄砲を携え、日本に達し、同時にイエズス会も布教に本腰を入れ始めていた。

背景その二、日本。天正三年（一五七五年）長篠で勝利した信長は光秀に丹波攻めを指示した。ここからが、本題の仮説である。

受けて立つ丹波の側は、即座に長崎のポルトガル人から最新鋭の鉄砲を買うべく家老が出向いた。ところがポルトガル人は足元を見て法外な値段を吹っかけて来たため、困り果てた家老は思わず、丹波弁で、『こ



リスボン、発見のモニュメント（右端：エンリケ航海王子）

んなん、どんなならん（これではどうしようもない）……、殿になんといえがいいのか……』と頭を抱えてしまった。それを見ていたのが、ポルトガル商人の丁稚ヨゼフ十五才。ヨゼフはイエズス会の手伝いも兼ねて、はるばるポルトガルから着いたばかりであった。若いヨゼフは思った……この国では頭を抱える程難しい事は『コンナン・ドンナラン』と言うのだと。

一年半後リスボンの船員酒場に帰国したばかりのヨゼフの姿があった。それを見つけたヨゼフの友達が、

『ヨゼフお帰り。向こうでは何か面白い事はあった？』と聞くと、ヨゼフは突然頭を抱えて『コンナン・ドンナラン』とやったので友達に大うけした。その後しばらくリスボンの若い船乗り

達の間では頭を抱えて『コンナン・ドンナラン』とやるのが流行った。

もちろん当時、世界的な港になっていたリスボンにはしばらく後にスペイン艦隊アルマダを破るイングラッドから情報収集の為に多くの密偵が来ており、彼らが英国に帰って、この頭を抱えて『コンナン・ドンナラン』をはやらすのに時間はかからなかった。イングラッドではそのアクセントの強さから『コンナン・ドンナラン』がいつの間にか『コ・ナンドラム』に変わって残ったが、リスボンではいつの間にか忘れ去られていた。

その後世界の海を制した英国から新大陸の東海岸に入植した人たちと共にこの言葉も新大陸に移った。独立を果たしたアメリカは当初東海岸の一部を占めるに過ぎなかったが、その後拡大に次ぐ拡大で西進を続け、メキシコとの戦争にも勝ち、テキサス、ニューメキシコ、ついにはカリフォルニアを手に入れ、西海岸にまで達した。

東からカリフォルニアに入植してきた家族はその後葡萄の栽培を始め『Conundrum（コナンドラム）』と

いう名前の白ワイン販売をはじめた。それがFRB議長長の『Conundrum (謎)』発言をきっかけに執務室に届けられ、回顧録に書かれ、それを讀んだ丹波出身の私が、これはひよつとしたら丹波弁が語源ではないかと思に至った。すなわち、丹波弁が数世紀をかけて、西回りに世界一周したかもしれないという……ロマン。

背景その三。実は、子供の頃よく祖父に『こんなん・どんならんでよ。』と叱られたものでした。又、オランダに赴任していた時、アムステルダム市長よりオランダ語の『大物』を意味するHolemlot (ホーテムト) は日本語由来だというお話があり、どう考えても語源は……『旗本』。言葉の世界は、案外、小説より奇なり。丹波弁が英語になったかもしれないと言う仮説でした。

ちなみにその後も何回か、同様の金利逆転現象が起きる度に、経済新聞では『コナンドラム再び』と報じられる様になっています。又、2008年当時は白ワインしか販売されていなかったConundrumワインは現在では赤ワインも販売される様になりました。是非お試しを。

(氷上町出身、柏原高校25回生)

## 定年後の子育てアドバイザー

大城戸しず代 (旧姓三井・東京都台東区)



私は現在72歳です。今は子育て支援センターで週1〜2回働いています。定年までは保険会社に勤務しておりました。定年の1年ほど前のことです。すでに子育てアドバイザーとして働いている友人が「今までフルタイムで勤務していたのだから、これからも、あなたは働きたいと思うのではないかしら、こんな講座があるので受けてみませんか」と声をかけてくれました。その頃、60歳からの過ごし方を考えていたところだったので (実際には61歳まで勤務しました) 受講することにし、1年間、毎月2回土曜日に渋谷まで通い、試験を受け子育てアドバイザーの資格を取得しました。

受講されていた方々の中には、保育園、幼稚園の園長先生など長い間、子育てを仕事にしている人もおら

れました。私はすぐに採用されたわけではなく61歳から3年ほどは、家族や親しい友人たちと旅行などを楽しみました。アドバイザーの資格と短大時代に取得した栄養士の資格で64歳から働き始めました。

子育て支援センターでは保育士、幼稚園教諭、教師、看護師など色々な資格を持った方が働いておられます。今まで経験したことのない分野なので、とても刺激を受けています。

この辺で自分の子育てを振り返ってみたいと思います。40数年前のことですが、最初の頃は可愛いと思えるほどのゆとりもなく、ただただ一生懸命にお世話をしているという毎日でした。妊娠中に手術をしたり、つわりも重かったりで、日常生活がスムーズに送れませんでした。出産する病院は手術をした病院の方が安心だからと両親と夫などと相談して埼玉の病院に決め、予定日の頃、母が上京してくれました。しかし出産後10日ほどして、母は急用のため、やむなく丹波に帰ることになり、不安で息が詰まりそうでした。

「まあ、大変」。知り合いのいない埼玉での子育てがスタートしたのです。自分の体調はすぐれず、夫は早

朝に出社し、帰宅は深夜12時頃でした。よく続いたものだと思います。そんな夫に助けを求めることもせず、母に心配させてはいけないと思い、しんどいとは言えませんでしたが、育児書とラジオの育児番組を抛り所としていましたが、その通りには出来ず、自分の不甲斐なさに情けなくなりました。

当然のように母乳は出なくなりましたが、ミルクはよく飲む子で、身長、体重は優等生でした。ただ私の自信のなさが伝わるのか(当時は、そういう心理も理解できていませんでした)、1日中泣いてばかりなので、ずっと抱っこをしていました。家事も進まず、食事の準備さえもできない日もありました。その上寝ない、熱は出ずで、心身共に疲れ果ててしまいました。

そして首が座り始める頃、ようやくお散歩に出かけると、近所の人たちが声をかけてくれたり、年上のママ友の中に親のように温かく手を差し伸べてくれる人がいて、「用事のある時は預かってあげるよ」と長男の面倒も見てくれました。私が用事から帰ってくると、食事まで用意して下さったりと本当にお世話になりました。

おかげで徐々に自分の体調も回復し、長男も安心感からか泣かないで元気に過ごすようになりました。今は行政に子育て支援の制度が様々あり、手を差し伸べてくれます。助けを求めることも、人間に備わっている社会的な能力と知りました。一人で頑張りすぎないで助けられ上手になりましたよとか、初めてのことはうまくいかなくて当たり前など、心が少し軽くなるような言葉にも出会い、なるほどと納得したものです。

最近はずっとコロナのこともあり、「1日中赤ん坊と二人だけで過ごしていると息が詰まってきました」「遊び方がわからない」「離乳食の進め方がわからない」など相談も様々ですが、子育てで楽しく遊びたいと利用される親子もおられます。

時代が変化しているなど感じたことは、ママが勤務を続け、パパが1年間の育休を取り、ほとんど毎日利用されているという親子が何組かあることです。「仕事は予測できるけど育児は予測できない。大変だ」と話されていました。親の気持ちを支える支援が主になるわけですが、問題が深刻なケースは専門機関につ

ながくことも重要な仕事です。手遊び、からだ遊び、パパが利用しやすい様に、工作なども楽しみます。

69歳の時に一念発起して保育士の資格を取得しました。子供がいると周りの空気が明るくなり、ほんとうに宝物のようだと思います。64歳からの遅いスタートでしたが、新しい環境で0歳から同世代の保護者（祖父祖母）まで多くの出会いがあり、教わることも多くあります。大変と思う時もありますが、今を楽しく忙しく過ごしています。利用者の方と目的地へ一緒に歩いて行ってあげられるようにこの仕事をもう少し続けたいと思っています。

（春日町出身 柏原高校20回生、武庫川女子短期大学進学、結婚後住友生命に就職）



撮影・岡 吉明



## 歌曲への挑戦〜合唱への参加記録〜

谷 敬 三（東京都豊島区）



学生の頃よりぼんやりと歌曲のステージに立ちたいと思っていましたが、現実にはスポーツの道に進み実業団でラクビーを続けましたので、そうした思いを果たせないままになっていました。

その後、自身の人生の半ばを過ぎた50歳台になり地元豊島区に活動拠点を置く二つの合唱団よりお誘いを受けましたので、時期を1年ずらしながら両方に参加させて頂くことになりました。漸く若い頃の夢を果たすことが出来、人生の後半期に乗り出しました。

以下はそうした合唱を通じた演奏活動の記録です。

### 1. 東京高齢協合唱団（現・東京フロイデ合唱団）

2003年7月に「東京高齢協合唱団」に入団しました。「入団資格はやる気だけ」のスローガンに導か

れたようです。後述する「豊島区民合唱団」は、「楽譜を読める方」が入団の基準でしたので、ゆつたりとした気分で東京高齢協の練習に参加しました。

「東京高齢協」は、1999年国際高齢者年の日本開催の目玉としてベートーヴェンの「第九」を舞台で演奏することを目標に1998年に設立された合唱団です。参加メンバーは、翌年以降も「第九」を歌い世界平和を訴え続ける趣旨に賛同した猛者たちです。

合唱指導は富澤 裕先生、ピアノは江原郊子先生にお願いし、毎年12月の演奏会に向け5月より練習を行います。単なる合唱技術だけでなく、団員は、富澤先生のユーモアを交えた歌曲全般のご指導を楽しみ、目を輝かせて練習に参加しています。

演奏会の指揮外山雄三先生と日本フィルハーモニー交響楽団の管弦楽は初年度から変わらず、各年の4名のソリストも著名な皆様ばかりです。ちなみに初年度の2003年のソリストは、菅英三子（S）、竹田弥



東京フロイデ合唱団第10回記念演奏会  
2007年12月2日 東京芸術劇場大ホール

加（Ms）、小林一男（T）、高橋啓三（Br）でした。人生豊かな老齡パワーの合唱団が加わるアンバランスも魅力です。

合唱団で私はバリトン・バスを歌っていましたがおたまじやくしが地を這うよりも跳ね

回る魅力に引かれ、3年目からはテノールに転向し思いつき切り高音を歌唱してきました。

以下は私が出演した主な演奏会の記録です。

○東京高齡協合唱団第6回演奏会

2003年12月16日（火）

○東京高齡協合唱団第7回演奏会

2004年12月7日（火）

○東京高齡協合唱団第8回演奏会

2005年12月11日（日）

高齡協の設立趣旨とは裏腹に、“東京高齡協”と称する名称の要因もあり若い団員の新規加入に伸び悩んでいました。そこで設立8年目になり、団員の総意により「東京フロイデ合唱団」と改めました。

フロイデとは、「世界の平和」と共に「第九」の主題とする「友だち」のドイツ語です。

これ以降、徐々に合唱団の声の若返りが進みました。

○東京フロイデ合唱団第9回演奏会

2006年12月10日（日）

○東京フロイデ合唱団第10回演奏会

2007年12月2日（日）

○東京フロイデ合唱団第11回演奏会

2009年1月20日（火）

設立時より長い間演奏会の指揮とご指導をお願いし

てきました外山先生から、第10回演奏会を最後に後進に委ねたい、との申し出があり、12回の演奏会から小松長生先生に指揮をお願いすることになりました。

長く外山先生にお世話になり頼りきりでしたので、団員は不安な面持ちで演奏会前の小松先生の初回練習に臨みました。小松先生は、団員が想像していた以上にエネルギーに溢れた指揮棒を振られ、個性ある福井弁と若々しいご指導に圧倒されたことが忘れられません。

合唱団員は戸惑いながらも小松先生のご指導に食らい付き、外山先生の重厚さとは異なった若い指揮を楽しむことを覚え歌唱も徐々に変身していったようです。

外山先生、長い間のご指導を有難うございました。以下の演奏会はいずれも指揮は小松長生先生、管弦楽は日本フィルハーモニー交響楽団です。

○東京フロイデ合唱団第12回演奏会

2009年12月7日(月)

○東京フロイデ合唱団第13回演奏会

2010年12月5日(日)

○東京フロイデ合唱団第14回演奏会

2011年12月1日(木)

○東京フロイデ合唱団第15回演奏会

2012年12月2日(日)

○東京フロイデ合唱団第16回演奏会

2013年12月1日(日)

○東京フロイデ合唱団第17回演奏会

2014年11月30日(日)

○東京フロイデ合唱団第18回演奏会

2015年12月6日(日)

○東京フロイデ合唱団第19回演奏会

2016年12月4日(日)

○東京フロイデ合唱団第20回演奏会

2017年12月10日(日)

○東京フロイデ合唱団第21回演奏会

2018年12月2日(日)

○東京フロイデ合唱団第22回演奏会

2019年12月10日(日)

## 2. 豊島区民でつくる演奏会

東京高齢協（東京フロイデ）合唱団に入団した翌年の2004年地元豊島区の合唱団にも入団しました。

東京フロイデ合唱団（200名強）の半数程度の団員（100名強）ですが、平均年齢は区民合唱団が10歳程若いことなど声の質は負けてはいません。合唱のキャリアも豊かな皆さんが多く、個性豊かで刺激に溢れています。



東京フロイデ合唱団 第15回演奏会（2012年11月29日） 10回連続出演を記念して

区民合唱団の略称通り、合唱団の運営は豊島区にバックアップして頂いていますので、至れり尽くせりの印象です。

合唱指導と演奏会指揮は坂本和彦先生（東京音楽大学講師）にお願いしており、各年の演奏会のプログラムは坂本先生と豊島みらい

文化財団のご担当が打合せ、募集前に企画として紹介されます。

交響曲やレクイエムなどの重厚な曲だけではなく、オペラ・ミュージカルなども含め幅広いジャンルから選曲されています。毎年のように新しい曲目を半年で仕上げるのが大変でしたが、それだけに練習が進み曲目が身体に馴染んでくると、演奏会に向け楽しく歌い通すことが出来ることも経験しました。

区民が参加する創作オペラの企画もあり、歌唱とセリフ回しに演技などの組合せも難しく苦勞しました。

以下は私が出演した主な演奏会の記録です。指揮はすべて坂本和彦先生です。

○区民でつくる第九演奏会

2004年12月5日（日）

管弦楽東京音楽大学シンフォニーオーケストラ

曲目ベートーヴェン交響曲第九番「合唱」5

○区民でつくる演奏会 いっぱいッポみらいへ

2005年12月4日（日）

管弦楽 東京フェスティバルオーケストラ

曲目 ミュージカル曲「サウンド・オブ・ミュージック」「マイ・フェア・レディ」等

○区民でつくる演奏 いっぱいっポみらいへく大地のリズムにのって

2006年12月16日(土)

管弦楽 東京フェスティバルオーケストラ

曲目ビゼー・オペラ「カルメン」、ヴェルディ・オペラ「アイーダ」などのオペラ曲

○区民でつくる演奏 いっぱいっポみらいへ

2007年12月9日(日)

管弦楽 東京フェスティバルオーケストラ

曲目ベートーヴェン・「第九」より「歓喜の歌」、ヘンデル・「メサイア」より「ハレルヤ」ほか

○区民でつくる演奏 いっぱいっポみらいへ

2008年11月9日(日)

管弦楽日本フィルハーモニー交響楽団

曲目ヴェルディ・レクイエムほか

○いっぱいっポみらいへくフェスティバル・コンサート

2009年12月12日(土)

管弦楽東京フェスティバルオーケストラ

曲目としま未来祝典ファンファーレく豊かなる島からの賛歌く、ベートーベン交響曲第九番より第四章「歓喜の歌」、オペラアイーダより「凱行進曲」ほか

○いっぱいっポみらいへ

「ニューイヤークンサート

2011年1月8日(土)

管弦楽 としまユングフェスタオーケストラ

曲目オペレッタより「ボツカチオ・こうもり」など

○いっぱいっポみらいへくむかし・いま・そして未来

2011年12月10日(土)

管弦楽アンサンブルとしまオーケストラ

曲目メサイアより「ハレルヤ」、オペラ「椿姫」より「乾杯の歌」ほか

○豊島区制施行80周年記念 いっぱいっポみらいへ

2012年12月9日(日)

管弦楽 アンサンブルとしま

曲目ヘンデル／メサイアより「ハレルヤ」ほか

○豊島区制施行80周年記念 オペラ・コミック「君と見る夢」

2013年3月8日(金)・9日(土)

演出・台本 高木 達 作曲 吉岡弘之

管弦楽 としまユングフェスタオーケストラ

○未来へつなぐ国際交流 としま&ローザンヌ

2013年10月22日(火)

管弦楽 としまユングフェスタオーケストラ

曲目ヴェルディ 歌劇「運命の力」、ヴェルディ 歌劇

「ナブッコ」、ヴェルディ 歌劇「ドン・カルロ」、

プッチーニ ミサ曲「グローリア」ほか

○区民でつくる演奏 いっぽいっポみらいへ

2015年12月12日(土)

管弦楽 としまユングフェスタオーケストラ

曲目ヴェルディ「レクイエム」ほか

○いっぽいっポみらいへ 日瑞交流コンサート

2018年10月26日(金)

管弦楽G Dream21レディースオーケストラ

曲目モーツァルト「レクイエム」「短調K.626」、ヴェ

ルディ「ナブッコ」、ヴェルディ「アイーダ」ほか

### 3. ブルク・バツハ室内合唱団

2013年の秋に思いがけず笹倉強先生から、先生が主宰されているブルク・バツハ室内合唱団へのお誘いのお手紙をいただきました。第4回演奏会を終えられ第5回の企画を準備中と記されていました。大先輩からのお誘いですから無視するわけにいかず、二つの

合唱団に参加している事情をご説明のうえ参加させていただくことになりました。

その間は、区民合唱団を1年間休部しました。

ブルク・バツハ室内合唱団は、埼玉県新座市や志木市を活動拠点とし、バツハを中心と



した古典音楽に取り組んでいる男女混成4部合唱団です。当時の団員は50名程度でした。

バッハの古典音楽は、ベートーヴェンやモーツァルトなどのロマン派と比べると楽譜を正確に追うことが求められます。これまでの合唱経験とは明らかに質の異なる厳しさが求められましたので、先生や同僚のテノールの皆さんが歌われる音を耳で追いつながら曲を覚えていきました。

団員の皆さんのレベルが高いのは、笹倉先生の指導の賜物と敬服しながら貴重な経験をさせて頂きました。第5回演奏会（ア・カペラ&カンタータの世界V）は2015年4月18日（土）浜離宮朝日ホールで開催されました。プログラムは4部から構成され、カンタータ第17番（J・S・バッハ）、モテット第3番（同）、ア・カペラ5曲（バビロンの流れのほとりにて・うぐいす・5月のうた等）、カンタータ第43番（J・S・バッハ）と続きました。

こうして何とか演奏会に間に合わすことが出来た印象ですが、新しく楽しい挑戦となり以降の歌曲への取り組み姿勢に影響を受け、明らかに変化を実感してい

ます。笹倉先生・奥様、有難うございました。

○第5回演奏会（ア・カペラ&カンタータの世界V

）

2015年4月18日（土）浜離宮朝日ホール

指揮 笹倉 強、大勝秀也 山崎千恵（S）

星野恵里（Ms） 栗飯原俊文（T） 笹倉直也（Br）

管弦楽 東京セントラルフィルハーモニー管弦楽団  
曲目第一ステージ カンタータ第17番、第二ステージ  
モテット第3番、第三ステージ ア・カペラ、  
第四ステージ カンタータ第43番

こうして振り返ってみると、いろいろな皆様のご指導をいただきながらここまでやってこれました。

有難うございました。

コロナ禍が早期に終息し演奏会の開催を期待します。

（丹波市柏原町出身、柏原高校21回生）

# 私の職場

日本BS放送（BSイレブン）代表取締役社長

近藤和行



BS日テレの報道番組「深層NEWS」のキャスター時代

## 春夏秋「灯」

開業して2年も経たない東北新幹線で、始発の大宮駅から青森へ向かったのは、38年前の春だった。

ともに赴任する同僚とは車内で無言のまま過ごし、終点の盛岡駅で在来特急「はつかり」に乗り換えた。さらに2時間半揺られて着いた青森駅前は、陸奥湾から海風が吹きつけ、スパイクタイヤで削られた道路の粉

塵で埃っぽい。駅前のバラック小屋に、リング売りのおばさんが2人並んで座っていたのが印象的だった。赴任先は読売新聞青森支局。当時の新聞社の支局は、新人の扱いなどひどいもので、今なら人権侵害ものだ。支局近くの「たこ部屋」のようなアパートに放り込まれた。

社員への登用は秋。それを理由に半年間は休みなしだ。朝は6時に県警本部に行き、夜間に起きた事件・事故の発表文を取材帳にメモし、必要なら夕刊に出稿する。夜は所轄署で夜勤の警察官に交じって出前を食べ、あとは時間つぶしに回り将棋。ひと昔前は麻雀だったようだが、このころはもう禁止されていた。

事件事故が起きれば、親しくなった警察官が「(パトカーに)乗っていくか?」と誘ってくれる。理由もなしにパトカーに民間人を乗せるなど、今なら許されないだろう。のどかな時代だった。

日付が変わるころ支局に戻り、先輩たちが撮影した写真フィルムのネガの整理、終われば泊まりの先輩記者の説教と続く。そんな「日課」にうんざりしたものだ。

慢性的な睡眠不足で、昼間は所轄署デカ部屋の刑事課長隣のソファでウトウトする。刑事たちは歴代の新人記者の悲惨な待遇を知っていたのだろう。見ぬふりをして寝かせてくれた。夕方は、地検で通勤族の検察官や検察事務官と軽く庁内で一杯することもあった。たまの息抜き。そんなときに限り支局長にポケベルで呼び出される。「焼き鳥買ってきてくれ。30本。急いでな!」

そんな毎日も次第に居心地が良くなる。土地の人の暖かさに触れ、自然に触れ、大切な第二の故郷になった。社会人人生のステージは「春浅い日々」だ。

「夏」の始まりは5年後、元号が平成に変わると同時に、東京本社の





BSイレブンの報道番組「報道ライブ・インサイドOUT」©BS11

編集局経済部へ異動した。

地方も長時間勤務だったが、東京の勤務はさらに長い。例えば、省庁担当は国会が開会中かどうかで変わるが、基本的に9時メドに役所内の記者クラブに出勤する。夜は日付が変わるころまで、霞が関・永田町や「夜回り」と称される取材相手の自宅訪問を繰り返す。

大きなニュースがあれば、出勤前に取材相手の自宅を訪ねる「朝駆け」が加わる。夜は都内最終版締め切り

の25時30分まで、粘って取材・出稿する。朝5時台に家を出て、夜は26時半ころに帰宅する日々の連続でもある。クレージーな生活だが、気分は高揚した。

扱うニュースそのものが大きいので、自分が出稿した記事はすぐに1面トップを飾る。いわゆるスクープで、そんな原稿を出稿した夜は、1面を自分の記事が飾った刷りたての新聞を持って、意気揚々と未明に帰宅する。疲れてはいるが、翌日は記者クラブへいち早く行き、ライバル社が夕刊で追随しようとアタフタする姿を見てほくそ笑む。気分は最高、「ざまあみる」だ。

逆もある。いや、むしろ多い。ライバルに出し抜かれ、自分の担当分野で他紙が1面トップを飾る。こちらは「抜かれ」、出し抜かれの意味だ。競争相手は朝日、毎日、日経、産経、NHK、共同通信、時事通信など。ライバルも、夕刊原稿を作るのに四

苦八苦している私を冷やややかに見ていただろう。気分は「ざまあみる」だったに違いない。

他部署への異動など、多少の出入りはあったが、そんな暮らしを20年近く続けた。性格は次第に悪くなり、神経もすり減らしたが、仕事は面白く、やりがいは強く感じた。人生の「真夏の日々」といった感じだ。

40代も半ばを過ぎると、そんな一線取材は卒業し、編集委員の肩書で、「企画モノ」と呼ばれる連載のアンカーマン（最終的に記事を仕上げられる役割）や解説記事の執筆が中心になる。若手記者と仕事をする機会も増えた。著名な取材相手にじっくり話を聞く機会も増える。人さまの都合に合わせた生活サイクルから自分で予定を組み立てられるようになり、自由な時間も増えた。心地よいが、最前線の頃のように、脳がジリジリ焼ける感覚などはなくなった。刺激が足りず、少し物足りない「秋の好

日」の気分だ。

そんな中、命じられたBS日テレビの報道番組「深層NEWS」のキャスターは楽しかった。週2〜3回、22時からの生放送。うまくしゃべれるだろうか、口達者な出演者にやり込められないだろうか、など不安を抱えながらの仕事は、思いがけず3年9か月も続いた。

番組がうまく進み気分高揚した日も、逆に落ち込んだ夜もある。視聴者が激励の手紙をくれたことも、匿名の誰かから心ないメールを届くこともあった。

評価しにくい4年弱だが、友人は



BSイレブンで人気の八代亜紀主演の演歌番組「いい歌いい話」  
©BS11

たくさんできた。生放送の討論番組

は、多少の思惑の違いはあれ、番組を成功させるといふ目的は同じ。自然とキャスターと出演者には強い連帯意識が生まれる。気難しく、主張の違いから番組内で口論になった出演者もいたが、そんな方々とも付き合いが続いている。スタッフも含め、ここでの人間関係は宝物だ。

さて四季も終わりに近づいた。還暦を超え、最後の職場になるだろう。順番は「冬」だが、どことはなしに寂しいので「灯」とした。あかり、ともしび、闇を照らすの意もある。

「灯」の始まりは20年夏から21年秋まで在籍した札幌テレビ。放送を勉強してこいとこの趣旨だったので、おそらく役立たずだったろう。でも、とても親切にして頂いた。襟裳岬を除いて道内をほぼ制覇し、コロナ下なのに北海道を満喫できた。

21年秋から、現在の日本BS放送、「BSイレブン」に移った。執筆時

点では、在籍8か月。現状をうまく説明できないが、正社員100人規模の小世帯なので、働く人の顔や息遣いは良くわかる。開局15年の若い組織だ。

テレビ局らしく、有名人の出入りは多く、スタジオはカメラさんや照明さん、フロアマネージャー、道具係等々の連携作業で賑やかで、番組内容も報道、音楽、紀行、ドラマと多彩だ。活字文化の新聞社は、堅実で固く、個人プレーで色彩イメージはモノクロだったが、テレビ局はフルカラー「灯」である。

あと何年働けるのかはわからない。ただ50歳を過ぎたところから、故郷の幼なじみがやけに恋しくなり、少しずつ交友も復活してきた。最後の職場を終えても、プライベートでの樂しいことが待っているような気がする。

(春日町出身)

俳壇……………

ふる里丹波を離れて七十年。少年時代の十五年の丹波は、今も鮮やかな自然のたたずまいのまま脳裏に刻まれています。

金子 徹 (富士市)

食い繋ぐ戦中戦後薯の花

春暁や地揺れの未だ続きをり

掌にとりてまた逝きし人知る師走かな

よくぞ生き来しと思ふ浴衣の袖通す

年果ての急ぎ化粧や今朝の富士

※

今だに戦争をして殺し合いをしている国があるのに心が傷む。命がなければ何も出来ません。早く平和が訪れることを心から祈るものです。

荻野 哲男 (狭山市)

妻が逝き早くも五回の夏が来る

夏草が墓石を隠すご無沙汰を

夕焼の空にあざやか飛行雲

車庫の屋根氷ヒョウが大きな穴をあけにわか雨前の道路を川にする

※

「シャボン玉」

施設のお年寄達と唄うときは、できるだけ明るく唄うようにしています。

坂上 勝朗 (板橋区)

石鹼玉光ると見へて千切れけり

萩尊の見目好く坐す花まつり

花曇社の奥の真の闇

草笛や青青と空抜けるまで



「シャボン玉」

故里捨てきれず八十有余年。山紫水明の丹波に棲まい、六十の手習いで覚えた俳句三昧のくらしを楽しんで居ります。

※

大野 沙年（丹波市）

かなぶんぶん造り酒屋の大楠に

堰越ゆる音万緑を抜けきたる

駅裏の鎮守の大樹蟬しぐれ

野菊晴学校がへりの五人組

旧交を復す縁やおでん酒

※

幼い頃、母に連れられて丹波の山墓地によく行きました。

藤田 玲子（入間市）

芋環の微かに揺れて母想う

母逝きて六十年の五月苔

巻き爪は父に似ており柿若葉

父の忌や墓にも行けず過ぎにける

生かされて術後十年夏椿

※



真東の我が家は朝四時半ごろから八時過ぎまで燦々と陽射しが降り注ぐ。新規大修繕で機密性に優れたガラス戸に受けた暖気で部屋が暖まり、エアコンも効かないのでサーキュレーターを買った。しばらくして数字が出てきた「34」？なんと部屋の温度を指すという！  
慌てて通販生活の「太陽熱カット」シートを注文中！

上田 道代（目黒区）

遠い記憶がかすかに揺れる カーネーション

二の腕の切り傷のあと 梅雨の空

幾万の命散らせど 夏も過ぐ

喜寿も過ぎ銀河を見ない 年月や

視座 (七月のある豪雨の日) ……

二年半

上 高子 (世田谷区)

二年半何をしてたかこの我は

ふり返らせたどしや降りの雨

終活に取り組むつもりが先延ばし

日々に生死の紙一重を生く

二年半この先もまだ続くのか

出口の見えない暗いトンネル

三重苦ヘレンケラーも顔負けの

コロナ戦争熱中症

二年半ステイホームで脚弱り

テレビ新聞アマゾンから本

観た読んだ世界知識に視野広げ

深めた気がする多文化共生

雨上がり広がる空に境無し

宇宙から見る地球と同じ

ウイルスに国境はなく拡がりて

オンライン情報も越境す

国という括りはもはや無理があり

人類は運命共同体

敵つくる愛国教育くそくらえ

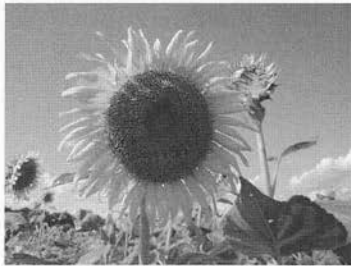
相互理解を育んでこそ

我ら住む北半球に夏の花

この地あじさいかの地ひまわり

花のように我も生きたし短くとも

命尽きるまで平和求めて



歌壇……………

何とかならないのかといらいらしてしまおうク  
ライナの惨状ですが、スーパーマンは現れないの  
でしょうか。日本人でよかつたどつくづく思いま  
す。

足立 美都子（春日部市）

卒寿過ぎ間なしに早くも九十一才恐ろしい  
ほどひと日短かし

四人の子揃って父の享年を越えて無事なる  
日々思いおり

無理しない出来ることだけやりましよう人に  
頼るは出来ぬことだけ

帰ることかなわぬ故里夢に見る庭の柿の実か  
らす食べたか

和紙ちぎり散らせしごとき白雲の青に溶け入  
るまでを見ている

※

〔望郷〕

忘れてしまっていたことが、あるときフツと浮  
かんで来たりする歳になりました。

坂上 勝朗（板橋区）

かの道をたどれば微かに浮びくる亡父の尺八  
米に換へし夜

産土の社に立ちて掌を打てば戦争ごつこの関  
の轟く

わが名をば呼び捨ててくるる人は皆草葉に隠れ  
て時の久しき

引墓の跡へせめても花を置く此度でふるさと  
見納めとせむ

※

家族は年々少なくなりひとりぼつちは実に淋し  
いものです。

荻野 哲男（狭山市）

そびえ立つビルの谷間を人々はせわしく走る  
もう年の暮れ

故郷からの電話は兄の死の知らせ受話器に涙  
ポツリと落ちる

人の世は悩みが常につきもので今日も頭が重く感じぬ

居る場所は定かでないがコホロギは力を込めて淋しさ告げる

※

思いのほか長引いているコロナ禍やウクライナの惨状に心を痛め乍らの日々ですが、季節は巡り春となり、喜びを歌にしてみました。

山本 述子（さいたま市）

青空に緑の森と桜並木菜の花畑手前に広く公園の池に桜と柳あり逆さの木々のかすかに揺るる

逆さまに桜の映る池の面鴨の親子のハの字描く

引越しの忙しさの中金魚死す詫びつつ埋める金魚草の根元

金魚草一斉に咲き軒先に春の気だるさ拭ひ呉れをり

※

コロナへの警戒感が少しうすれてホットしてい

ましたところへ、ウクライナの突然の惨禍。なすすべもなく、長引くウクライナの惨状に茫然としております。

田中 一美（八王子市）

誰かこの戦さをはやく止めてほしい この瞬間にも命滅ぶに

コロナ禍さえウクライナの酷に比べればかげうすかりし地獄なる日々

国外に逃れし民よ強くあれ 破壊されたるふるさと哀し

なすすべもなくただ祈るウクライナ申しわけばかりわずかの寄付のみ

つましくもふるさとのある幸せを宝のごとく守りぬきたし

※

老夫婦になると思わぬことも起こります。物忘れではなく、すぐに激昂する症状強く表れるようになりました。だから私がデイ・サービスに通っています。

福田 治子（横浜市）

夫のこと厭ではなけれど困り事デイ・サービ  
スへせっせと通う

※

少し身廻りの空気を動かしてみたくなり九州に  
出かけた。高千穂や国東半島はひよつとすると、  
人よりも神々や御仏が多い峡や里かも知れぬ。

原谷 洋美（杉並区）

生きいそぐわけであらねど高千穂の天安河原  
に賽の石積む

産直にわらび竹の子日向夏 峡の白木蓮一ひ

ら三ひら

ザボン生り菜の花満つる国東の磨崖のお不動

やさしきお顔

鬼の積む階の果てたる大岩の如来菩薩は森羅

を覗つむ

朝にコロナタに戦争梅雨明けは付録のやうに

唐突に来ぬ

この地球に動き葉をはさみましコロナや戦の

最終。ページ

## 「山ざる」連句の会・初夏…

長らく名編集長を務められました岡田昌子様が  
退任されることになり、五月十五日に有志で慰労  
会を持ちました。四方山話に花を咲かせている内  
に、何か記念に残る事を試みようかと盛り上がり、  
メールを駆使した現代版連句「三十六歌仙」を巻  
くことに相成りました。

「山ざる」連衆の持つ丹波の底力が現れていれ  
ば幸いです。

### 《覚書》

一卷三十六句から成る連歌を「三十六歌仙」と  
呼び連句の代表形式です。二枚の懐紙を用い「初  
折（二枚目）」の表に六句、裏に十二句。「名残（二  
枚目）」の表に十二句、裏に六句を記します。

発句と呼ばれる一句目は五七五の長句、付ける  
脇句は七七の短句、三句目以降は長短を交互に紡  
ぎます。三十六句目の七七を挙句と言い「挙句の  
果て」はこの言葉から派生しました。



『筍生ず』の巻

連衆・坂上勝朗(牛追) 岡田昌子(福来)

上 高子(新風) 石橋順子(京女)

安井孝之(酔人) 原谷洋美(泉桜)

藤原ひさ子(花心)

- 七 恐竜の眠るふるさと父母もまた (花心)  
 八 寄り添い遊べ永遠の樂園 (酔人)  
 九 柳絮飛ぶさながら弥陀の来迎図 (牛追)  
 十 麦実る地は骨肉相食む (京女)  
 十一 守り抜けかの地ひまわり日の光 (新風)  
 折端 ささゆり種まけ夢幻の世には (福来)

《初折の表》

発句 風流の筍生ず慰労会 (牛追)

脇句 委員長替わり魚の目に泪 (京女)

三 梅雨近し安い筍出始めて (新風)

四 荷下ろして「ほっ」前途の句めである (福来)

月座 昨夜きぞの月ともに掬うや溝普請 (泉桜)

折端 青葉時雨れて亀目覚めたり (花心)

《名残の表》

折立 夏だけじゃないとぞ春蟬この星へ (泉桜)

二 潮騒縫って夏うぐいすが (花心)

三 紫陽花みて義母を世話して我をみる (酔人)

四 輪廻転生いっかん奈何とやせん (牛追)

五 幼な子と雛ひな粟愛でむ彼の国で (京女)

六 尾張の国の紫陽花愛でし (新風)

七 友追いて愛犬きよとん鳩は青空 (福来)

月座 清けき月にほうたるか梅 (泉桜)

九 彩雲に迷い込んだり白昼夢 (花心)

十 下界を眺むドローンの様に (酔人)

折端 富士山も不機嫌そうなの暑さ (牛追)

折端 夏の吐息に笹の葉も揺れ (京女)

《初折の裏》

折立 雑草を朝むしれどもまた夕に (酔人)

二 出づる命の遅しきかな (牛追)

三 流れ速し若鮎は今かくしゃくと (京女)

四 風老いてなお流れに棹さす (新風)

五 昼ひなか子犬のワルツに足もつれ (福来)

月座 障子の影絵はコンと月見む (泉桜)

《名残の裏》

折立 佐治川に七夕流しし蛍の夜

(新風)

二 赤日枯れして香残すくちなし

(福来)

花座 さる遊ぶ浄土であらん花提灯

(泉桜)

四 木漏れ日が降る君の背は海

(花心)

五 火照る山車蛮行鎮め更ける夜

(醉人)

挙句 人の心の測り知れなさ

(牛追)

\*

新編集長の安井孝之氏が五月三十一日付「朝日小学生新聞」のコラム「天声こども語」に、この連句を判りやすく紹介しておられます。合わせて記載いたします。

座主・原谷洋美

\*

友だちにさそわれ「連句」という言葉遊びを始めた。俳句のような「五七五」の長句と「七七」の短句を数人で順番に連ねていくのです。俳句も短歌も得意ではない私ですが、毎日ワクワクして

います▼5月になって庭の雑草がどんどん生えてくるのを見て、「庭草を朝むしれどもまた夕に」と私が書くと、友だちは「出づる命のたくまじきかな」と続けてくれました。これをメールでやりとりするので友だちの句が届くのが楽しみです▼連句を始め、変わったことがあります。通勤途中に目にする人たちの表情や植物の日々の変化、空を飛ぶ鳥や流れる雲などを「五七五」「七七」で口ずさむようになりました。字数を調整するためにいろんな言葉を思い浮かべて、辞書もひきます▼物忘れが増えた私には連句はまるで「脳トレ」です。若いみなさんならば言葉を覚え、動植物に関心を持つきっかけになるかもしれません。

朝日小学生新聞（5月31日付）より



# My Gallery

森田栄子さん（柏原町出身）



一つのバッグを一日で仕上げるので最初は大変でしたが慣れるにつれ楽しくなりました。①はロンドンの地図柄でコーティングされ水に強いです。②はケネディ大統領夫人が着用して大人気になったマリメッコの柄です。③は大きなオレンジの花のどんな洋服にも合わせ易い物です。④と⑤は畳ヘリで作った軽くて丈夫なポシェットです。

# My Gallery

高見美智子さん（氷上町出身）



至福のとき



夕やけ - 明日へ（木の葉）



舞い上がり  
(ジュンベリー、アジサイ)



今は八ヶ岳南麓の標高1100m位に住んでいて、山にある植物や庭で育てた花を摘み、乾燥させて押し花の素材を作ります。保存している四季折々の押し花から作りたいイメージ

に合う花を選びデザインして額を密封します。額に密封する事で、直射日光に当てなければ花の色は変色しません。如何に花を綺麗に押すことが出来るかが大切なポイントとなります。そのため、摘み取りのタイミングも大切で押し花にするための工夫もしながら作品作りを楽しんでいます。

# My Gallery

山口敏之さん（氷上町出身）



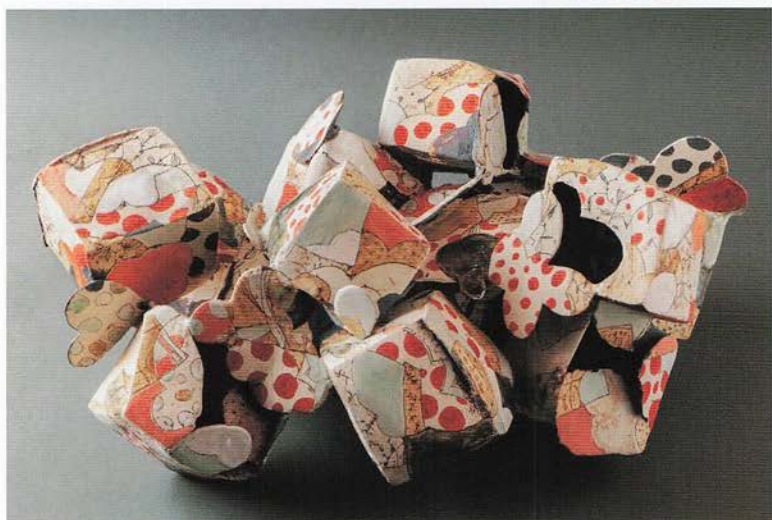
仕事で住んでいたオランダの南の端の街マーストリヒト近郊は、酪農が盛んで、毎週末の散歩時にはいつも牛と出会う幸せな環境でした。

基本的には放牧で、搾乳時間になると牛は自発的に牛舎に戻って来ます。

競技用自転車が大変盛んなオランダでも、道路横断の優先権は牛にありました。

# My Gallery

由良りえこさん (氷上町出身)



撮影 富山 剛



磁器が混ざった粘土を使用することで繊細な表現も可能になり、『水の化石』と題し、水しぶき・雨だれ・泡や波のおもしろさを作品にしてみました。2016年頃から、箱を組み合わせて、表面に絵付けをし、遊び心ある、軽やかな作品を『自遊な箱』と名付け制作しています。

過去の作品の球体を組み合わせたオブジェや水の化石と一緒に水戸市常陽藝文センターで8月から2ヶ月間発表いたしました。



# 簡単レシピ

## 万能たれ

松永則子さん

このレシピは40年程前京都に住んでいた時に、知り合いの中国の料理人の方より教えて頂きました。

以来、我が家の冷蔵庫には作り置きし、一年中頂いております。冷しゃぶ、そうめん、冷奴、サラダのドレッシングに、野菜炒めの調味料として、お使い頂けます。冷蔵庫で2か月位日保ち致します。

「美味しい」の魔法の言葉が頂ける事間違い無し。是非お試しあれ。

### 材料

1. 長葱 3本
2. 土生姜 50～60g
3. すりごま (白)

### 作り方

①長葱と土生姜は出来るだけ細かくみじん切りにします。

②調味料

醤油	大さじ 10
味の素	大さじ 1.5
砂糖	大さじ 4.5
酢	大さじ 1.5
すりごま	大さじ 5
ごま油	大さじ 1
サラダ油	大さじ 5
ラー油	好みで少々

③ボウルにすべての材料・調味料を混ぜ合わせて出来上がり。好んでサラダ油を足して調整してください。

生姜、長葱のみじん切り多めがお勧めです。



# 簡単レシピ

## 夏みかん丸ごとマーマレード

富田貞子さん

### 材料

夏みかん（無農薬がベスト）、  
砂糖、ステンレス鍋

### 準備

夏みかんを良く洗い、総量を計る  
砂糖は総量の60～70%

### 作り方

- ①丸のままたっぷりの湯で下ゆで（皮をむきやすくする）
- ②皮と実に分け皮は出来るだけ薄くきざむ
- ③②をたっぷりの湯で3回くらいゆでてこぼす
- ④実は2つ輪切りにして種を取る
- ⑤④を圧力鍋で煮る  
こげ防止に1カップの水を入れる
- ⑥⑤が煮えたら細かくきざむかザルでこす（フードプロセッサーが便利）
- ⑦③と⑥に砂糖を入れてこげない様に煮詰める（冷めたら固くなるので途中で皿などに取って固さを見る）
- ⑧長期保存には熱々を広ロビンに入れ上下を逆にしておくと良い

義兄の田舎の昔ながらの夏みかんを姉のレシピを参考に20年近く私の年中行事で楽しみに待っていてくれる友人たちに喜んでもらっています





# 丹波を撮る

写真・文：徳田八郎衛

## 変わる丹波変わらぬ丹波(1) 柏原町内の今・旧日赤前



←戦前も戦後も旧氷上郡の医療中枢の地位と役割を担ってきた日赤柏原病院も昨年取り壊され、遠方の瑞光寺も丸見えになった。跡地の利用については未だに「協議中」という（2021年9月撮影）。



←旧日赤と石田本通りを結ぶ路地。石田と上中町との境界でもある。城下町の雰囲気醸成のため、市街地の市道は土道のように作り直されたが、日赤閉鎖で人の往来は少なくなった。



←旧日赤前から柏原駅に至る路地に変化は無いが、何となく寂しそう。前方に見えるのは柏原駅。無人駅ではないが、発券サービスは、リモートコントロールの音声案内で行われる。

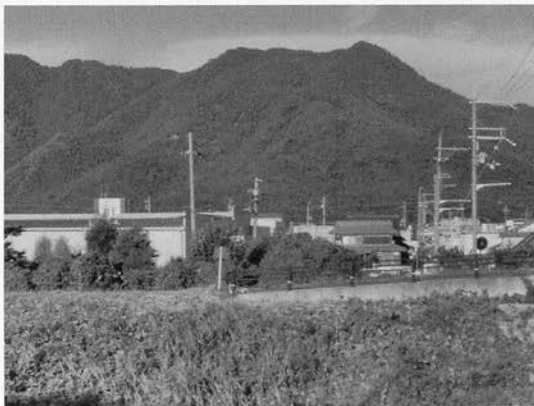
## 変わる丹波変わらぬ丹波(2) 柏原町内の今・奥谷川周辺



←奥谷川左岸の上中町公民館と右岸の日本イエス・キリスト教団丹波柏原教会は、変わりません。柏原駅から、この橋を越えて中兵庫信用金庫柏原支店前の十字路まで歩くと、石田・上中町・本町、そして下町と四つの自治会を横断することになりますが、人口減少は加速度的。



←石田本通りの荻野酒店は元気です。夏には、このノウゼンカズラがご近所の商店を元気づけます。だがコロナ禍で、残念ながら近隣の飲食店も幾つか閉店しました。



←柏原町の住宅は、旧市街地から北中・下町・南多田そして旧新井村地域へ拡散しましたが、今も変わらぬ入船山と清水山は町を暖かく見守っています（田路の柏原川堤防より撮影）。

【訂正】 52号「丹波を撮る 変わる丹波変わらぬ丹波(2)」60頁の翻刻文で「乃至之前々より」とあるのは「仍之前々より」の誤りでした。訂正し、お詫びいたします。

# 丹波を撮る

写真・文：徳田八郎衛

## 変わる丹波変わらぬ丹波(3) 柏原町郊外の今・コモレ周辺



←柏原町郊外の商業施設コモレ(母坪)や、ゆめタウン(氷上町本郷)では、通常は市外からも来る買物客で賑わうのであるが、令和3年(コロナ2年)は、雌伏の年であった。食料品売り場を除き正月もゴールデン・ウィークも、飲食店のみならず大型店舗は閉店を強いられた。客は店内へ入れず、電話で注文した品を窓口で受け取るだけである。



←1月の成人式も延期され、ゴールデン・ウィークに規模を縮小して開催された。この日だけ特別に着物のレンタルや着付けがコモレ内で行われ、晴れ着姿が寂しい店内を闊歩した。



←この母娘連れによると、冬から春まで、うっとりしいコモレに潤いを与えてくれたのは、高谷川へ現れるサギの優雅な姿であった。

## 変わる丹波変わらぬ丹波(4) 黒井町の今



←黒井の町中からも、このような立派な屋敷は数えるほど少なくなり、空き地が多くなりました。背後の山は保月城址です。



←この道は、狭いながらも昭和40年頃まで国道175号線でした。加古川水域と由良川水域を結ぶトラックやバスがソロソ走っていました。左の建物は黒井郵便局です。



←黒井駅ですが、時計が無くなりました。これほど乗客が減ってきたら、2年に一度、電池を買い替えるのも苦しいのかな？とJR西日本に同情した次第です。

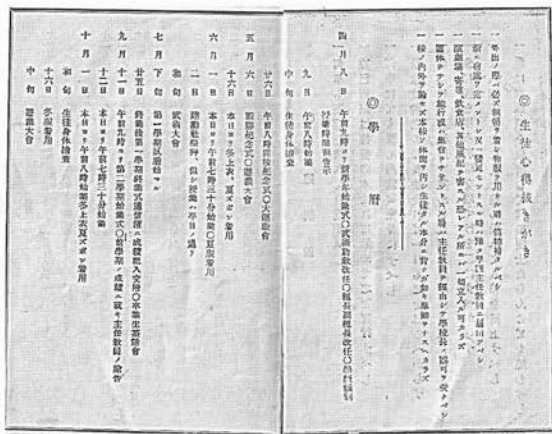
# 丹波を撮る

写真・文：徳田八郎衛

## 変わる丹波変わらぬ丹波(5) 柏原中学校第9回生の記録



↑→柏原中学校第9回生の生徒手帖が、母校の絵葉書と共に残されている。3年生では2クラスだったのに4年生では1クラスとなる。



←通常は午前8時始業だが、6～9月は7時30分に繰り上げとなる。まだ欧米諸国もサマータイムを導入していない時代なのに、趣旨を先取りしたのであろうか。ただ、鉄道利用の通学生や3時間かけての徒歩通学生には難行となった。

# 丹波を撮る

写真・文：徳田八郎衛

## 変わる丹波変わらぬ丹波(6) 柏原中学校第9回生の記録(続)

月日	十一月二十一日
記	朝、新宮参拝。午後、伊勢神宮参拝。午後、度々二泊三日や日帰りの集団旅行が行われ、どれも修学旅行と称している。近隣の播但線(1906年開通)や小浜線(1917年)、加古川線(当時は播丹鉄道、1924年)よりも遥かに早く1899年に開通した福知山線(当時は阪鶴鉄道)の利点を活かし、山国柏原の少年たちの見聞を広めさせたいという学校側の熱意が読み取れる。この一文は、明治41年(1908年)11月に一番列車で宝塚まで移動、神戸市内まで徒歩行進(宿舎到着は午後7時20分)。翌日、水族館や湊川神社を見学した後、神戸へ行幸の明治天皇を奉迎するという意欲的な小旅行の記録である。
記	神戸市内まで徒歩行進(宿舎到着は午後7時20分)。翌日、水族館や湊川神社を見学した後、神戸へ行幸の明治天皇を奉迎するという意欲的な小旅行の記録である。



記録した徳田富二生徒

←生徒手帖に記された生徒の行動を見ると卒業前の伊勢神宮参拝旅行以外にも、度々二泊三日や日帰りの集団旅行が行われ、どれも修学旅行と称している。近隣の播但線(1906

年開通)や小浜線(1917年)、加古川線(当時は播丹鉄道、1924年)よりも遥かに早く1899年に開通した福知山線(当時は阪鶴鉄道)の利点を活かし、山国柏原の少年たちの見聞を広めさせたいという学校側の熱意が読み取れる。この一文は、明治41年(1908年)11月に一番列車で宝塚まで移動、神戸市内まで徒歩行進(宿舎到着は午後7時20分)。翌日、水族館や湊川神社を見学した後、神戸へ行幸の明治天皇を奉迎するという意欲的な小旅行の記録である。

割間時組〇年學四第					
土	金	木	水	火	月
化	修	博	我	博	一
代	代	代	代	代	二
M	園	園	代	代	三
信	代	地	博	博	四
園	代	代	代	代	五
/	/	天	天	天	六

←戦後の新制高校は英語重視と言われ、時間割の配当時間も文法に3、リーダーに3であった。然るに柏原中学校の場合、3年生と4年生いずれにおいても、また前後期いずれにおいても、文法(L)に3、リーダー(R)に4と新制高校を凌いでいる。残された教科書、副読本を見ても新制大学の教養部教科書に匹敵するほどの高レベルである。また土曜日午後も授業は行われ、週休二日制の現在とは比較にならない忙しさであった。

なお時間割の「地」は地理学である。自然地理も含み、現在の地学に近い。「博」は博物学。動植物学・地質鉱物学を履修するもので、化学とともに週2時間の配当。「作」は作業であるが、勤労奉仕ではなく農作業である。「修」は修身だが、誤解されているような忠君愛国ではなく、友人や地域の大人との交際に必要な

必要な礼儀の重要性から説き始め、今の公民科に近いものである。

慣れ親しんだ柏原八幡神社がなくなる!?

柏原高校のすぐそばにあり、柏高生が朝の登校時や下校時にデパートを楽しんだ場所でもあった八幡神社。この通称「八幡さん」が令和の大修理に入っている。その一環として、このほど社号標の建て替え作業が終わった。これを機に社号標も「八幡神社」から「柏原八幡宮」に変更。社号標は特注の岡山産白御影石。揮毫は京都の石清水八幡宮の宮司で神社本庁総長の田中恒清による。それを地元石匠六代目難波金兵衛さん（丹波市柏原町）が二カ月がかりで手彫りした。

千種宮司によると、「八幡神社」は、江戸時代以前には「柏原八幡宮」「八幡宮」「別宮八幡宮」のいずれかだったらしい。それが明治維新の神社制度の変更に「宮」から「神社」になったという。今回の大改修で、平安時代からの元の社名の「柏原八幡宮」に戻ったことになる。

名前は変わっても「八幡さん」であることには変わりないのでご安心あれ!

### 集まれ！全国の足立姓

丹波に多い「足立」姓。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の影響で「足立」姓は今まで以上に全国レベルになった。源頼朝を支える足立遠元とその孫の足立遠政のお陰だ。

足立遠元は今の東京都足立区や埼玉県北足立郡辺りを所領としていたが1209年に孫の遠政が鎌倉幕府から佐治庄の地頭に任命され、これを機に遠政は青垣地域に幾つもの出城を築いた。そして一族を配置した。以来、明智光秀に滅ぼされるまでの370年間、治世は続いた。そのため青垣の遠阪を中心に、丹波で足立姓が広がったのである。福知山鉄道病院長だった安酸睦博氏によると「足立姓」の約95%は遠元を遠祖としているという。

青垣地区遠阪では全国の足立さ

ん集まれ祭り」の開催を計画中。先祖の理解を深める講演会、現地見学会などを開き、各地の「足立さん」との交流も目指す。今、祭りに向け、「遠元」「遠政」の看板の設置、プロモーションビデオの作成、「足立姓」の著名人の招待などを企画中である。ドラマで遠元役を演じた大野泰広さんのトークショーも企画されている。あなたも足立姓なら参加されてはいかが？お祭りは11月13日。

### 丹波にUターン・Jターンための4つの施策

丹波市もご多分に漏れず人口減に悩む。そのために丹波市がとった政策は、若い世代の取り込み。そのためにこの度、四つの奨励策を打ち出した。「若者定住奨励金」「ハッピーバース手当」「ふるさと就職奨励金」「福祉人材確保支援補助金」などの奨励金制度。予算総額1億800万円。100万円ほど受け取ることができる世帯も出てくるという。これで丹波市の人

口が増えるなら高くはない。安いものだろう。

### 丹波市が「女子野球タウ」の認定を受ける

丹波市は2000年にスポーツピア「いちじま」を開設して以降、毎年夏に「全国高等学校女子硬式野球」の全国大会を開いてきた。また選手に活躍の場を提供し、競技の裾野を広げてきた。それらの功績が認められ、この度、全日本女子野球連盟から「女子野球タウ」の認定を受けた。丹波市は今後もこの大会を継続開催するほか、女子野球日本代表（マドンナジャパン）などを招いた小中学生対象の野球教室などのスポーツ関係のイベントを計画している。

また今回市は「女子野球タウ」の認定を受けたことで、地域企業とのコラボも考えている。女子野球タウのロゴやマークを活用した新しい商品開発や販売だ。大いに丹波市の振興を図ってもらえれば嬉しい。



撮影：徳田八郎衛 大岡橋から下流を見る

# 丹波から

## 第九を丹波市の風物詩に！ 「30人の第九」演奏会顛末記

多川 眞一（丹波市柏原町）



たった「30人の第九」と言う、あまり類を見ない演奏会が、昨年11月28日（丹波の森公苑大ホール）で600名という予想をはるかに超える聴衆を集め開催されました。ピアノ、弦楽器（7名）ティンパニー、指揮者の10人でのミニオーケストラ。そしてソリスト4名、合唱21名という総勢35人の構成でした。ミニオーケストラは別にして、とにかくソリスト、合唱団は丹波在住者や出身というこだわりをもつての開催でした。

この「30人の第九」演奏会、私事で申し訳ないのですが、元は長女がオーケストラアンサンブル神戸と「ピアノ協奏曲第5番皇帝」（ライフピアノ市島大ホール）を演奏したことがきっかけでした。そのコンサー



トは「ベートーヴェン生誕250周年記念」（コロナ禍で昨年3月に延期開催）として丹波市が企画、主催してくださりました。

其のことを色々な人にお知らせする過程で、「コロナ禍で歌が歌えない」「昔は丹波にオーケストラが来ていたのに無くなってさみしい限りです」などなど、丹波での音楽活動の沈滞の声を多く耳にしました。

それならば、せっかくオーケストラアンサンブル神戸と知り合ったのだから、その少しのメンバーとピアノを入れてミニオーケストラを構成すれば少ない資金でも可能だ、第九がやれたら、合唱もできて盛り上がり皆に喜んでもらえるよね…と思いい立ちました。

早速友人で、合唱でも活躍している大仏堂（仏具店）会長、富田氏にソリストを依頼するとともにその



構想を相談。富田氏は「私では第九のソリストは無理。でもできそうな人がいるからその人に依頼しよう。第九は是非歌いたいの

色々誘って合唱には出るよ」とこの企画をやってみようということ、富田氏と一緒に別のソリスト候補のところ。結局ソリストは別の人（山南町出身関西声楽家）になりましたが、そのソリスト候補の発案で早速「実行委員会」（7名）を立ち上げ2月にスタートしました。

運営資金のこともあり、ピアノ（オーケストラの管楽器パート）と弦楽器数名とティンパニーと指揮者で楽器部分の演奏を行うことにしました。後述しますが、実はこれが私の大いなる勘違い記憶違いで、何も知らない素人の強みから実現したことでしたが（笑）。

それ以外は全て丹波在住者（出身）でやろう！という方針を決めました、さてその合唱団の人をどう決めるか…で二転三転することに。最初は演奏会の質を高く保つために、合唱団の質も良くしたいと、オー



第九の練習風景

けは全て丹波在住者（出身）でやろう！という方針を決めました、さてその合唱団の人をどう決めるか…で二転三転することに。最初は演奏会の質を高く保つために、合唱団の質も良くしたいと、オー



「30人の第九」の様子

ディジョンをやって決めようとなりました。

ところが、「審査員が丹波で合唱の団体に所属している人（指導者）では選出の透明性に欠けるのでは？」という声が上がリ、審査をアンサンブル神戸の指揮者にお願ひするごとに変更しました。

「オーディション募集」のチラシが出来上がったころ、またまた「丹波市の多くの合唱団に所属している人が応募するはずで、その中で合否が決まるとしこりがのこるのでは？」と言う声が聞こえるようになり、第1回でもあるので、それは避けよう…となり、結局、音大出身者か過去に第九を歌ったことのある経験者20名限定で先着順という枠を決めて実施、何とか21名で合唱団がスタートしました。

次の問題は、練習場所の確保です。コロナ禍の最も



第九の女性パート

厳しい時期でしたので、再三にわたり施設が期間限定で使用禁止になってしまいました。丹波の森公苑、山南町やまなみホール、はたまた市役所横の体育館までも練習会場に使用するという、会場確保に走り回るようになってしまいました。

練習も軌道に乗ってきた9月末になり、時間の関係上第3楽章と第4楽章としていたプログラムを、ゆつたりとした始まりでは、第九の緊張感に欠けるので第2楽章からにしよう…と変更。ところがピアノと少しの弦楽器の第2楽章の楽譜は存在しないよ、と指摘され、またまた大騒ぎに。

この企画を考えたのは、過去に長女がピアノと5人の弦楽器で10人くらいの合唱で第九をやっていたとの記憶違いから可能と思ったことでした。長女から、あれは2台のピアノ連弾（リスト版）（オーケストラ



第九の男性パート

パート）で合唱（10人）付きの第九をやったので、5人の弦楽器との演奏は、第九ではなくピアノ協奏曲であつたことを知らされ、知らない素人の強みで今回の企画を進めたことが判明しました（笑）。

指揮者が「ピアノ連弾第九」やオーケストラスコアの楽譜などから編曲、作曲してスコアを作成してくれることで何とか解決しました。

コロナ感染者の沈静化もあり、9月末に開始したチケット販売も順調に進んでいたのですが、途中の集計ミスなども重なり、本番10日くらい前にチケット数がこのままで丹波の森公苑の座席数（コロナ禍で削減）を超える勢いであると判明。あわてて完売アナウンスを出しましたが、多くの方の聴衆希望をお断りするといふ申し訳ない事態も起こ

りました。

やっと、前日にリハーサルまで来ましたがまたまた大変。指揮者が楽譜のないところを編曲、作曲してくれた2楽章でしたが、なにせ急なことで、日数もなく、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、コントラバス等々に渡っていた楽譜の各小節番号が違っていたり、挿入した楽譜がある楽器にはなかったり、順序が違っていたり……。この日に初めて一堂に会してのリハーサルだったので、演奏が始まるや指揮者から各楽器に指摘が出るのですが、楽器奏者からは「楽譜はそういうになつてませんよ」「私の楽譜には其の部分ないですよ」とやり取りが。

その都度修正、修正（その場で編曲？）の繰り返しで、リハーサルに立ち会っていた私をはじめ実行委員会のメンバーも、明日日本番なのにどうなることやら……と心配して見ていました。ですがそこは優れたプロの演奏家達の集まり。1時間もすると見事な演奏に仕上がっていきました。

せっかくの機会ですので、丹波の優秀な小学生、高校生とのオーケストラメンバーとの協演も実現し、そ

の曲で挑戦したその後の全国レベルのコンクールで小学生が優勝するという成果もありました。

第九は誰でも参加でき、達成感を味わえる市民参加芸術の最たるものです。音大を卒業しながら丹波で機会もなく埋もれている音楽家の発掘にもなります。これを毎年継続していくことで、全国に誇れる「音楽の街丹波市、第九は丹波の風物詩」になれたらと思っています。

今年フルオーケストラと、合唱も50人の市民で12月18日に開催します。

「30人の第九」から「100人の第九」になります。

(1950年、愛媛県松山市生まれ。元ガンツ化成常務。1975年3月 大学卒業と同時に丹波に赴任(ガンツ化成入社 丹波研究所に配属)。以後、勤務は大阪や丹波を行ったり来たりでしたが、居住は1975年以降変わらず丹波市柏原町現在に至る)



撮影・岡 吉明

## いつまでも自然豊かな丹波に！

荻野 拓 司（丹波市市島町）



関東氷上郷友会の皆様、初めまして！ 私は、丹波市市島町に在住する荻野拓司（おぎの ひろし）と申します。このたびは、ご縁をいただき、貴会報「山ざる」への寄稿の機会をいただきました。ご縁に深く感謝いたします。

まず、簡単な自己紹介になりますが、昭和47年に柏原高校を卒業し、その後、上京し、当時、神田お茶の水にあった中央大学で学びました。当時を振り返れば、今、東京スカイツリーの建っている辺りで、一年間住み込みをし、日経新聞を配達したことも懐かしい思い出です。

大学卒業後は、神戸に本部を持つ県下JAの指導機関とされるJA兵庫中央会に20年近く勤務し、さらにその後は、丹波に戻り、合併前の町議、丹波市議を20

年間務め、現在は、「丹波いちじまふぁーむ&奥丹波の森」という小さいながら法人を立ち上げ、農と食、そして森に関わる活動を行っています。

活動の概要は、農業を多面的に捉え、「生産」、「加工」、「販売マーケティング」、「飲食」に関わり、宿泊施設を設け、主に京阪神からの自然・農体験などの受け入れを行っています。いつも、ご家族の笑顔、特に、子どもたちが元気に駆け回る光景がとてもいいと感じています。農園に隣接する「奥丹波の森」には、林内にサワガニのとれる小川が流れ、ツリーハウスなどの施設を設け、森には木漏れ日が注ぎ、猛暑の夏でも程よい気温が癒しの場になっています。施設はほとんど手づくりでいろいろ設けています。

こうした私自身の活動を通じて、4年前に結成したのが、「ムラとマチの奥丹波」（通称…ムラマチ）というグループです。メンバーは、20数名いて、そのほとんどが丹波市外からムラに移住され、ムラに関わり、丹波をふるさととして頑張ってくれようとしている人たちです。年齢も30歳代から80歳ぐらいまで幅広い年齢層です。実にバラエティー豊かな職歴やこれから丹



「奥丹波の森」のツリーハウス

波で農業をやるうという若い農業者の集まりともなっています。

結成時に、クラウドファンディングで資金を集めました。私たちムラマチの「農」活動や自然を通じて、ムラとマチの人を繋ぐという活動に賛同し、ご支援いただける方を募り、目標金額は40万円とし、結果的には目標金額を超え、60人余の支援者ができました。

ムラマチの活動は、できるだけオープンに都会からの人の参加も得ながら、有機栽培で、お米づくり、丹波黒大豆、サツマイモ、ジャガイモ、野菜を栽培し、できた野菜は都会にお届けしたり、お越しいただいた方にご利用してもらえよう頑張っています。そして、年数回は、丹波発の「お楽しみふるさとBOX野菜」便に仕立て、関東氷上郷友会会員さんにもご利用をいただいているところです。



「ムラマチ」の村作業の様子

ムラとマチがつながることで、過疎高齢化が進むムラにも活力をいただきます。また、都会の人には、安心・安全な農産物をお届けし、こちらにお越しいただく方には、ホッとされる場の提供や、食料危機も懸念される中で、食糧自給の大切さを活動を通じて伝えていきたいと思っています。

「ムラマチ」の活動にも、個人はもとより、いろいろな団体、組織とのつながりができてきて、神戸のNGO法人「神戸海外災害支援センター」とは、毎年農業を通じた交流活動を行っています。また、これから県内の複数の大学の学生等との交流を予定しています。秋には、収穫祭を行い、コンサートなどもやっており、最後に締めくくる曲は、決まって「ふるさと」です。

「うさぎ追いし かの山、こぶな釣りし かの



「ムラマチ」の農作業の様子

川……」で始まるこの歌の歌詞に込められた、環境をできるだけ残したいし、丹波を故郷とされ、都会にお住まいの人にとつても、山は青く、水は清き、忘れ難い故郷であつてほしいと願うところです。

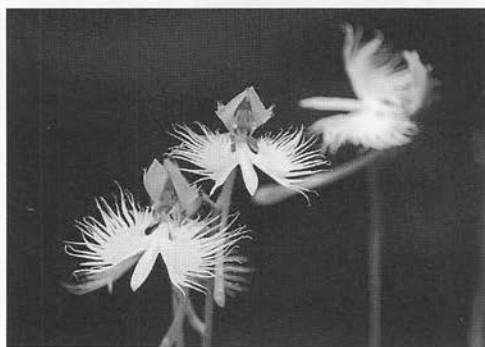
丹波市の林市長が、政策

で「帰って来いよ！」運動をスローガンに掲げておられますが、ささやかですが、そんな丹波のふるさとづくりにつながればと願っています。

遠く関東から、丹波を温かく見守りいただき、何かのつながり、ご縁ができれば幸いに思います。また、機会があれば何かのご意見や丹波への思いもお聞かせいただければ、私たちの活動の励みにもなることでしょう。私の連絡先は丹波市市島町北奥339 ☎ 090・2105・7811です。

最後になりましたが、皆様のご多幸、ご健勝を心からお祈りいたします。

(柏原高校24回生)



撮影・岡 吉明

# 丹波ブランド紹介

その13「丹波 婦木農場」

農業の可能性は無限大  
米、麦、豆、酪農、チーズ、農家  
カフェ……進化し続ける農場

萩野 祐一

(丹波新聞社会長)

丹波市春日町野村にある「丹波 婦木農場」。事業内容は水稲7ha、小麦0・5ha、豆1ha、養鶏、酪農、チーズなどの加工品製造、農家体感施設での宿泊・農業体験・農家カフェと、その規模は丹波市内でも群を抜く。江戸時代から農業を営んできた婦木家の現在の当主で「丹波 婦木農場」代表の婦木克則さん(59)は、先祖の築いてくれた財産を継承しながら、農業の持つ可能性を広げ、次々と新しい分野に挑戦してきた。そ

の姿勢は、婦木さんの息子たちにも引き継がれ、長男の敬介さん(30)はチーズ工房を開設するなど、婦木農場に新しい風を吹き込んでいる。

「今、農村はおもしろい。」

婦木さんは、水稲や酪農を手がける農家の長男に生まれた。中学校を卒業後、播磨農業高校に進学。高校時代、学校に講義にやって来た働き盛りの農家に「どうして売ればいいんですか」と質問した。それに対する



婦木克則・奈保子さん夫婦と、敬介・百合香さん夫婦

る回答は決まってる。「いいものを作って市場に出す」だった。いかに売るかという発想はなく、農家は、生産に専念することに尽きた。そんな固定観念に対する疑問が、生産だけにとどまらず多角的



に農業を展開する今の婦木農場の原点になったと言える。

卒業後、農業者大学校に進学。友達や講師、農家ら多くの人との出会いの中で、農業に対する見方が変わり、「農業は、歯を食いしばってするものではない。楽しんでほしい」と考えるようになった。帰郷後、就農に際して購入したワゴン車のリアガラスに「今、農村はおもしろい！」という言葉をペイントした。この言葉に興味を持ち、婦木さんに電話をかけてきた女性、奈保子さんとのちに結婚した。

### 長男がチーズ工房開設

1女3男の子どもに恵まれた。このうち長男の敬介さん、次男の陽介さんが就農した。

子どもの頃から農作業を手伝っていた敬介さん。産直で婦木農場とつながっていた都会の消費者グループが農場にやって来て、農作業を手伝い、みんなで楽しく会食している光景を見て、子ども心に「農業は人の役に立つ仕事だなと思った」という。

三重県伊賀市の愛農学園農業高校を卒業後、静岡県

の牧場で半年間修業し、その牧場からジャージー牛の子牛2頭を連れ帰った。その牧場では低温殺菌牛乳を作っており、農家自身が牛乳を加工することに酪農の可能性を感じたという。その後、東京の日本農業経営大学校に進学した。「チーズならば保存がきく」と思い、入学当初からやがては実家でチーズの加工ができないかと考えていました」。入学から1カ月後、ゴールデンウィークを利用して沖縄や北海道のチーズ工房を訪ねた。北海道では、日本でチーズの第一人者と言われる



婦木農場にチーズ工房を開いた長男の敬介さんと妻の百合香さん

る農家と出会った。大学校で必須の農家研修があった際、以前出会った北海道・十勝の農家のチーズ工房で半年間修業した。初めての弟子だったそうで、乳酸菌をどう働かせてチーズを作るかなどを学



ショーケースにチーズが並ぶ「丹波チーズ工房ショップ」

婦木農場に念願のチーズ工房を設けた。

### コンテストで最高賞

静岡県から連れ帰ったジャージー牛の子牛2頭を始まりに、現在飼育しているジャージー牛は親牛6頭、子牛4頭で、ほかにホルスタインを1頭。チーズは現在、7種類を作っている。

なかでも「蔵熟成ゴード」(蔵の中で丸1年間、毎日手入れを重ねてじっくり熟成させたセミハードタイプのナチュラルチーズ)は、一昨年、国産チーズのコ

んだ。師匠からは「良い牛乳から悪いチーズはできる。でも悪い牛乳から良いチーズはできない」とも教わった。

修業を終えて大学校に戻ったが、「座学がつまらなく、卒業まであと半年を残して中退しました」。帰郷後、



ネット販売などを受け持つ次男の陽介さん



婦木農場で飼っているジャージー牛

ンテスト「ジャパン・チーズ・アワード2020」で銀賞、昨年には「ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト」でグランプリに当たる農林水産大臣賞を受けた。日本国内にあるチーズ工房がそれぞれ自慢の品を出し、競い合うコンテストで輝かしい成績をおさめた。「グランプリには『やった』という感慨がありました。味はどこにも負けないという自信はあります。でも、まだ上がありません。慢心することなくチーズ作りに励み、

牧草の香りがするチーズをめざしたい」と話す。

敬介さんが妻の百合香さんと一緒に作るチーズを販売する「丹波チーズ工房シヨップ」を今年、婦木農場の敷地内に建てた。7種類のチーズをはじめ、すつきりした甘みが特長のソフトクリームや、自家製の米や野菜も販売している。

### 次男の新事業「おむすび」

次男の陽介さんも農作業を手伝いながら育ち、就農した。今は米や野菜のほか、高専卒業の技能を生かし、ホームページでの発信やネット販売を受け持つ。さらに今年から担当が増え、地元春日町にある道の駅「丹波おぼあちゃん」の里」で7月から本格的に販売を始めた「農家のおむすび」を受け持っている。婦木農場でとれたコシヒカリの玄米を使ったおむすびで、自家製の醤油を使った「あぶり醤油のおむすび」など3種類を販売しており、今後、婦木農場でとれた卵やチーズなどを使ったおむすびの販売を予定（7月末時点）、さらには大阪市内で店を開こうと準備を進めている（同）。



1棟貸しの農家民宿の施設「農家体感施設〇」

### 「農業の可能性は無限大」

婦木農場に9年前、地元産の木材を使った「農家体感施設〇（まる）」が完成した。「〇（まる）」は、ドレーエモンの通り抜けフープをイメージして命名した。通り抜けフープをくぐると、農業や農家の世界に入り込めるといふものだ。1棟貸しの農家民宿の施設で、婦木家の家族と一緒に農業体験が楽しめるほか、婦木農場の食材を使って、婦木さんの妻・奈保子さんの作った家庭料理を味わってもらう。一緒に食べながら農業や料理、村の話などをすることもあり、宿泊者には移住希望者もいるという。

「〇（まる）」ではその後、月に2回のペースでカフェも始めた。現在では、3月から11月まで、毎月第1と第3日曜日に開催している「オ

「プンファームデー」の催しの一つとして「○カフェ」を開いている。旬の野菜や米、平飼いの鶏の卵、ナチュラルチーズなど、婦木農場の食材を使って調理したランチプレートを提供している（要予約）。

婦木さんが就農に際して「今、農村はおもしろい！」と発信してから、およそ40年。婦木農場の力強い歩みはとどまることなく、手がける領域を広げてきた。それもこれも、婦木さんには「農業の可能性は無限大」という信念があるからだ。

【丹波 婦木農場】電話番号 0795・74・08  
20 メールアドレス info@fukifarm.com



撮影・岡 吉明

丹波人物伝

武庫川女子大学  
校祖・公江喜市郎翁  
女子教育の礎を築いた人生

足立敏 晤 (茅ヶ崎市)



1 日本の女子教育の先駆者・公江

喜市郎

公江喜市郎は、1897 (明治30)年2月16日兵庫県氷上郡芦田村

(現・丹波市青垣町) 栗住野に生を受け、1918 (大正7)年3月旧・御影師範学校を卒業した。

29歳の若さで兵庫県視学(注)となり、1931 (昭和6)年5月、首席視学であった34歳のとき、官命により外国の教育事情視察のため日本郵船の花形客船「白山丸」で神戸港から欧米へ旅立った。イギリスのイートンスクールなどの中等学校やオックスフォード、ケンブリッジ両大学で人間教育を受ける生徒・学生の意

欲的な行動に感銘を受け、帰国後、学校創設に着手した。

(注) 視学は旧制の官名で教育の運営状況を監督管理した役職

2 学校創設時からの苦難の道のりと「行幸」の実現  
公江喜市郎(以下、「喜市郎」という)は、嘱望されてきた官界の道を自ら断ち、多難な私学経営の中でもより困難な女子教育の道を歩みだした。1939 (昭和14)年に武庫川学院を創設したが、その後の道のりは決して平坦ではなかった。郷里の両親の土地を担保に、ようやく越年資金を得る状態の日もあった。

1945 (昭和20)年の終戦では、戦火のため校舎の大半を焼失し、創設時にもまして苦難を乗り越えねばならなかった。1947 (昭和22)年には、昭和天皇陛下、皇后陛下の西日本「行幸」の際、武庫川学院への「行幸」(注)の榮に浴しているが、終戦直後から困難な女子教育に立ち向かう喜市郎の姿勢が、評価され「行幸」が実現したといえよう。

行幸に際し「私は、どんなことがあっても、本学院が日本の女子教育の総合学園として完成し、将来気品

ある有能な夫人の育成をいたします」と奏上している。

(注) 天皇陛下の視察

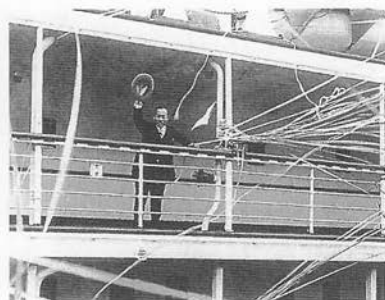
### 3 公江喜市郎の慧眼力

喜市郎が育った時代は、女性は早く結婚し子供を育てる「良妻賢母」が理想とされ、国全体が女子教育を決して高く評価していなかった。そんな中であつて喜市郎は「母・のぶ」の厳しい躰と教えにより、女子教育の必要性を自然と身につけていき、学校創設に当たり、知性・情操・徳性を兼ね備えた女性育成の礎を築いていった。



公江喜市郎翁

2015年(平成27年)8月「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(以下「女性活躍推進法」という)が成立し、国や自治体、企業などの事業主に  
対して、女性の活躍状況の把握や課題の分析、数値目標の設定、行動計画の設定・公表など



欧米視察出発の日(昭和6年)



天皇陛下の行幸(昭和22年)

が求められている。政府は、女性が十分に活躍できていない現状に鑑みて「女性活躍推進法」を成立させ、女性が働きやすく、かつ長期的にキャリアを形成していけるように国、地方公共団体、一般事業主に対して改革を求めた。

このことは、まさに喜市郎の建学の精神に通ずるものであり、昭和、平成の世を経て女性の地位向上に向けて画期的な法整備が図られた。生前、女子教育の必要性を常に追求してやまなかつた泉下の喜市郎が、もし法律の制定を聞けば、我が意

を得たりと喜んでくれるはずである。その慧眼力には深い感銘を覚える。

4 武庫川学院創設時からの主な歩み

武庫川学院の歩みをまとめてみると、次のとおりである。



- 1939年2月 武庫川学院を武庫川河畔に創設
- 1939年4月 武庫川女子専門学校開校
- 1947年4月 武庫川学院中学校開校
- 1948年4月 武庫川学院高等学校開校
- 1949年4月 武庫川学院女子大学開学
- 1950年4月 武庫川学院女子短期大学開学
- 1958年 武庫川学院女子大学を武庫川女子大学に改称
- 1966年4月 武庫川女子大学大学院修士課程開設

- 1975年4月 武庫川女子大学附属幼稚園開園
- 1985年4月 武庫川学院女子短期大学を武庫川女子大学短期大学部に改称

1995年4月 武庫川学院中学校を武庫川女子大学附属中学校に改称

// 武庫川学院高等学校を武庫川女子大学附属高等学校に改称

2008年12月 東京・帝国ホテルタワーに東京センターを開設

2010年4月 武庫川女子大学附属保育園開園

2017年1月 東京センターを東京駅八重洲中央口前に移設

5 武庫川女子大学の規模

- ・武庫川女子大学 || 10学部17研究科
- ・短期大学部 || 7学科
- ・大学院 || 7研究科13専攻1専攻科
- ・学生数 || 8365人

(2020年5月現在)

\*日本の女子大学の中で、学生数は最も多い。

## 6 国際交流

アメリカ合衆国の12大学と協定校を結ぶほかに、11か国18の大学と協定校になっている。

## 7 郷土愛

郷土愛の強かった喜市郎は、1962年(昭37)6月、旧・芦田小学校へグランドピアノを寄贈し、また1966年(昭41)の校歌制定時には、喜市郎の配慮により武庫川女子大学教授・森清が作曲を担当した。ちなみに作詞は、旧・芦田小学校卒業生で女流俳人・細見綾子によるものであった。

なお、母校・芦田小学校は、平成29年3月に閉校となったが、青垣町内の4小学校(佐治・芦田・遠阪・神楽小学校)が統合され、同年4月「青垣小学校」が誕生した。

## 8 近代化産業の地域遺産

武庫川女子大学は「旧・甲子園ホテル」を所有し「武庫川女子大学甲子園会館」として活用し、歴史ある地域遺産物件の保存に貢献している。

## 9 主な経歴と受章

・文部省私立大学審議会委員 日本私立大学協会副会

長日本私立短期大学協会会長

・藍綬褒章受章(昭和32年教育功労者)

・勲二等旭日重光章受章(昭和48年秋の叙勲・教育功

労)

## 10 没年

昭和56年9月6日逝去(享年84歳)

正四位に叙せられ銀盃授与

## 11 おわりに

武庫川学院中央キャンパスに、Founder Memorial Room 校祖室があり、校祖に関わる品々が展示されている。また、学院記念館は、かつての学院本部建物を移築保存したもので、創建当時の面影を今に伝える由緒正しい建物である。(文中、敬称略)

※参考資料

・武庫川学院創立80周年記念特設サイト(武庫川学院80年のあゆみ)

・校祖公江喜市郎先生没後40周年記念誌(資料提供)

垣本延子氏、高山周子氏)

(昭和17年生、青垣町出身。元さいたま地方検察庁事務局長)





芦田均



島崎藤村 (小諸市立藤村  
記念館提供)

## 「芦田均日記」から読み解く 芦田均と島崎藤村

荻野 祐一

(丹波新聞社会長)

「帰つて破戒をよむ。今日で済んだ。破戒といふのは藤村の作で、此の頃の評判だといふから一寸読んで見た。全体いふと細かい写生文で華美な処は更がない。主人公ハ丑松といふ新平民の先生(略)」

旧制柏原中学校を卒業し、のちに内閣総理大臣になった芦田均の日記の中の一文である。周知のように

『破戒』は、芦田の柏原中在学時の校長、大江礒吉をモデルにした小説である。明治39年3月、「緑蔭叢書」第1篇として藤村が自費出版し、我が国の自然主義文学の出发点ともなったといわれる作品である。芦田の日記の日付は同年の5月22日。出版されてからわずか2カ月ほどで読んだことになる。このとき、芦田は、主人公の丑松のモデルがまさか大江だとは知らなかつたらう。

しかし、その後、「大江がモデル」という説が流布した。いつの時点かはわからないが、芦田もその説に接したはずだ。大江がモデルだったことを知る一方で、文学青年だった芦田はのちに藤村と知り合っている。藤村と面識を得た芦田は、大江について藤村と語り合つたに違いない。はっきりとした確証はないが、私は今、そう考えている。

「芦田均日記」から芦田と藤村のつながりについて読み解いてみる。

### 大江礒吉に感化を受けた芦田

芦田は明治32年に柏原中学校に入学した。2年後



大江磯吉

の34年、大江が2代目校長として赴任した。芦田の孫で「芦田均日記」(以下、「日記」)を編纂した下河邊

元春氏が以前、柏原高校で講演をした際、芦田は大江の感化を受けたと話した。自由と平等を尊ぶ教育を進めた大江の姿勢や考え方に接し、芦田のリベラリストとしての素地が培われたという。大江は、校長着任の翌年に亡くなり、わずか1年半の在任期間だったが、芦田にとって大江は生涯忘れられない人物の一人であったはずだ。ちなみに大江に「ナマス」というあだ名を献上したのは、芦田だったと言われている。

芦田は明治37年、第一高等学校に入学。40年、東京帝国大学仏法科に入学した。

明治41年12月6日の「日記」に、「藤村の『春』を和辻君に借りた。岸本の痛切なる煩悶等は実に青年の心を引く、云ふに云はれぬ寂しさと共に焦げん

程の熱ある恋を慕ふ」、2日後の12月8日には「藤村の春を読む。痛切な煩悶を描いてある処が気に入る、僕もかくの如く美しい夢を追うて、ロマンチックな生活の中に住みたい(略)」とある。

『春』は、藤村の自伝的小説とされる。読後感として5日の「日記」に「焦げん程の熱ある恋を慕ふ」とあり、8日の「日記」にも「恋の真面目なべきを思つて自ら恥ぢた」などあり、芦田のロマンチストの側面がうかがえるが、この年の夏、芦田は箱根で、のちに夫人となる長谷寿美と出会い、次第に思慕の情を強めていく。そんな背景も手伝つて『春』にひかれたのかもしれない。芦田はその後もたびたび『春』を読み返している。芦田にとって衝撃的な一冊だったのだろう。

「日記」にある「和辻君」とは、芦田と同じく東京帝国大学の学生だった和辻哲郎だと思われる。『古寺巡礼』『風土』などの著作で知られる倫理学者の和辻である。芦田と和辻の関係については後で触れたい。

明治43年9月18日の「日記」に、「午后花木君を訪問して、藤村の『新片町より』を読んだ」とある。『新片町より』は、藤村が『破戒』出版後から発表した原稿を集めたもので、その中に『山國の新平民』という一編がある。「信州の新平民のことで、私が見たり聞いたりした事實を、すこし話さう」という書き出しで始まるこの文章で、藤村は『破戒』にはモデルがいたことを示唆した。今の長野県飯田市に生まれた大江は、まさしく「信州の新平民」だった。『山國の新平民』の読後感が「日記」に書かれていないのが惜しまれる。

### 『破戒』のモデルは大江 芦田はいつ知ったのか

2年後の明治45年4月発行の柏原中学校校友会「会誌」の「創立第十五周年記念号」に佐藤生の署名で「開校第十五周年記念に因みて」と題した文章が掲載された。その中に「時の校長は、大江磯吉先生だ、僕は或人から、島崎藤村著の、小説破戒の主人公は、即ち、大江校長だ、と聞いた事がある。真偽はわからぬが、兎角、人格高尚、校長としてあれ

だけの人は少ないと思ふ」とある。

芦田は、柏原中学校を卒業後も母校とのつながりを大事にした。たびたび中学校や同窓会に原稿を送っており、東京でも同窓生の集まりを開いている。当然、この記念号も手にして読んだはずで、遅くともこの時点で芦田は、『破戒』は大江を描いた小説であることを知っていたことになる。

さらに昭和8年2月25日発行の柏原中学友会の「会誌」第43号にも、「大江校長は島崎藤村の小説『破戒』の主人公で人格高尚、温雅篤実なる君子人であった」とある。大江が『破戒』のモデルであることは周知の事実となっていた。

時を少し戻す。

明治43年9月22日の「日記」に、「午前7時に起きた。メルキュールのEssai sur la sensibilité *contem poraine* (エセ・サン・ラ・サンシビリテ・コントン・ポレンヌ)を訳し始めた。新思潮へ送る筈だ」とあり、10月1日の「日記」には、「今日で、仏論文の翻訳は出来た。近代の感受性論と題して原

稿用紙に三十二枚。十一月号に出る筈になった。和辻君に届けて置いた」とある。

「僕は和辻君が好きだ」と書いた芦田

この「日記」にある「新思潮」とは、東京帝国大文学文科の在学生を中心とする文芸同人雑誌である。小山内薫（劇作家、演出家）によって明治40年に創刊され、翌年に廃刊となったのを第一次とし、明治43年に谷崎潤一郎、和辻哲郎らによって創刊したのを第二次の新思潮としている。この第二次に芦田も加わり、寄稿をした。

「僕八和辻君がすきだ。何故だかしらぬ、唯好きなのだろう」（「日記」明治41年1月27日）と書いているように、芦田は和辻と親しくしていた。「丁字の花咲く頃」と題した私小説を発表するなど、文学青年だった芦田だ。新思潮に加わるのは自然の成り行きだったろう。ちなみに「メルキュール」とはフランスの文芸誌で、芦田は辞書を引かずにフランス語の小説を読めるほどフランス語が堪能だった。

新思潮には藤村も原稿を寄せていた。明治40年に

小山内薫の編集で発行された新思潮の第1号に『春』執筆中の談話」が掲載された。小山内は東京帝国大学に入学した明治36年、藤村と面識を得て、一緒に芝居見物にも出かける仲だったという。藤村は明治43年に発行された第二次新思潮の第1号にも「透谷君の故家」と題した短い文章を寄せている。

芦田の「近代感受性論」をほめた藤村

藤村は、原稿を寄せるなど関わりがあった新思潮に目を通しており、芦田の書いた「近代感受性論」も読んだ。明治43年11月4日の「日記」に、「『新思潮』の三号に出た感受性論を島崎藤村氏が読んで面白いとほめてくれたといふ。自分の好きな人丈にうれしく思つた」とある。

喜びを簡潔に記しているが、実際の心中は深い喜びに満たされたことと察する。藤村の「春」を繰り返し読み、「春をよむ。春はいい。寂しい自分の心持をそそるよう感じる。春を抱いて、湘南の秋をトボトボと歩きたい」（「日記」明治43年7月11日）とまで書いている芦田である。敬愛する作家から評

働されたのだから、その喜びは大きかっただろう。

この新思潮を通じて、芦田は藤村とつながったのではないかと推測する。

ちなみに新思潮は翌44年3月、フランスの作家、フランソワ・コペの作品を訳した芦田の「パンテオンの対話」のために発禁処分となった。3月31日の「日記」で、「微々たるこの私の為したる一片の翻訳が堂々たる大日本帝国の安寧秩序を紊乱するといふので発売禁止の命令に接した」と毒づいている。リベラリストとしての矜持からの皮肉だろうか。

### 藤村の渡欧を世話した外交官・芦田

芦田は大正元年8月、外務省に入省する。

翌大正2年3月12日の「日記」に、「島崎藤村邸から旅券の用事で手紙が来た。すぐ返事を書いて出した」とあり、3月25日の「日記」には「雨がしきりにふつてゐる。九時四十分の汽車で島崎藤村氏がフランスへ発つ。それを見送りに行った」とある。

明治43年に妻を失った藤村は、家事手伝いを頼んでいた姪と過失を犯す。罪を恥じて単身、フランス

へ渡ったのだが、渡欧手続き上の世話を芦田に頼んだようだ。そして芦田は、フランスに向かう藤村を新橋駅で見送る。

昭和20年までの「日記」を読む限り、芦田が藤村と出会っているのは、この見送りの場面だけである（私の見過ごしがなければの話だが）。しかし、柏原中時代に大きな感化を受けた大江をモデルに藤村が『破戒』を書いたことを知った芦田が、そのことを藤村の口からじかに聞こうとしなかったとは考えづらい。文学をこよなく愛し、新思潮を通じて藤村とつながりを持ったと思われる芦田である。フランスへ旅立つ藤村の面倒を見て、見送りまでした芦田である。

手を伸ばせば届く交際圏内にあつた藤村と出会い、二人の共通項である大江について語り合いたいと願ひ、実際にそうしたのではないか。そう考えても的外れではないだろう。

### 「藤村の偉大さを思ふ」と日記に書いた芦田

昭和18年8月22日、藤村は脳溢血のため死去する。

4日後の8月26日の「日記」に、「島崎藤村先生告別式＝青山斎場（朝十時より）藤村の偉大さを思ふ」とある。

芦田ほどの人物ならば、たびたび告別式に参列したと思われるのだが、その類の記述は「日記」にあまりない。それだけに、「藤村の偉大さを思ふ」とまで書いたこの日記の一文は目を引く。自分の恩師を描いた作家、藤村は芦田にとって特別な存在だったに違いない。

蛇足を一つ。「日記」は、芦田が第一高等学校に入学した翌年の明治38年から始まる。その冒頭に「記憶すべき 明治三十五年二月十四日」と書いている。柏原中時代のことである。明治39年11月25日の「日記」には、「頭の中に閃々と輝いたものがある。『卅五年二月十四日！』於是想ハ悉く変じた非常に愉快になつた。こせこせした世の争がつまらないものと悟つた。天空海闊だ！」とある。明治35年2月14日。この日、芦田に何があったのか。ご存じの方があれば、お教え願いたい。



撮影・岡 吉明

# 山ざる研究

## 明治時代の柏原中学生



徳田 八郎衛（浦安市）

### 1 多様な出身地

在校生・卒業生の寄稿や活動報告が混在していた柏原中学校校友会誌から分離して大正4年に同窓会誌が誕生した。それには卒業生の現住所・職務に加え出身町村も記載されているので、生徒の出身地を俯瞰するのは容易である。姫路、神戸、豊岡に続き、洲本、龍野と並んで四番目に誕生した県立中学校であるから、さぞかし多くの生徒が氷上郡外から集まったかと思いがちだが、第1回卒業生23名中、郡外は4名に過ぎない。103名の入学者まで調査すればもっと多いのかもしれないが、阪鶴鉄道開通以前だから郡外からの受験が困難だったことは否

めない。

ところが第2回生では27名中12名、第3回生では37名中19名と急増する。東京や長崎からの遠来組も現れる。そして第8回生は37名中25名、第9回生は36名中20名になる。鉄道開通だけでなく「名声」も上がったのだろう。神戸市周辺からの受験は常連だし、指宿や根室からも入学していた。

当時は、入学直後には1学年2クラスだが、卒業時には1クラスに減る。経済的理由の退学に加え、肺結核やチフス、赤痢等の感染症による死亡も多い。痛ましいが卒業後も訃報は続く。大正3年5月発行の校友会誌22号は、卒業生・在校生合同の最後の会誌であるが、220頁のうち8頁も割いて第9回生（明治43年卒）の首席生徒だった安孫子義治氏（成松町）への追悼文を徳田富二・大槻喬・小寺辰次の同級生3名に実名で寄稿させている。

実名と記したのは、卒業生の大半が〇〇生と軽く記しているからだ。例えば同号には「東都より」と題し「会友 芦田生」が「小生儀近々出発露都大使館へ赴任のことに相成候：」と記している。第3回生芦田均であるが、故穂積博士の論文集を校友会図書へ送ると

結んでいる。後輩に刺激を与えるためであろう。

京都・奈良・伊勢・近江を三泊四日でめぐる修学旅行記を5年生2人が寄稿しているが、京都見物は短時間で、奈良・伊勢・近江に時間を充てている。柏原7時43分発の一番列車で発ち20時13分着の列車で帰還だが、いずれも下級生たちが「万歳」で祝ってくれる。こんな遅くに着いても徒歩で帰宅したのだろうか？宇治山田から乗った急行列車で姫路の中学生と交流し、草津から京都まで同席した英人教師とは英会話を試みる。現代のバス旅行と違う有意義な旅行であった。

## 2 出身町村別の学友団

当時は、出身町村ごとに中央団、校北団、校西団、校南団の四つの学友団が編成され、各々が新入団者歓迎会、蚩狩、松茸狩、卒業生送別会や遠足会（実態はハードな行軍）を実施して上・下級生の親睦を深めていた。中央団は柏原町の生徒たちだ。そこに寄宿舎組も加わっていたが、後に団として独立する。校北団は現在の春日町、市島町。至近距離の旧新井村や旧生郷村は、成松町、佐治町等と共に校西団。旧沼貫村も校西団だ。大名草と朝阪は25キロも離れているのだが…。

第18回生の有田喜一生徒（後に衆院議員）は校西団団長を務めている。校南団は今の山南町である。

旧美和村の永井彰一郎生徒（第12回生、後に東京帝大工学部教授）は母の実家、旧新井村の徳田家から通学したが所属は校北団であった。また各団の背後にある天田郡、養父郡、多可郡等の出身者も最寄りの団に加わった。この学友団は、野球部や理科部、演説部等の学友会と並ぶ重要な自治組織であり、団ごとに卒業送別会の写真さえ残しているが、受験や就職面接の時期でもあり卒業生全員は写っていない。指導教師は監督、生徒の代表は正副団長と呼ばれた。年齢差が大きいので1年生の扱いには気を配った。

学友会誌には各校友団の報告も載っている。校西学友団は、大正2年5月2日（金）午後4時から生郷小学校で春季総会を開き、茶話会では生郷小学校長の有益な談話を聞き、5時半に閉会。また同年6月7日（土）午後6時半から稲畑橋で蚩狩。まず夕飯を喫してから舟を借り、幾万の蚩群の下、清流に掉さして詩を吟じ軍歌を歌う。午後10時散会。そしてここでも元団長安孫子義治先輩を追悼している。



## 3 第9回生の風紀取締り

小人数なので在校時も卒業後も学友の団結は固かった。筆者の父、徳田富二（第9回生）の生徒手帳（日誌兼用）と同級生大西瀧治郎について特に書き残したノートから、明治末期の生徒たちの行動を見てみよう。

昭和30年、旧海軍関係者を中心とする故大西瀧治郎海軍中将伝行会が非売品「大西瀧治郎」を刊行した。自決以後も家族ぐるみで交誼を続けた旧友として徳田も寄稿するよう淑恵夫人に乞われたが、その前の年から日本経済復興のための輸出や技術導入で海外へ出ずっぱりの徳田は、ノートに書き続けた親友の想いを期日までに提出出来なかった。まだFAXも無い時代である。しかし昭和40年、大西の伝記を書くため著述家の草柳太蔵氏が丹波の徳田を訪れた際にこのノートは活躍し、名著「特攻の思想―大西瀧治郎伝」に「真珠湾奇襲は米国人を団結させ、戦略的には大失敗だった」と大西が語った秘話が記された。

このノートによれば、第8回生が大人しいので第9回生は4年生の頃から校内の風紀取締りに当った。昔も今も規律違反の象徴は喫煙と飲酒。ところが4年生から「上級生が違反してるのに」と苦情が出た。そ

こで5年生は学年大会を開き「示しがつかない。違反者を制裁しよう」と決議する。怪しい生徒も含めて数名が「俺は吸ってない」と宣言した後、思いもよらぬ大西が進み出て「俺は吸った。迷惑かけて悪かった。俺を殴れ」と叫ぶ。一人が進み出て殴ると鼻血が出た。鼻血は大西と徳田の共通の症状で柔道の際も困ったという。そこで徳田は腰の手拭で顔面を拭いてから軽く殴った。それに続く者はなく自然解散となった。

寄宿舎生活の大西は、帰宅が待ち遠しい土曜日なのに芦田村へ帰らず、親しい徳田家でホームステイ。他にも二、三人は泊つたらしい。大西は、海軍航空の先駆者となつてからも入港後の貴重な休暇に帰省せず、京都で学ぶ徳田の下宿を訪れ、天皇機関説をめぐり徹夜で論戦を交わす。「君の思想は危険だねえ」と嘆いたと徳田は記す。

昭和16年12月8日、日英開戦により任地のシンガポールで英国官憲に拘束された徳田は、同地の在留邦人と共にインドへ送られた後、外交官交換船・龍田丸に便乗を許されて翌年9月に帰国する。大槻喬東工大教授等の在京第9回生数名が銀座で歓迎の小宴を設けた。海軍航空本部総務部長として多忙な大西少将も

駆けつけ、「俺は真珠湾奇襲に反対して作戦から外された」「あれは大失敗だった」と述べて級友を驚かせた後、「航空決戦の時代なのに艦隊決戦主義の海軍は頑迷固陋。だから今回の海戦もあの始末なのだ」と嘆く。だが帰国したばかりの徳田には、それがミッドウエー海戦を指すとは理解できずジャワでの海戦と記している。

これは日本のジャワ島攻略陸海軍部隊と、それを阻止するオランダ・米英豪の連合軍艦隊との数回にわたる海戦である。「月月火水…」の猛訓練にもかかわらず艦砲射撃は外れ、自慢の酸素魚雷も次々と自爆して日本艦隊は手こずった。最後はジャワ島西部のバタビアで部隊揚陸中の輸送船団に突入され、発射した魚雷で輸送船が何隻か沈み、最高指揮官の今村均陸軍中將も泳いで上陸する醜態であった。帰国途中で寄港したシンガポールで徳田も耳にしていた可能性がある。

#### 4 東京でも続く交流

書籍や雑誌で語られること多い大西であるが、若き日の行動や私生活を記した文は希少だから、ノートが伝える大西を記そう。大西と徳田は、直言で煙たが



写真1 来訪した大西（最前列）と淑恵夫人（前列右から二人目）の姉妹および夫君。徳田（後列右）も妻（前列左）も盛装。

楽しむのかと思ったら、同僚が麻雀セットを借りに来る。そこで大西は十数冊のノートを見せ「高等数学を勉強し、確率論を学んだ。上手く行きそうなら海軍辞めて相場師になるつもりだ」とうそぶく。以前から「貴様は将棋さえやらないから面白くない」と文句を言う大西だからギャンブラーとは想像していたが、相場師願望と正式に聞いて徳田は驚いた。

昭和3年早春に大西も結婚するが、夏の夕方、大西は予告もせずに田園調布の徳田家を淑恵夫人と共に急襲する。今のような冷蔵庫もなく、急な準備で大変

られ、体操では大車輪ができ、音痴で晩婚と共通点が多かったが、大正末期に徳田が結婚すると霞ヶ浦航空隊副司令の大西は新婚の二人を官舎へ招待して歓待する。ハイカラな海軍だからカードで



写真2 制服で訪問した大西

だったが、何とか四人は食膳に向う。通常は静かな大西も酒が入ると自分だけを聞き手に大言壮語を始める。徳田の自由主義的な思想を叱り自己流の日本主義を説き黒田節を唸る。当時の田園調布駅周辺にはタクシーもないから終電までに送り出す必要があるが、上機嫌で中々腰を上げない。三人で後押しして、やっと目蒲線に押し込んだ。大西も嬉しかったのだろう。

秋になると大西は、淑恵夫人の四姉妹と長姉の夫君も帯同して再訪する。迎える側も盛装しているから「不意打ち」ではないようだが、きさくな大西は前列で寝転んでいる。額の包帯は、飛行機乗りにつき物の怪我によるものらしい(写真1)。ところが翌春になると私用なのに制服で訪問した写真がある(写真

2)。丹波から上京中の徳田の母(60歳)も写っているが、大西は後日、中学時代に世話になった母を自分が指揮する特務艦へ手を曳いて案内し、乗組員は彼の

実母だと思ったそう。

その後、大西は海軍航空本部参謀、徳田は商社機械部の航空機輸入主任として公的にも接触する機会が多くなるが、大西は常に私服で来社した。ところがある日突如、制服で来社し理由は秘したまま便宜供与の提供を請う。場所はハワイ。ハワイに支店はないので、大学同期生で銀行に入り早くもハワイ支店長を務めている親友を紹介した。その結果、大西は臨時雇いの漁船員となって米太平洋艦隊の演習を観察するが、どう見ても漁師には見えなかったという。

終戦直後の9月、県知事も参列して大西の村葬が営まれた。胃潰瘍で帰省・療養中の徳田も車で迎えられ、次のような短い弔辞を述べた。「君ならば多分やるだろうと想像した自刃、実に天晴と思う。対米戦争で果たした君の役割は、50年、百年後の史実が君を位置づけるだろうが、まれな経験と知能を駆使して最善の努力を尽くしたことを疑わない。安らかに瞑目せよ」。

今年は大西の没後、77年である。

(満州奉天市生まれ／浦安市在住／元防衛省勤務／(財)平和・安全保障研究所客員研究員)



## ■郷土について書かれた本

## 知ってってけ

## 兵庫丹波地域の方言集

非売品 2021年度丹波OB大学院  
1年生・丹波の方言研究班編著

「よお来ちゃったなあ。さんここに  
しとるけど、お茶でも飲んでないけ？」  
「おつきにやで。ほたら、よっころ  
しよ。」

「まあ だぶとんあててえな。」

こんな「丹波弁おしゃべりコント」  
で幕が開きました。今年2月、丹波O  
B大学院での方言発表会です。

この方言集を目にして、丹波出身の  
皆さんには「郷愁の思い」が湧いてく  
るでしょう。もちろん私達自身も作成  
過程で昔懐かしい言葉を次々と発見し  
とても嬉しく楽しい思いでした。

一方、私達にこんな経験もあります。  
高校を出て進学した頃、各地からの新  
しい友と話す時、自分の方言が妙に恥

ずかしく、あえて共通語を使いました。  
これは「郷愁の思い」とは逆の感覚で  
すね。皆さんはいかがでしたか。

丹波の方言研究班の5人は、結成後  
早速方言収集に取りかかりました。自  
分や周囲の記憶を探り、地域の資料や  
書籍を読みあさり、ランダムに収集を  
進めました。しかし各々の方言に対す  
る思いが違い、また方言集を作る目的  
が曖昧で、この膨大な作業にはやがて  
限界も見え隠れして来ました。

方言集を作る目的を別の観点から考  
えてみました。地域での方言の理解度、  
つまり高齢者の多くが日ごろ母語のよ  
うに使っている方言の現状調査です。

丹波地域の老人ホーム職員にアンケ



ート調査をしたところ、「方言が理解  
出来ず困ったことがある」という回答  
が60%（125人中）もありました。

介護の現場で高齢者の方言があまり理  
解されていない現状があります。一方、  
「丹波弁には親しみ、温かみがある」、  
「方言は無形文化財だ」、「ぜひ丹波の  
方言集がほしい」という意見や期待の  
言葉を多くいただきました。この調査  
結果から老人ホームに方言集を届けよ  
うという明確な目的が見えたのです。

方言は、ただ郷愁の思いの一片とし  
て心の中にあるものではなく、実際の  
生活の中にしつかり生きています。  
このことを念頭に、今後さらに「丹波  
地方の方言集」を活用した活動を考え  
ていきたいと思います。

（冊子はA4版20ページ）

丹波OB大学院

丹波地域の方言研究班代表 野村文男

（ご希望の方は少数ならお分けてきます。

yasui@gembaalab.jp お願い）連絡ください



# BOOKS

## ■郷土について書かれた本

古沢保著

### 風景印百科2021

北陸・東海・近畿

日本郵趣出版、定価2千円＋税

丹波市には集配専門の丹波局（柏原町南多田）も含めて27の郵便局があるが、驚くなかれ、その中の20局に風景印（正式には風景入り通信日付印）がある。その地域の特産物や名所を描いた風景印で、投函の際に申し出たら、これで消印を押してもらえら。「村」ごとのPRに役立つが、神戸市灘区内の各局などは共通の印である。

著者は、街歩きや芸能分野で執筆するフリーライターだが、風景印についても数多くの著作がある。その全国シリーズの中の「北陸・東海・近畿」編で丹波市内の20局も紹介して頂けた。特に賞賛も批判も記されてないが、地元民の筆者が眺めると悔しいことも多

い。

柏原局が「天然記念物・木の根橋」を描くのは判るが、丹波局も同じなのは何故だろうか。丹波市を代表する新しい局なのだから、丹波市を代表する名所・名物（と問われると誰もが困るのだが）を描いてはどうだろうか？ 山南和田局が「葉草薬樹公園」を描くのも正解だろうが、山南町を代表する山南局も同じなのは如何なものか。

また困ったことに「どうせ近所の人だけが見るもの」という思考で、水分だけが見るもの（石生局）、黒井城址も石垣だけが（黒井局）キャプションもないまま登場する。離れた地域の人に判らないだろう。「生野義拳跡（生



野局）や「天空の城竹田城址（竹田局）」のような表示を是非お願いしたい。

（徳田八郎衛）



●石生  
(イ)  
669-3464  
丹波市水上町石生770-3  
新規使用(1986) 61.12.1  
水分れ橋、高谷川上流風景



●氷上沼  
(ヒミヅ)

669-3634  
丹波市水上町沼角濃250  
新規使用(1987) 62.5.1  
五台山、独結の湯、ツツジ



●青垣  
(アヲキ)

669-3899  
丹波市青垣町佐治626-2  
新規使用(1977) 52.11.24  
熊形文化財・鶴三養堂、モミジ、青垣町



●春日部  
(ハルヒ)

669-4123  
丹波市春日町多利1745-3  
新規使用(2001) 13.1.1  
日ヶ奥深谷・白龍の滝、野々園遺跡出土銅鐸、特産・ナシ、クリ



■会員が書いた本

平野隆彰 編著

丹波発 次の生き方としての

「田舎」——田舎は最高Vol.2

あうん社 ¥14000+税

「丹波発」を冠する本書は、丹波にイターンやUターンした二十人のエッセー集である。イターン組が圧倒的に多く十四名。Uターンは代々の家業を継がれた方達含め六名である。

陶芸や丹波布、弓道、能楽、映像など諸々の文化を丹波から発信している人群にはイターン組が多い。蕎麦打ちや和菓子、農業など丹波の根幹である第一次産業の食に携わる人達には、食農を通じて教育事業などを展開する人もあり、この群にはUターンとイターンが入り交じっている。建築や地縁を活用して地域おこし、村づくりを展開する人達も拮抗する。文筆で地域と繋がる二人はイターン組で、各々その内

容と活躍は多岐に渡っている。

帯文「空間・時間・自然」の豊かさと共に 自分のモノサシで生きる—多・土・濟・々—にすべては尽きる—のであるが、読み進めている内に「布の柄を考える時私は空を背景にした風景からインスピレーションをもらう」（丹波布・イラズムス千尋氏）、「地域の中に居場所が増えていくことを楽しんでいた」（建築・出町慎氏）、「田舎という自然との共生の中で営まれ培われてきた文化は、生活の中に染み込まれだ匂いがあり」（和菓子・柳川拓三氏）、「この家を大切にしたい」（工務店・由良俊也氏）などなどのフレーズが琴線となり、ある言葉が甦ってきた。

数十年も前のこと、丹波下滝で生け花を教わった師匠は九十歳をゆうに越された折、「こうして元気に毎日過ごせるのは生け花があつてこされ」とゆつくり言葉を紡がれた。ふる里ありてこされ、親ありてこされ、友ありてこされ、である。二十人すべてのエッセーに、丹波人にはピンピンと響いてくる「こされ」のところが通奏低音となつているのではなからうか。「隣人の田中さんに毎朝夕のご飯や、さまざまなノウハウも教えてもらったお陰（農園・竹岡正行氏）「ネタに困つたらいつでも言いや」（新聞・森田靖久氏）にも深く低く流れている。テクノロジーの進化でインターネットやSNSなどが駆使できるのも、現代版「こされ」であろう。

一つ、このジェンダーフリーの世に、女性執筆者が三人であることは誠に勿体なく、女性活躍の「丹波発」三巻目を期待しよう。

（原谷洋美）





## MOVIES

### ■郷土が舞台になった映画

監督・脚本…近兼拓史

### 恐竜の詩

製作・映画「恐竜の詩」製作委員会

2018年に丹波を舞台にした映画が全国公開されました。丹波で発見された恐竜の化石を地方再生のカギにしようとして市役所に「恐竜課」ができて、奇抜なアイデアで資金集めに奔走します。丹波に移り住んだ一家の長女、高校生のカリンは丹波に何を見たのか。痛快、コミカルそして胸が熱くなる秀作に三人の視聴者が感想を寄せてくれました。

「丹波を愛でる」

(石橋順子)

1963年12月15日(土)晴れの日  
の午後、私は水上郡青垣町の地に初めて足を踏み入れた。わが丹波生活は青垣町で始まり柏高へと続く。「恐竜の詩」は美しき丹波の風景をこれでもかと洪水のように与えてくれる。丹波人

の優しさは、新しい人や物を受け入れる許容能力の大きさ、心の広さにある。豊かな自然と連綿とした歴史が醸成したものと思われる。

故郷を持たない私が、丹波を故郷に持つ丹波人の人々に包まれ、古希を超えた。この映画を観て、更に丹波を愛でたくなった。

「丹波の宝」

若松 操 (青垣町出身)

「恐竜の詩」は私が生まれた山南町の恐竜発見から街おこしの顛末を描いた映画である。

主人公のカリンが「丹波は山がまるいねん。おまんじゅうみたい」と言うように、丹波の人もまた穏やかで丸っ



こい人柄が感じられ、私が丹波から50年経っても気持ち離れない大きな理由だ。

丹波三宝は丹波栗、黒豆、大納言小豆と言われるが、プラス豊かな自然に人の優しさが加わって五宝としたい。同郷の方は頷いてくださると思う。

「日本の宝」

金川和世 (山南町出身)

かつて、機上から見た緑豊かな日本列島の美しさを、感動的に話してくれた中国の若者がいた。日本人として嬉しく、誇らしくもあったが、後ろめたさもあった。戦後日本人はこぞって都会を目指し、美しい故郷の山々は荒れた。自然を壊し大都市を造る時代は過ぎ去り、これからの先進国に必要な条件は、自然を大切に、共生出来る社会。この映画の主題は、まさに優勝した柏原高校女生徒の発表に収斂されている。丹波にはもう何も無いとは言わせません。藤原ひさ子 (山南町出身)

◆足立 晴夫・ひろ子

5年前に夫婦での四国巡礼を思い立ち、毎年1つの県を踏破してきましたが、満願となる4年目(去年)に新型コロナウイルスの感染拡大があり、今年と合わせて2年も足踏みをしています。来年こそは満願をかなえて総本山である高野山の金剛峯寺にも行きたいです。

◆井徳 正吾

今年度で大学も定年退職となります。今後は個人事務所を設け、細々と仕事をしていく予定です。

◆大塚 秀式

柏原高校1年の3学期に大阪の豊中高校に転校して以来、大学は東京、途中で会社を退職し埼玉県の中学校の教員となり、館林に住むようになり今日に至りました(何度か「山ざる」に投稿させて頂きました)。何もなく82歳になりますが、いまだに何かにつけ故郷を思い出し家族に笑われています。

いつも「山ざる」の編集委員の皆様にご感謝しています。今後ともよろしくお願いたします。

◆木呂子 恵美子

先日は立派な「山ざる」をお送りいただきありがとうございます。足の痛みに加えて83歳にして難病が加わりお礼が遅れて申し訳ありませんでした。長い間色々ありますがございました。最後に出席した同窓会では大勢の皆様と応援歌を大合唱、感激しました。

◆久呉 道子

平成20年2月夫松二が93歳で逝き、2年間家を守りましたが家が大きすぎて無理故、住んで下さるお人に売却して熱海へ(ナース常駐のマンション)。そこで12年経て、現在の特養ショートステイに長男宅より通い、ようよう只今特養老人ホームに入居、頭の体操と趣味の為うぐいす誌を続けさせてくれています。57歳で大動脈硬化石灰化の

指摘を抱えたままの今ですが、精神的な弛みと長男夫婦の快い孝心に感謝の毎日です。

◆近藤 利春

今日「山ざる」が届きました。寄稿とマイギャラリーが掲載され、この52号は、私の記念版になりました。ありがとうございます。コロナで「ふるさとの会」の中止は残念ですけれど、感染対策など気をつけてお元気でお過ごしください。今年もコロナで過ぎゆく感じですね。若い頃、プラスチックは成形しやすく超便利な素材ともてはやされました。ところが今のままでは海の廢プラは魚より多くなるそうです。人類にとって良さそうなものでも後になって問題に気づくことって結構あるものですね。独り言でした。みなさまお元気で過ごしてください。

◆藤田 徹

家じまいを決意して茨城の長女の近



くに越しましたが、仕事なく知り合いもなく、結局海鳴りの街をあきらめて丹波に戻りました。鳥の声、松籟、丹波弁、やっぱり田舎がえーわー。

◆堀井 隆川

「山ざる」第52号の「祝寿の方々」紹介欄には、長々とした文面を書き連ねたところ、そのまま掲載していただき恐縮千万に思いました。会合（親睦会）等には、土日開催ということ、こちらの都合と重なり合い、出席できずにおります。呉々も皆様方によるしくお伝え下さい。あと数年の内には後住に席を譲り（晋山式執行）名誉住職の席に就くこととなります。目下その準備をしております。

◆山口 敏之

オランダから帰国し、ようやく一年が経ち、長年のオランダ食で痩せこけていた舌もようやく普通並みに（肥え？）戻ってきました。やはり日本の

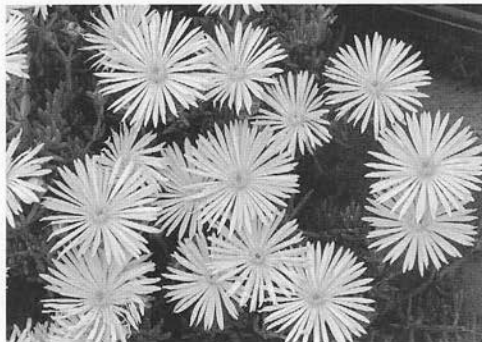
食文化は素晴らしい！

◆吉見 弘文

2年連続で郷友会や同窓会が開催できないという異例の事態で残念に思っています。一日も早く事態が収束した皆様とお会いできる日が来ることを願うばかりです

◆若森 敏郎

10月11日に父が死去いたしましたのでご連絡いたします。95歳と長命でしたが、最後は老衰で亡くなりました。長い間お世話になりましたがとうございました。（長男若森英郎）



撮影・岡 吉明

令和5年度こそは総会・懇親会の開催へ

柏陵同窓会東京支部の支部長を務めさせて頂いています谷と申します。今年もご挨拶の機会をいただきまして、恐縮です。よろしくお願いいたします。

出身は柏原町でございます。生家は柏原の町内で兄が書籍業を営み、皆様に長い間お世話になりましたが、今年の3月末をもちまして事業を閉じさせていただきます。どうも有難うございました。

なぜこのような自己紹介から始めさせていただくかと申しますと、東京支部の会員の皆様との接点でございます。支部の総会・懇親会がコロナ禍の影響により3年間も開催出来ておりません。毎年7月に開催しておりました学生会館の懇親会場では、「お兄ちゃんどうしている?」「妹さんは?」「お母さんは元気?」などの家族の話題から同級生やクラブの仲間たち、また丹波

の地元町内の皆様方の話題にまで、テーブル毎に、またテーブルを越えて語り合い交歓する機会として懐かしい丹波弁が飛び交っていました。

総会・懇親会には、東京支部の会員だけでなく本部をはじめ阪神・京滋・東海・篠山の各支部の皆様にも大勢ご出席をいただいております。150名を超える皆様は、学年と地域の垣根を越え丹波弁で会場は溢れんばかりの熱気で包まれ、そうしたエネルギーの集大成が母校校歌の斉唱と応援歌の熱唱でしょう。

同窓会支部の事務局といたしまして、会員の皆様に東京のこのような素晴らしい会を3年も続けて提供できずにいることに申し訳ないと感じています。コロナ禍を恨めしいと思いつつ振り返りますと、少しずつ事情が異なってきたように思います。

令和2年度は、年初の予期せぬコロナ禍の発生を経験いたしました。日本中が詳しい事情も掴めぬまま蔓延を防ぎ早期の終息を願いながら、ほとんどの内外の企画が中止されました。そうした中止事業の最大のもは東京オリピックの延期でしょうか。

2年目の令和3年になると少し知恵が付き事情も分かりつつありましたが、なかなか大きな会合を主体的に再開する勇気が持てずにはいました。勿論、企業などでは、リアルとリモートの組み合わせなどによる活動も徐々に再開され始めましたが、同窓会ではそうもいきません。学生会館では、企業の大きな会合が稀に開催されたとしても、飲食の提供無しが一般的となり、兵庫県人会などでも、大半の同窓会が総会などの再開には二の足を踏み、柏陵同窓会も例外ではありませんでした。

3年目の令和4年を迎えるにあたり、東京支部ではオンラインなどの活用による従来とは少し異なった総会・懇親

会の運営に期待感を持ち始めていました。コロナ禍の終息を待つだけではなかなか前に進めませんので、試みとして東京支部独自の活動として、パソコンのZOOM機能を活用した「東京ふるさとセミナー」と銘打ったオンラインの講演会を企画、支部会員への情報提供として軌道に乗り始めていたからです。

初回の2月から5月、9月とすでに3回のセミナー開催をいたしておりましたので、ご参加いただいた皆様も多いのではないかと思います。

2月は初回にふさわしく母校の現状紹介をテーマに、柏原高校の大垣校長先生や現役の生徒会の皆様にご紹介の労をお願いしました。また大西同窓会長には、同窓会の今後の活動計画についてご紹介をいただきました。

2回目の5月は、卒業生でご自身もUターンをされた小橋丹波市議会議員に、変化する丹波市の現状をUターンやUターンの視点からご紹介いただき

丹波市に夢をはせた質疑が飛び交いました。

9月はぐつとアカデミックに「チバニアン」の成果発表です。同じく卒業生で、千葉県立中央博物館で地質学の研究を続けていらつしやる奥田主任上席研究員の成果発表を楽しみました。

これからもバラエティ豊かなテーマを企画し、皆様に楽しんでいただきましてご期待下さい。東京支部のホームページに今後の予定なども順次掲載して参ります。

それでは本題の支部総会・懇親会ですが、こうしたオンラインの活用による同窓生の交流が実績を積み重ねれば積むほど、冒頭にご紹介いたしました膝を交えて交歓する懇親会本来の楽しさが得られない物足りなさに気づくことになりました。皮肉なことかもしれませんが、それが同窓会の懇親の楽しさなのでしょう。

こうしたことを話しあう中では、三密を避けた懇親会開催を見つけれず、

令和4年も残念ながら中止とさせていただきます。力及ばず申し訳ございません。

令和5年度の東京支部総会は、7月9日(日)に学士会館の開催を予定しています。「ふるさとセミナー」の発展と総会・懇親会の再開を支部活動の両輪とし、オンラインの併用なども含め何とか再開への糸口を見つきたいと思えます。

コロナ禍の動静と世の中の動きに沿う一方で、同窓生の皆様のご意向も伺いしながら開催の要件を探ってまいります。引き続きのご支援を宜しくお願い致します。

(柏陵同窓会東京支部長 谷 敬三)



「2月11日に開催された第1回  
柏陵東京ふるさとセミナー」  
の様子

## 丹波市生まれの新十両、 千代栄関にインタビュ

●「丹波で後援会をつくってもらったら、めっちゃ嬉しい」

丹波市春日町七日市生まれで、九重部屋の千代栄関(32)(本名・岸栄太)が、初土俵から13年、日本相撲協会の名古屋場所番付で新十両に昇進した。場所では誕生日に初日が出て9勝6敗の好成績。新十両の関取にインタビューした。

兄と姉が柔道に打ち込んでいた関取は3歳から柔道を始める。中学は強豪の三田市藍中学校へ進み、県大会で優勝した。高校は柔道で福知山市の共栄学園高校と決まっており、近くの中学へ転校。入学前から高校で柔道に励む。高校では団体にインターハイに出場した。そんな柔道一直線から相撲界入りの理由を聞くと「高校の柿原功二先生から『身体も大きいし相撲もあるぞ』と言われ、柔道推薦の大学もありました



名古屋場所の番付表を持つ千代栄関 (九重部屋提供)

が、親に面倒かけず、身体で勝負できる相撲に行こうと思いましたが」と話す。そして、十両昇進まで13年。「いやあー長かったっすね」と関取。次負け越したら三段目に落ちるところで、「そろそろ限界かな」と母親に連絡すると「『やれるだけやって、帰ってくればいい』と言ってくれ、『やれるだけやる』と決め、ふっきれました」と思いを語った。

相撲部屋の生活は、朝6時半から11時頃まで稽古し、午後は自由時間。10時半には消灯で就寝するそうだ。「おかげもちゃんこ、鍋もちゃんこ、なんでもちゃんこです」という食事では、



稽古中の千代栄関 (九重部屋提供)

食べ物が美味しいこともあり、入門時129キロの体重が、3年で154キロまで太ったという。「人としやべるのが好き」な関取に、趣味は？と聞くと「趣味にのめりこむ暇があったら、相撲をやっていた方がいい」と話す。

今後の目標は「幕の内上がり、幕内力士が座る自分の座布団で相撲を取りたいです」と関取。出身地福知山市では後援会ができてつつある様だが、「丹波市でも後援会をつくってもらえたら、めっちゃ嬉しいです」と話す。場所中のテレビ解説では「若々しい相撲」と評されていた。是非、幕の内入り目指して頑張ってほしい。皆さん、応援しましょう。

(近藤利春)

◎寄附者芳名(2021年度)

岸本	勲様	二〇、〇〇〇円
金出	武雄様	一六、〇〇〇円
鈴木	和美様	一〇、〇〇〇円
廣内	卓生様	一〇、〇〇〇円
藤井	栄藏様	一〇、〇〇〇円
形田	恒夫様	八、〇〇〇円
山口	敏之様	八、〇〇〇円
吉見	弘文様	八、〇〇〇円
谷口	浩章様	七、〇〇〇円
上	高子様	五、〇〇〇円
大野	義昭様	五、〇〇〇円
金出	一郎様	五、〇〇〇円
谷口	捷様	五、〇〇〇円
堀井	隆川様	五、〇〇〇円
赤井	正洋様	三、〇〇〇円
足立	和孝様	三、〇〇〇円
足立	敏昭様	三、〇〇〇円
足立	義雄様	三、〇〇〇円
石橋	昭彦様	三、〇〇〇円
石橋	順子様	三、〇〇〇円
上野	忠明様	三、〇〇〇円
内田	めぐみ様	三、〇〇〇円
大塚	秀式様	三、〇〇〇円
梶原	やす子様	三、〇〇〇円

絹川	正様	三、〇〇〇円
木呂子	惠美子様	三、〇〇〇円
坂上	勝朗様	三、〇〇〇円
坂上	豊様	三、〇〇〇円
島津	和子様	三、〇〇〇円
杉本	明美様	三、〇〇〇円
勢	正彦様	三、〇〇〇円
高見	秀史様	三、〇〇〇円
田村	公平様	三、〇〇〇円
千葉	淳子様	三、〇〇〇円
塚口	智様	三、〇〇〇円
鶴田宏・ゆき子様		三、〇〇〇円
徳舛	雅孝様	三、〇〇〇円
十倉	忠司様	三、〇〇〇円
野垣	有様	三、〇〇〇円
野村	節三様	三、〇〇〇円
橋本	真二様	三、〇〇〇円
林	進様	三、〇〇〇円
原	利充様	三、〇〇〇円
藤田	純様	三、〇〇〇円
藤田	千治様	三、〇〇〇円
細見	充彦様	三、〇〇〇円
三輪	香子様	三、〇〇〇円
安井	孝之様	三、〇〇〇円
柳川	拓三様	三、〇〇〇円
井出	恭子様	二、〇〇〇円

橋本	俊宏・清美様	二、〇〇〇円
本城	英明様	一、五〇〇円
足立	武夫様	一、〇〇〇円
足立	東一郎様	一、〇〇〇円
足立	美都子様	一、〇〇〇円
足立	知佳子様	一、〇〇〇円
荒木	輝雄様	一、〇〇〇円
飯田	光雄様	一、〇〇〇円
稲岡	俊一様	一、〇〇〇円
井本	京子様	一、〇〇〇円
白井	元弘様	一、〇〇〇円
大坪	則夫様	一、〇〇〇円
柿原	康一郎様	一、〇〇〇円
影山	一恵様	一、〇〇〇円
粕谷	迪子様	一、〇〇〇円
葛谷	理俊様	一、〇〇〇円
小林	和子様	一、〇〇〇円
正呂地	悟様	一、〇〇〇円
谷垣	浩樹様	一、〇〇〇円
富田	貞子様	一、〇〇〇円
西川	宣孝様	一、〇〇〇円
安原	三智子様	一、〇〇〇円
山口	泰男様	一、〇〇〇円
山本	述子様	一、〇〇〇円
余田	幸夫様	一、〇〇〇円

YOKOHAMA

タイヤは、  
雨で  
選ぼ。



雨でもよりちゃんと止まれる  
ウェットグリップ性能グレード「a」のタイヤ

業界初  
380  
サイズ

突破  
※2022年6月時点



RV552には一部「a」ではないサイズがございます。詳しくはカタログ、WEBをご覧ください。



❖ 本誌にご協力有難うございます

## ○ 損保ジャパン

SOMPO Innovation for Wellbeing

「安心でいたい」

「安全でいたい」

「健康でいたい」

それはきっと、誰もが抱く切なる願い。

そして私たちの願いは、

人々の普通の想いに寄りそう、

パートナーであり続けること。

変化の先を常に予想し

捉えることは、私たちの使命。

「最高品質のサービス」で、

すべての人にお応えします。

# 保険の先へ、挑む。

損害保険ジャパン株式会社 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 Tel:03-3349-3111 <https://www.sompo-japan.co.jp/>

## ひょうご出会いサポートセンター

婚活を兵庫県がサポートします。



NPO法人アジアの新しい風 理事長代行  
<http://www.npo-asia.org>

## 上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414  
TEL / FAX 03-5426-6714  
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

コロナ禍ゆえに留学生がほぼゼロの2年半。ZOOMによるオンライン交流で現地の学生たちとつながり、なんとか凌ぎました。お陰でかれらの日本語会話力がかなり進歩したように思えます。日本に向いている彼らの芽を摘むことなく、日本語サポートをして行きます。ぜひ入会してサポートをお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。

時代を経ても変わらない  
深い味わいと穏やかな香りの純米酒  
そして、現代の  
酒造りの粋を極めた  
純米吟醸酒・純米大吟醸酒を  
中心に仕込んでいます

丹州氷上之地酒

# 奥丹波

地元兵庫県の酒米と神地寺山伏流水を用いた  
古式和釜、三段仕込み、槽搾りの創業以来  
ほとんどスタイルを変えない伝統的な  
仕込み方法と、江戸時代より続く  
寒仕込みにこだわる



創業江戸享保元年

山名酒造株式会社

TEL 0795-85-0015  
<http://www.okutamba.co.jp>



❖ 本誌にご協力有難うございます

山あれば  
川がある  
ふるさとよ

山にきつね  
川にごんろく  
ふるさとよ

まだ居るか  
ふるさとよ

ふるさとを離れたあなたに、ふるさとの土の匂いを伝えます。

**丹波新聞社**

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201  
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

E-mail [tanba@tanba.jp](mailto:tanba@tanba.jp)

丹波新聞

検索

ご購入はコチラから⇒



あなたの町の「石屋さん」  
そんな石屋をめざしています！！

墓石・霊園・建築石材・造園石材

**(株) 丹波総合石材**

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和 36 年卒

いしやは ここよ

**☎ 0120-1480-54**

事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>



## 今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送  
データ入力等の情報処理、コールセンター、  
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

——— いつでもよりよいサービスを ———

# BSS

## 株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉市花見川区宇那谷町 1501-2

TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865

<http://www.beterservice.co.jp>

e-mail：kinugawat@beterservice.co.jp

## 関西丹波市郷友会会報

# たんば

 第7号

(11月発行予定)

郵送料のみご負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会

会長 公江 茂  
副会長 大槻 佐知子  
副会長 芦田 敬一  
副会長 田 晴行

〒669-3309

丹波市柏原町柏原1747-2

TEL.090-3623-6903

FAX.0795-73-0198

事務局 山中 邦雄

❖ 本誌にご協力有難うございます

## 丹波と東京を繋ぐ丹波のコンセプトショップ 丹波の心を伝える **丹波いん**



春日局様の生誕の地「丹波市春日町」と、  
眠る地「東京都文京区」を繋ぐ丹波のコン  
セプトショップとして平成30年9月に

「丹波風土 東京春日店」を開業いたしました。弊社は丹波市春日町で  
丹波の栗・黒豆・大納言小豆を中心にした加工品を製造し、更にその  
加工品と丹波産の卵、牛乳、米、酒、フルーツ等を使った和洋菓子を  
製造販売しています。今後丹波ブランドを守り広げる為に、田舎の  
生産地と東京の消費地を結ぶ役割が担えたらと思っています。関東水上  
郷友会の皆様にも是非ご利用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 **やながわ** 兵庫県丹波市春日町野上野209-1



風  
丹  
土  
波  
東京春日店

〒113-0033  
東京都文京区本郷1丁目35-26  
ラレーブ文京本郷ビル1階  
TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線 三田線 東京メトロ 丸ノ内線 南北線  
「春日」A1・A2出口より徒歩 「後樂園」4B出口より徒歩5

**DTP 制作**  
**ダイワコムズ**

〒351-8508 埼玉県朝霞市北原2-14-12 東京印書館 朝霞台事業所内  
TEL : 048-423-6318 FAX : 048-423-6319  
E-mail : dtp@daiwacoms.co.jp

### 郷友の皆様へお願い

▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快よく、その気がねのない交りは、互いに清新なはげみと呼びおこします。そんな仲間のひろがりやを、この小誌は求めつづけます。

▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会員ですから、登録のない方や住所変更等がありましたらぜひお知らせください。

▼関東水上郷友会は、すべて有志のボランティア活動によって運営されています。『山ざる』誌や通信費等の資金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によって支えられています。

▼広告料は名刺広告五千円、半頁広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お願い致します。  
▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源です。同封振込用紙にてお振込みください  
よう願ひ上げます。

▼これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないとうらやましがられるたびに、“丹波のきずな”の強さを思います。

(山ざる編集部)

医療法人社団 順孝会 理事長／医学博士  
順天堂大学眼科 非常勤講師

足立和孝

〒347-0015 埼玉県加須市南大桑一六二〇一  
TEL 〇四八〇一六五二五九八八  
FAX 〇四八〇一六五二六〇九七  
E-mail: kazu358@pastel.ocn.ne.jp

株式会社ナレッジリンク  
足立国際会計事務所

代表取締役  
税理士・米国公認会計士 (Certificate)

足立知佳子

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘一三三四UIW11自由が丘ビル六〇二  
TEL 〇三三七一八一八〇四七 FAX 〇三三七一八一八一四七  
E-mail: cadachi@ata.gr.jp

足立静雄

神奈川県立高校英語科講師  
英検一級、全国通訳案内士（英語）

石橋順子

E-mail: ykmarch@ab.cyberhome.ne.jp

PCC大洋

岡吉明

〒351-0014 朝霞市膝折町四一四一三〇  
TEL 〇四八一四六〇一六〇一  
FAX 〇四八一四六〇一三九九七  
http://www.pcc-taiyo.co.jp

岡田昌子

岸  
田  
勇

上  
武  
正  
次

金  
出  
一  
郎

坂  
上  
明

にれの木20  
(20回生部会)

木呂子  
惠美子

仲  
一  
聰

坂  
上  
豊

坂  
上  
勝  
朗

谷  
口  
浩  
章

谷  
敬  
三

柏陵同窓会東京支部 支部長

東京都 豊島区池袋本町四―二―十七  
TEL 〇三―三九七―七八二六  
携帯TEL 〇八〇―三三九九―七二四七

高  
見  
秀  
史

いい眼りのためのNPO法人…  
SASネットメールマガジン  
magazine@sas-j.org をご覧ください。

鶴田 宏

エネクスフリース株式会社  
執行役員 広域・法人カード部長

土井 聖 司

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原一―一―三  
SORA新大阪21ビル17F  
電話 〇六―六三五〇―五五七六

日本舞踊 西崎 祥  
端唄 根岸 妙

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六―九―七二二  
電話 〇九〇―九九七七―七七九三

株式会社 埼玉りそな銀行 桶川支店  
支店長

西出 達 郎

〒363-0013 埼玉県桶川市東一―一―一十八  
TEL 〇四八―七七三一―一四八一  
FAX 〇四八―七七三一―九五四二  
<http://www.resona-gr.co.jp>

西山 裕 三

〒669-4302 兵庫県丹波市市島町  
中竹田 一 一七 一

かおりよし農園  
こしひかり他主食用米・紫黒米・雑穀米・生産販売

田 中 忍

〒669-3642 丹波市氷上町香良三二三  
電話 〇九〇―二五九四―〇七四六



原谷洋美

エネクスフリート株式会社  
関東支店 支店長

川端政成

〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央一―一二千  
久喜駅前西口再開発ビル五階五〇九号  
電話 〇四八〇―二九―一〇六〇

株式会社 メイク

代表取締役

広瀬寿和

〒160-0003 東京都新宿区本塩町二十三第二田中ビル  
電話 〇三―三三五四―〇二二一  
FAX 〇三―三三五四―二二二一

青葉山 真照寺 都立八王子霊園隣り  
八王子 青葉霊苑 第二期墓地分譲案内中  
和合廟(永代供養墓)受付中

住職 堀井隆川

〒193-0821 東京都八王子市市川町四九三―一二  
電話 〇四二―六五二―二〇一一  
FAX 〇四二―六五二―二〇三三

藤原ひさ子

Gemba Lab 株式会社

代表 安井孝之

〒278-0031 千葉県野田市中根二二八―一〇

集	記
編	後

★編集作業にかかわるのは勤め人時代の英・独・日、三か国語のグループ社内報の編集長時代以来でしたが、やっぱり楽しく、来年が楽しみです。(山口)

★この頃頭に浮かぶのは「無茶苦茶でござります」とか、「無理が通れば道理引っこむ」とか、子供の頃によく耳にしたフレーズ。人間は崇高なところもあるけれど、エゴの固まりみたいところもあって、自分自身ですら平常心を失いそう。こんなとき、芯になる信条があればいいのか、アミーバーみたいな柔軟な思考がよいのか。(上)

★高齢者医療関係の職場に勤務していたこともあり、祝寿のコーナーを担当。今年で39年。皆様のご協力に感謝しています。(本城)

★ど素人編集長歴12年は楽しみながらのあつという間でした。関係者皆さまご支援の賜物であり厚くお礼申し上げます。53号からはプロの凄腕安井編集長にバト

ンをパス。高軒で眠れます。今後も会員皆様多数のご参加を願いながら。(岡田)

★千代栄関インタビューは、初めてで見当もつきませんでした。安井さんアドバイスのもと、なんとか記事が書けてホッとしていきます。千代栄関の星取りを大相撲中継で毎日観ました。(近藤)

★郷里を出て20年。拙宅で関東クラス会を催したら郷里から空路で参加の友もいて感激。その友が帰宅後の電話で「アイツ未だ居るの？追い出せ」。だが親から大西さんの話を聞いていたから至福の時に浸る旧友を邪険に放り出せませんでした。(徳田)

★五月末、久し振りの墓参りは丁度、村の溝普請の日だった。鍬を担いだ老若男女に見知った顔もあり、ついつい父の俵を探していた。豊かな水をもらった八月の稲田は穂ばらみの頃だろう。(原谷)

★今年知った新たな世界。全国通訳案内士の資格は日本文化を知る入り口。丹波を撮った「恐竜の詩」で映画製作の何たるかを知る。「連句」に初挑戦。助詞一

つで情景が変わる日本語の摩訶不思議。(石橋)

★12年編集長を務められた岡田さんからバトンを受け取りました。ようやく53号の編集後記を書くばかりとなり、ホッとしております。岡田さんから過去の編集長のご尽力には頭が下がります。多くの方の寄稿に支えられている「山ざる」です。引き続きのご貢献をお願い申し上げます。(安井)

山ざる 第53号 定価500円

令和四年十一月一日発行

委員 井徳正吾 石橋順子 上高子  
岡吉明 岡田昌子 近藤利春  
坂上勝明 徳田八郎衛 原谷洋美  
藤原ひさ子 本城英明 安井孝之  
山口敏之

発行者 関東水上郷友会会長 岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東水上郷友会事務局(岡吉明)

☎048(四六六)1601

振替00110131133330

製作 株式会社ニ玄社

編集協力 ダイワコムズ

毎日の運転に、  
もっと「安心」を。



**南関東日野自動車株式会社**

本社:東京都港区新橋5丁目18-1  
TEL 03-3578-3955(代表)



附録DVD: コンピュータ上で全頁閲覧可能!

B5判変型 (260×190mm)・上製布貼表紙・函入・総3056頁 ● **52,800円** (10%税込)

書体字典の最高峰。未曾有の21万字収録!

# 大書源

[全三巻+索引冊]  
DVD、書道史年表附録

二玄社編集部 編

殷の甲骨・金文から清末の齊白石まで、あらゆる時代の様々な書体に加え、飛鳥から平安に至る日本の名跡も収録。21万を超える史上最多の字例を収めた書体字典の決定版。附録のDVDに全頁のデータを完備。

書写教育の第一人者による手本。

## 美しい毛筆の 書きかた

宮澤正明 著

B5判・208頁 ● **2420円** (10%税込)

日常の文字まで綺麗になる毛筆文字の学習ガイド。著者による手本を元に、基本点画の徹底した練習と、字形の整え方のポイント指導の実践を積み重ねる。どこでも手軽に練習できる水書用紙が付録。

- 家庭で子どもに教えられるよう、「基本点画の書き方」を徹底解説。
- 日常に即した例文で、はがき・手紙などの書き方をマスター。
- 全ての常用漢字 (2136字) を指書の毛筆文字で一覧表化。



株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>